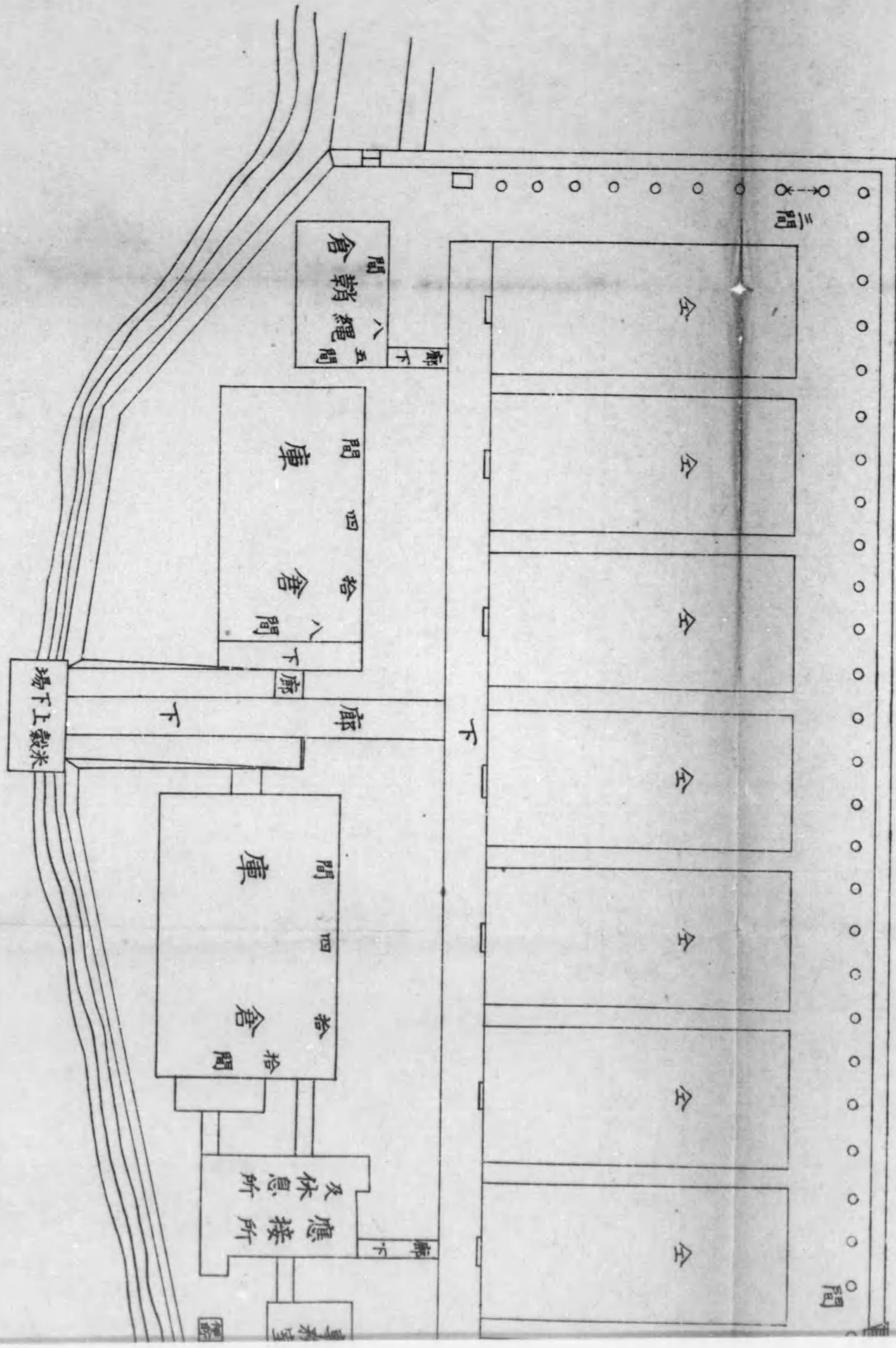
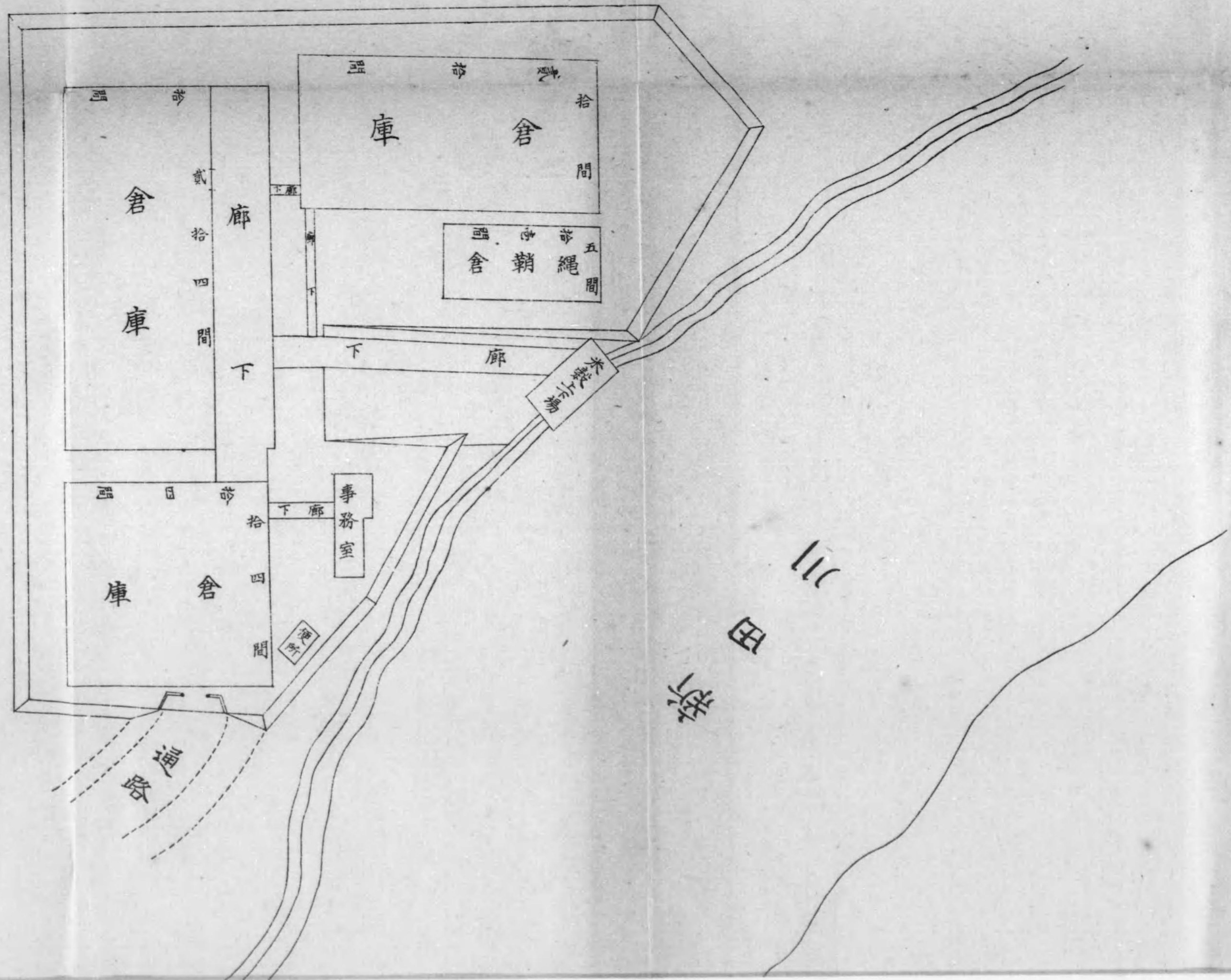


新田川



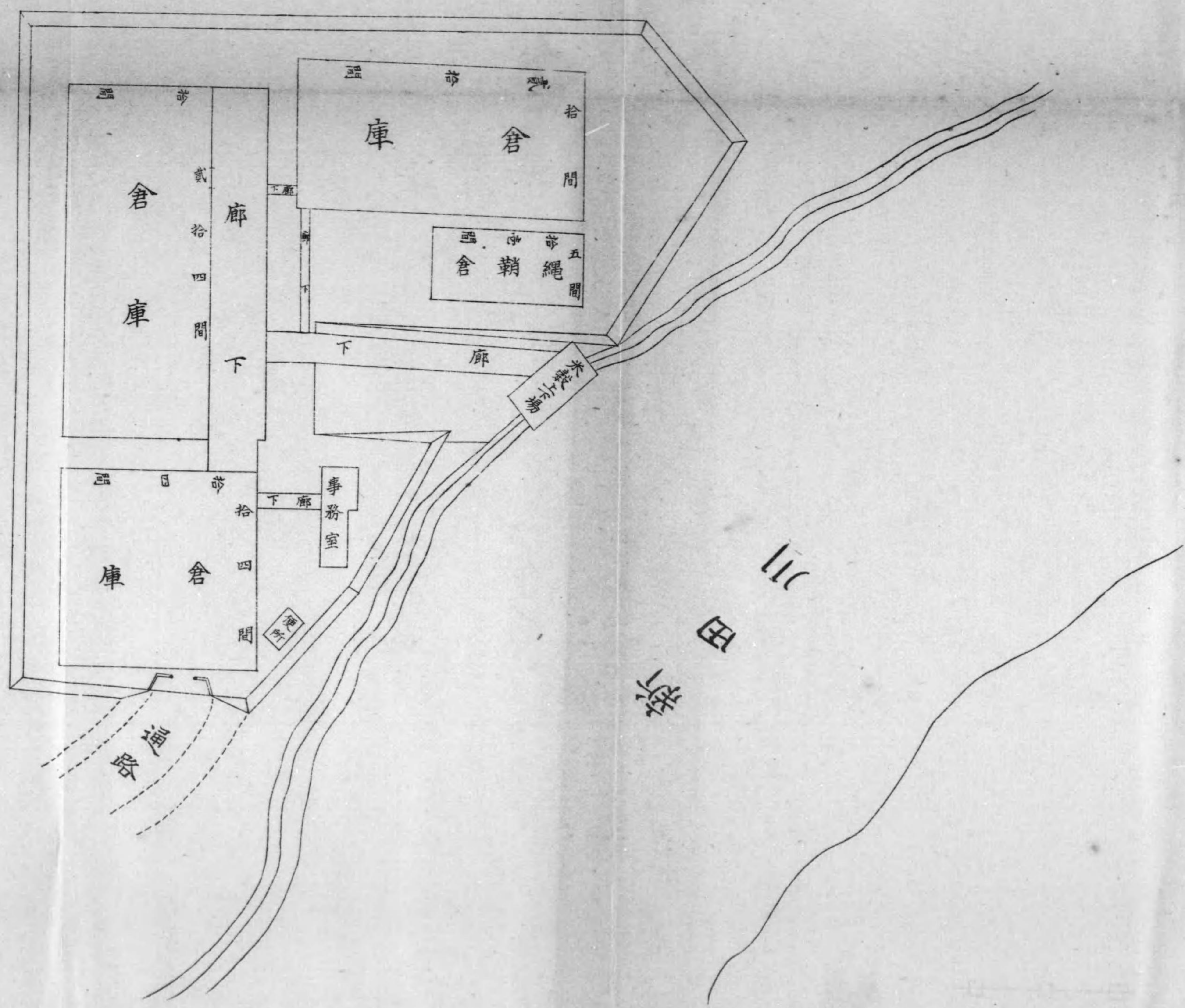
株式會社 酒田米穀取引所山居倉庫圖面

短縮尺六百分之壹
但シ壹間ハ壹分之曲尺



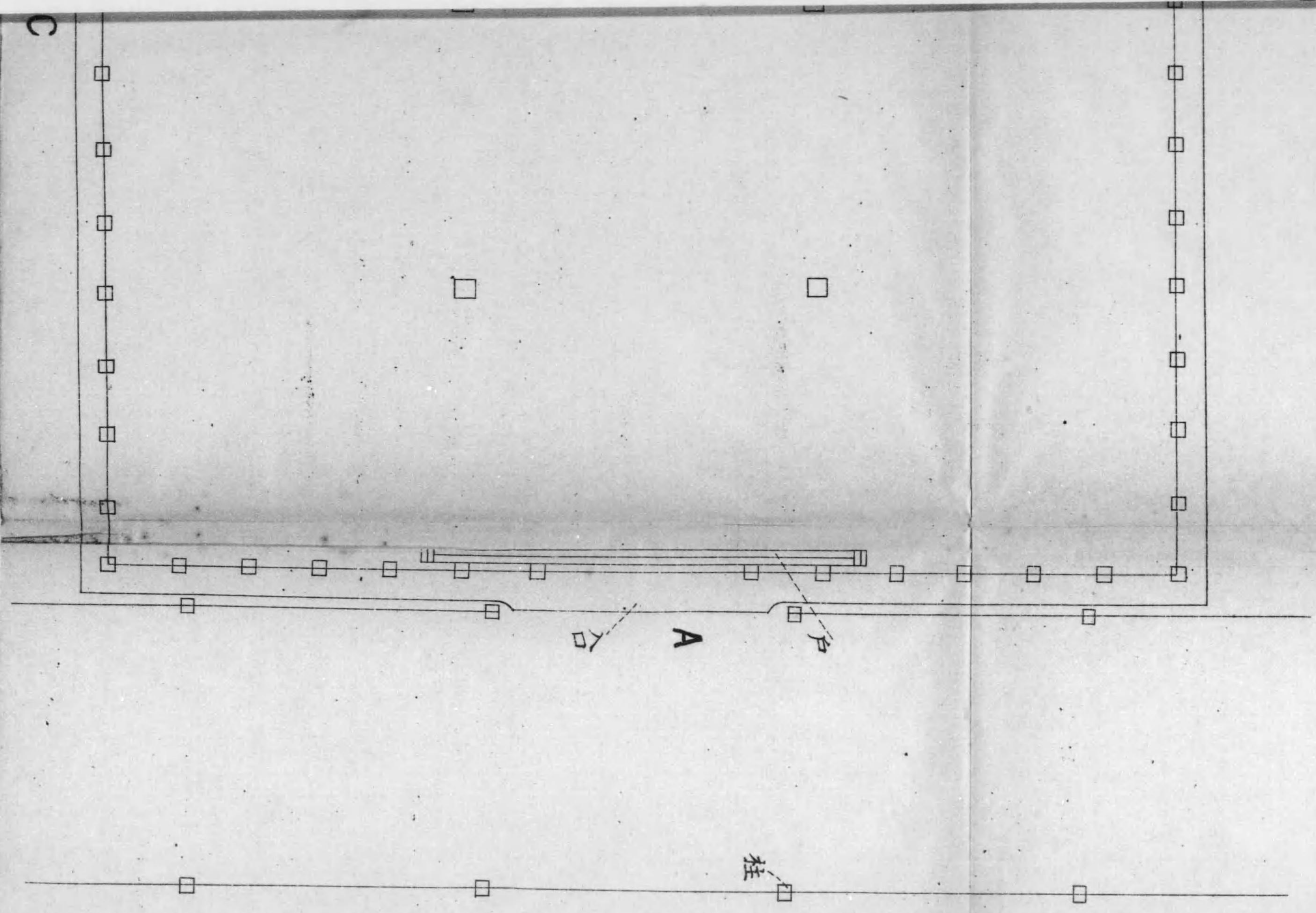
株式會社 酒田米穀取引所山居倉庫圖面

短縮尺六百分之壹
但シ壹間ハ壹分之曲尺



酒田米穀

山居倉庫平面圖
 間口七間半 柱三尺隔
 奥行拾六間 窓六個



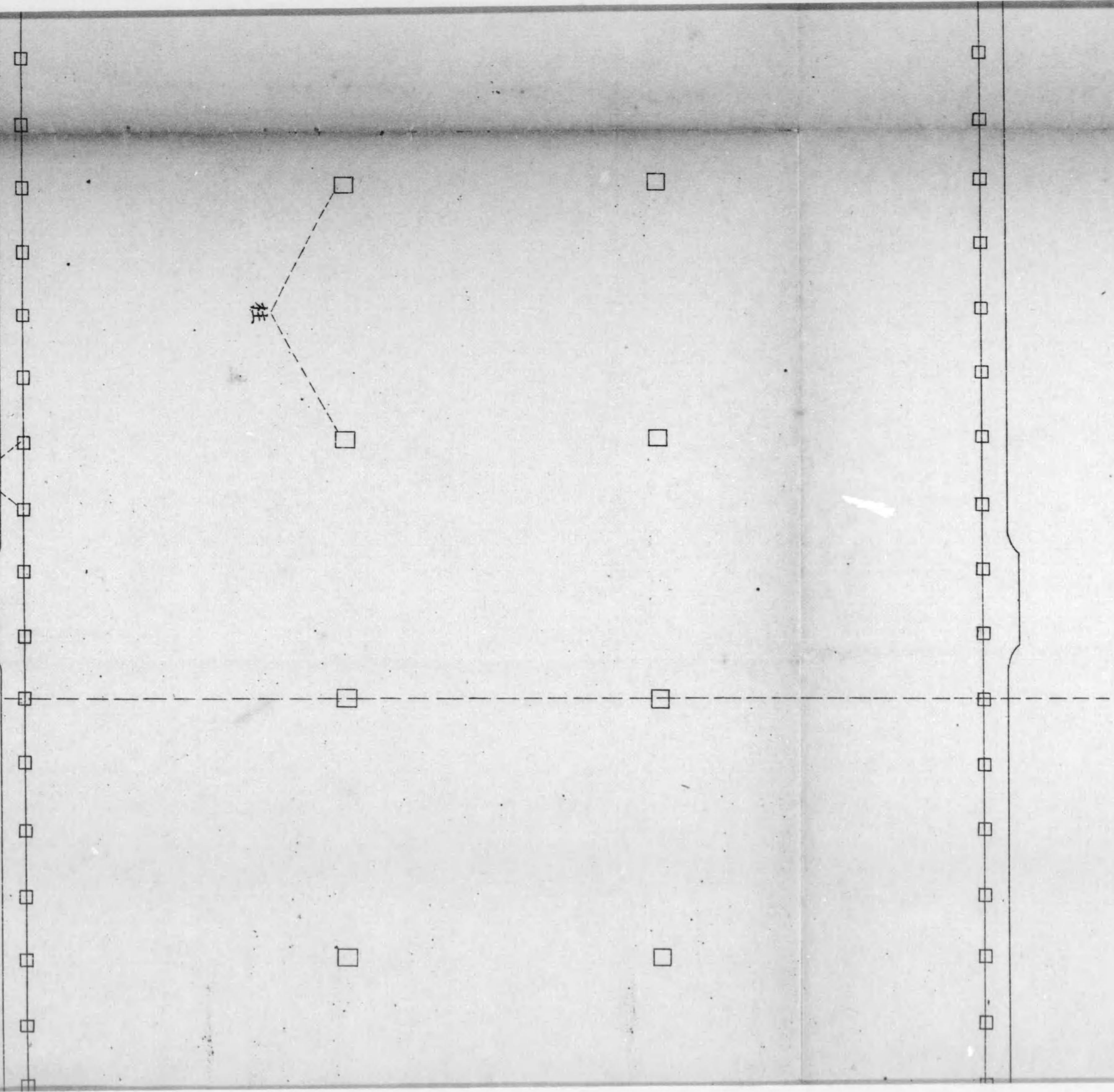
B

柱

窓

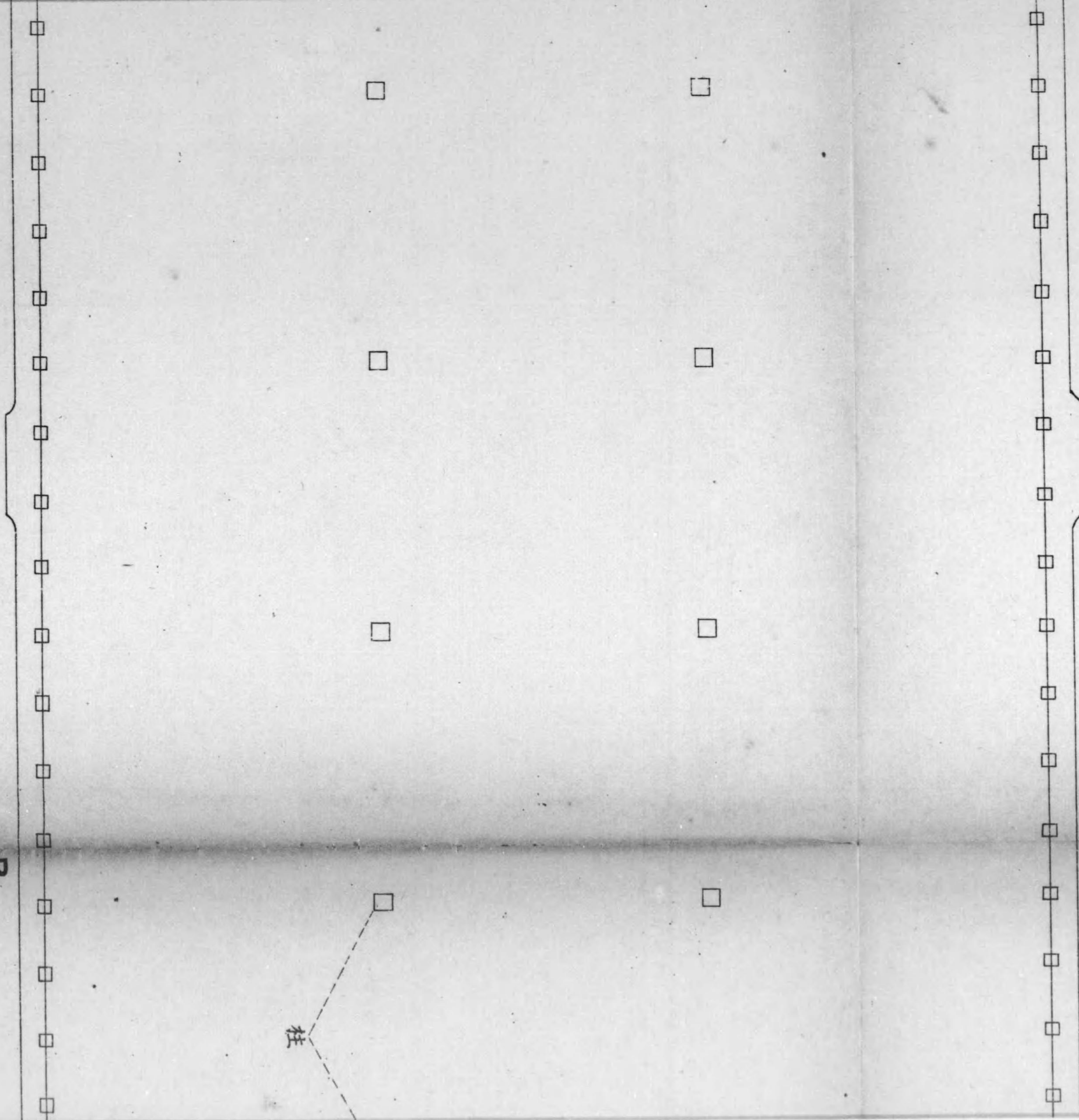
C

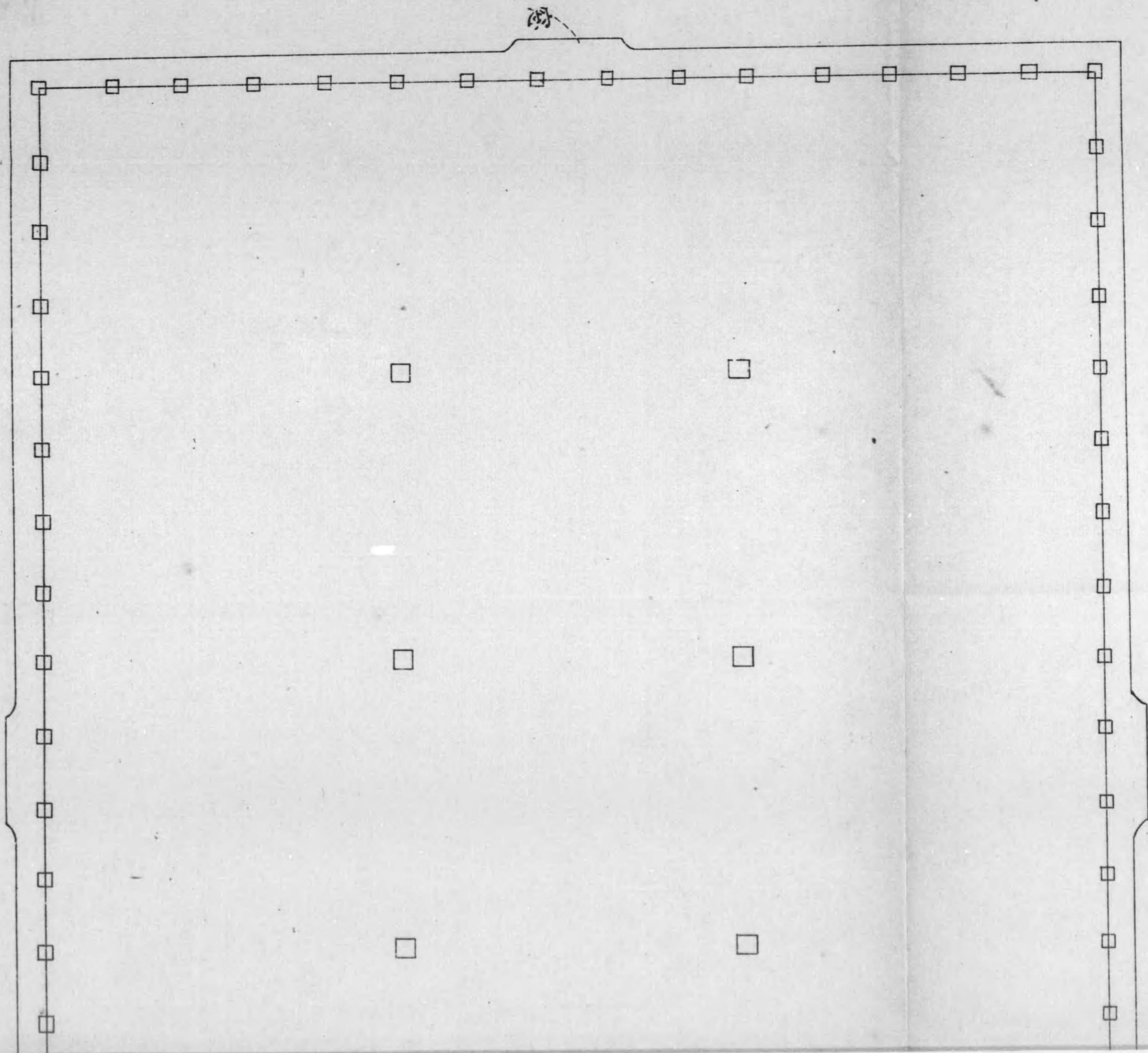
柱



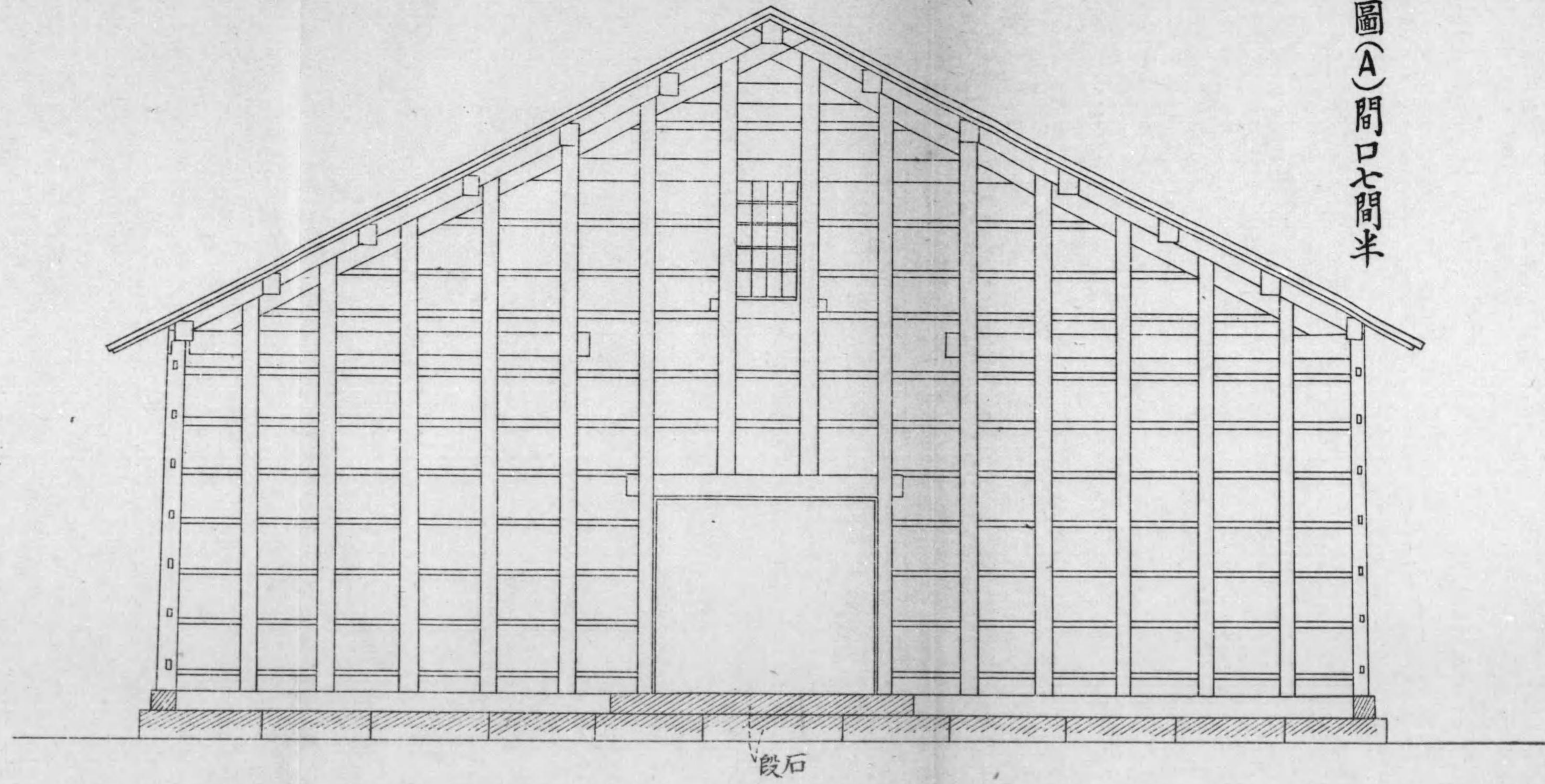
B

柱

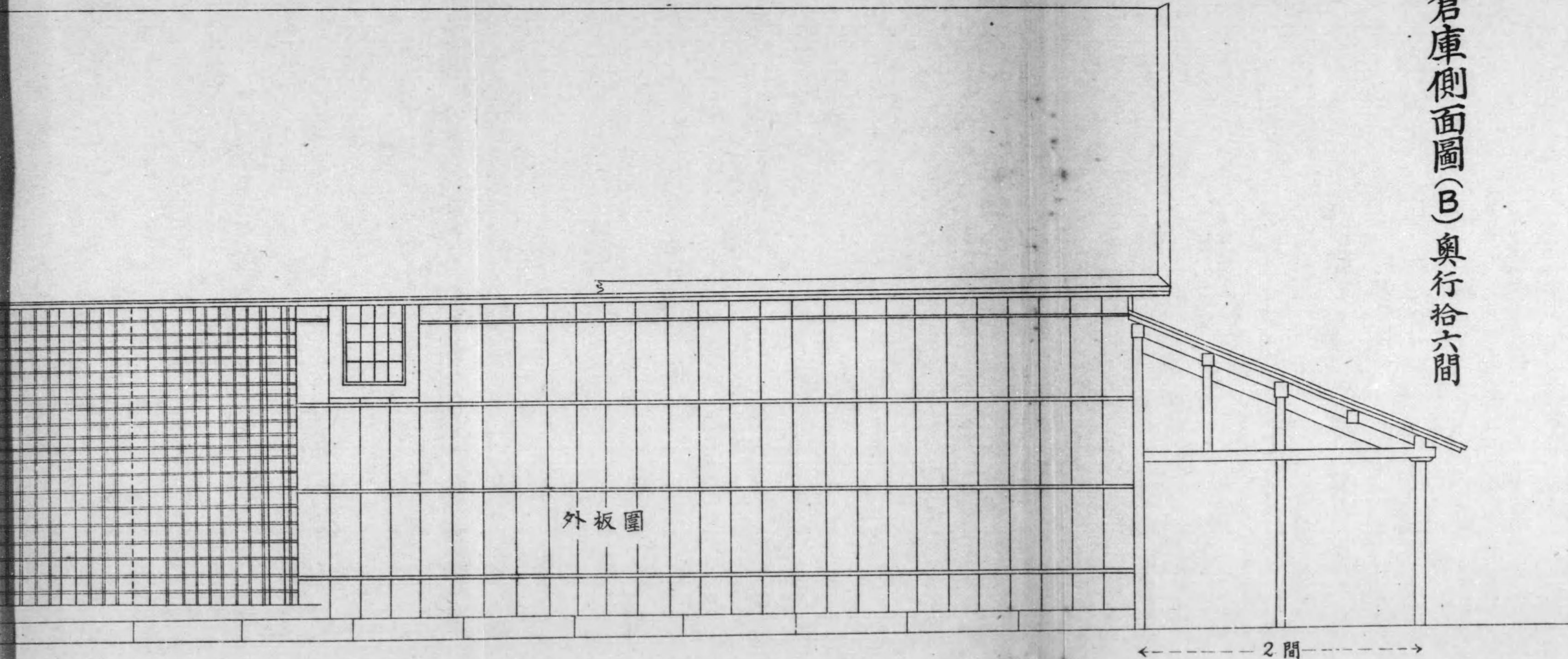




山居倉庫正面圖(A)間口七間半

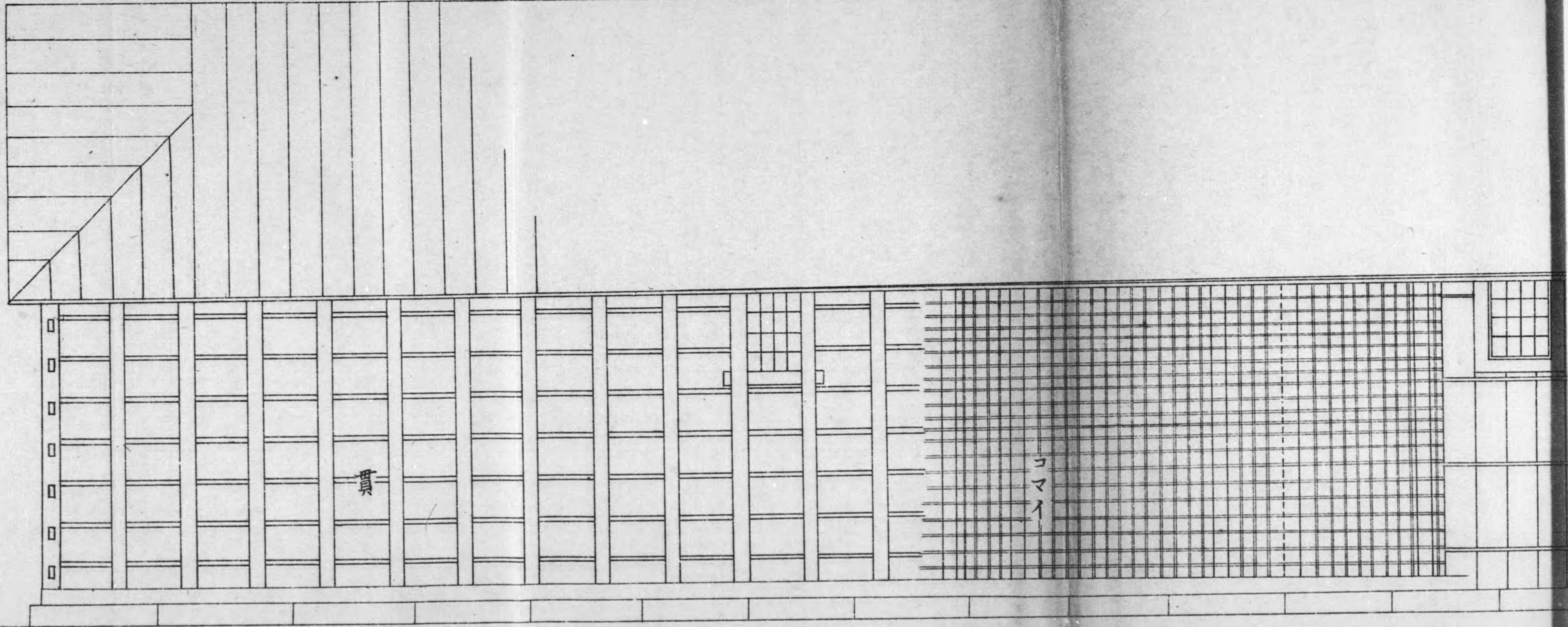


山居倉庫側面圖(B) 奥行拾六間



外板圍

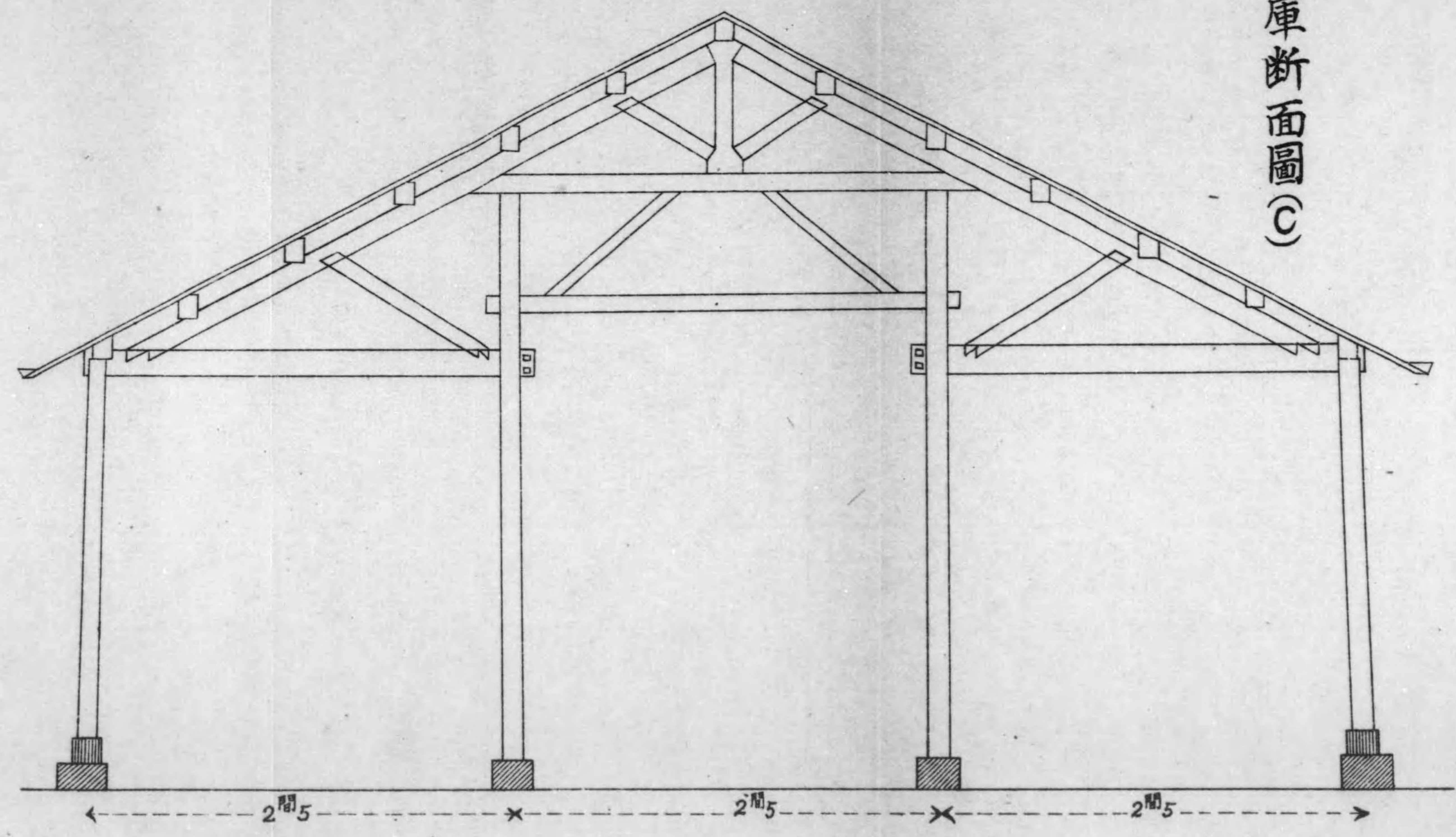
← 2 間 →



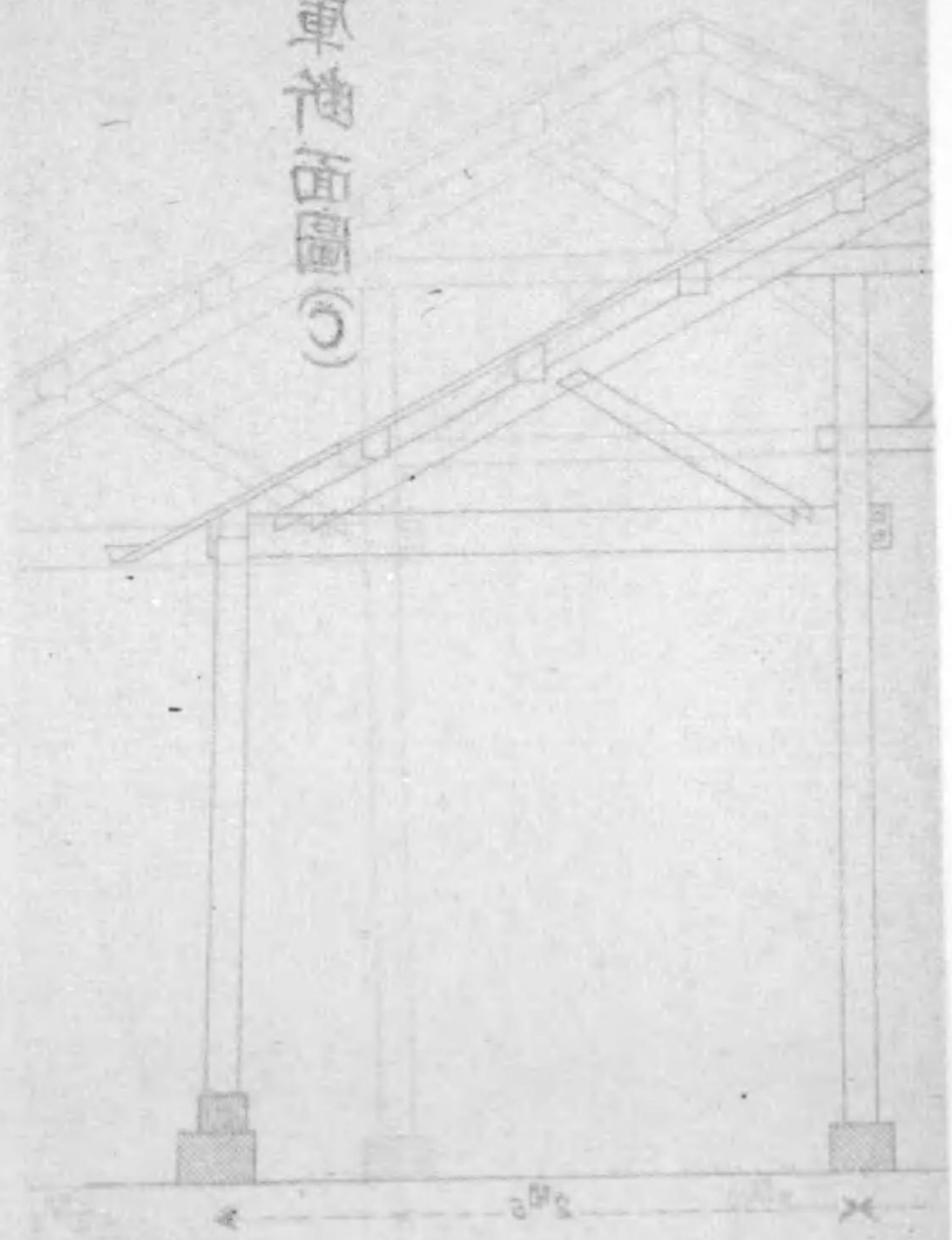
貫

コマ

山居倉庫断面圖(C)



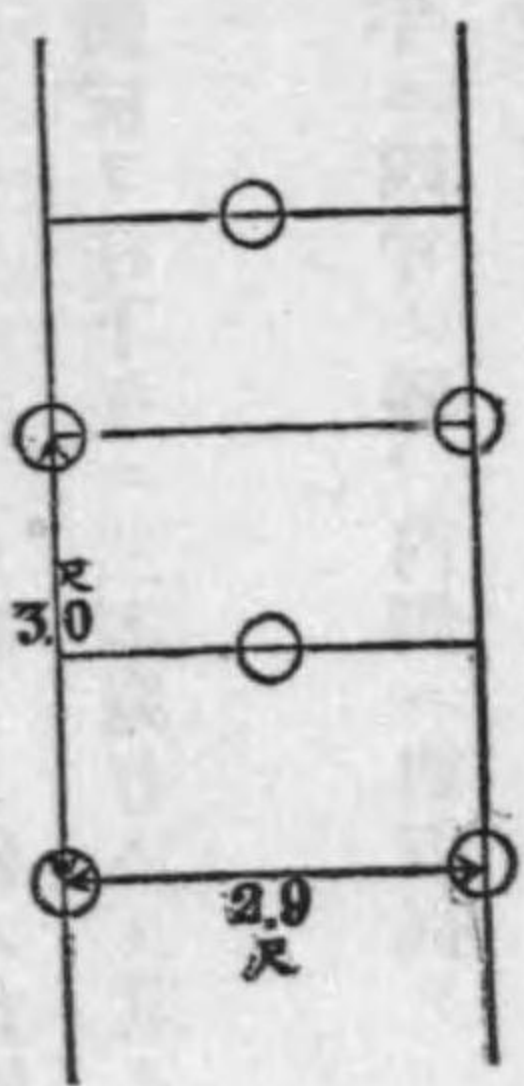
山崎倉庫正面圖



二、東京市深川区山崎繁次郎氏倉庫
倉庫仕様書大要

- 一、煉瓦倉庫平家夫婦建
- 一、位置ハ川岸ニ接近シ地下水ハ一間下位ナリ
- 一、方位ハ西北
- 一、兩妻ハ往來ニ接シ兩側ハ各三尺離レテ他ノ倉庫ニ接ス
- 一、地形ハ松ノ二間杭ヲ柱下毎ニ三本宛打込ミ其ノ上ヲ「コンクリート」ニ段積トシ其上ヲ煉瓦積ミトシ土臺ヲ置ク
- 一、壁ハ煉瓦一枚半ニ四寸ノ砂、内側ハ總板張リ
- 一、屋根ハ一寸板張ニ杉皮三枚張リ、土井四寸厚ニ一寸ノ中塗り、其上ヲ鋸齒狀ニ盤若固メトス、之レニ引掛瓦ヲ置ク、(瓦下ニハ三角形ノ空隙ヲ生ス)
- 一、窓ハ一間ニ四尺ノ金網張鐵格子ニテ、鐵及硝子ノ二枚戸ヲ有スルモノ兩妻ニ一個宛及一間四方ノ明窓ヲ(一寸厚サ硝子張)棟ニ沿フテ一戸前ニ付二個ヲ設ク
- 一、換氣裝置ハ一戸前ニ付三個ヲ棟ニ沿フテ設ク、又兩側ニ壁ノ中ヲ通シテ空氣出入ノ土管ヲ一間毎ニ設ク

- 一、荷擦ハ壁ヨリ一尺離シテ六寸九太ノ半分挽割長サ三間ノモノヲ一尺毎ニ柱トシ三尺隔ニ貫ヲ通ス
- 一、出入口ハ兩妻ニ間口九尺高サ一丈(最高一丈一尺)ノモノヲ設ケ之レニ三分厚サノ一枚鐵戸ヲ吊戸トス、代リ戸ハ金網張鐵格子戸(腰板ハ三尺通金網張簀子作り)
- 一、間口十二間、奥行二十一間地廻リヨリ床面迄二十一尺、屋家ノ勾配六寸五分
- 一、建坪單價百五十圓
- 一、地形、上幅六尺底五尺ヲ以テ地面ヨリ一間堀下ケ末口六寸長サ二間ノ松杭ヲ左圖ノ如ク打込ム



杭ノ頭ヲ八寸許出シ割栗石ヲ以テ固メ其上ヲ二段ニ「コンクリート」ヲ以テ固ム、其ノ上ニ煉瓦ヲ積ム
第一圖、乙、參照

- 一、壁ハ燒過煉瓦一枚半及四寸一四寸五分ノ厚サニ砂ヲ填充シ落板ヲ以テ全部之ヲ圍フ、但シ鉢卷及腰卷ハ自然ニ煉瓦ヲ厚クス、第一圖、Tハ壁ノ斷面圖ニシテ(ハ)ハ柱(ロ)ハ落シ板ニシテ(イ)ノ砂ヲ支フ、砂ヲ漏出シ易キヲ以テ(ハ)ニ箆メ込トシ且落シ板ノ各個ノ縫目モ凸凹ニ刻ミテ密接セシメ尙柱ハ箆込

ミノ部分ノ密接ヲ充分ナラシムルタメ裏側ヨリ楔ヲ以テ緊メタリ、此ノ落板柱及土臺ニハ防腐劑ヲ
三、四分ノ厚サニ浸込シメタリ

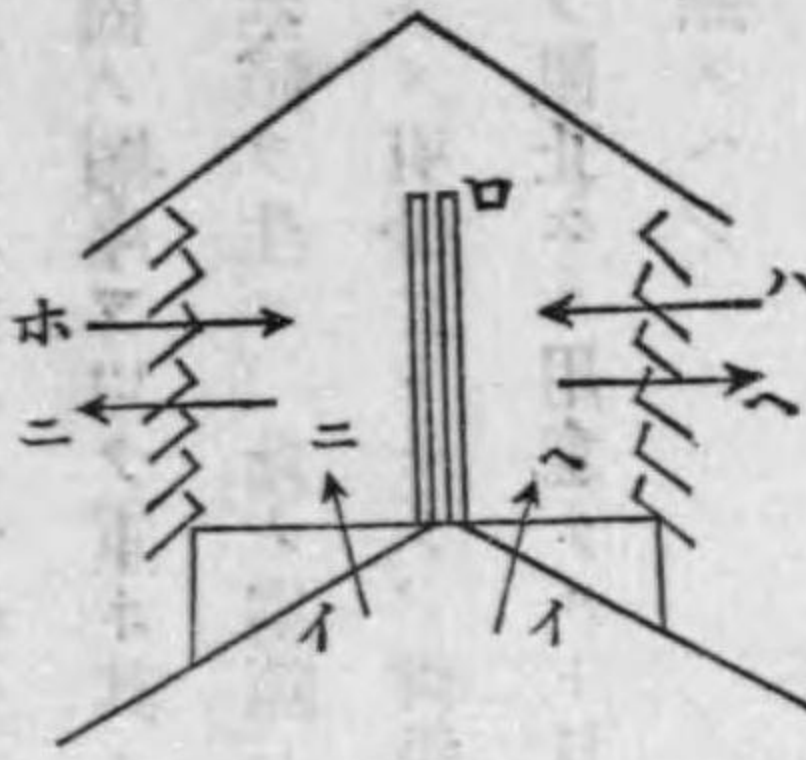
- (ニ)貫、(ホ)土臺、(ヘ)土臺石、(ト)煉瓦
- 一、屋根ノ構造ハ一寸板上ニ杉皮三枚ヲ張り、四寸ノ土井土ヲ置キ、一寸ノ中塗り、一寸ノ鋸齒狀盤若固ノ順序ヲ以テ重ネ其ノ上ニ瓦ヲ引掛ケニ重ヌルナリ、然ルトキハ瓦下ニ三角形ノ空隙ヲ生ス此ノ空隙ヲ生ス、此ノ空隙ハ熱ノ傳導ヲ緩和スル爲ナリ、又瓦止メトシテ穴ヲ穿ツ時ハ雨漏ノ虞レアルタメ引掛ケトセリ、尙浸入セル雨水ハ溝ニ沿フテ流レ落ル様ニセリ、又盤若固ハ絶對ニ雨水ノ浸入ヲ阻止スル用意ナルト且瓦ヲ掛クルタメナリ、略圖左ノ如シ、尙葺方ノ順序ハ第三圖乙ノ屋根ヲ參照スヘシ



一、換氣裝置

壁ノ中ニ装置セルモノハ四寸ノ土管ヲ「モルタル」ニテ結合セシモノニシテ排氣管ノ呼出口ハ鉢巻下ニ開キ吸入口ハ土臺上ニ開ク、又吸氣管ノ呼出口ハ土臺上ニ開キ吸入口ハ地面ヨリ六尺上ニ開キ扉ヲ設ク各口ニハ鑄板ヲ以テ蓋トス

土管ハ砂ノ中ヲ通り一間毎ニ排氣管及吸氣管、交替ス、第一圖甲、乙、丙、丁參照、棟ニアルモノハ一間四方開キ、高サ六尺、腰板ヲ張り、二寸隔ノ鏡戸トス、各板ハ(幅三寸)全部銅板張りトシ一寸ノ筆返ヲ附シテ雨水ノ吹込ミヲ防ク



防止ノ爲ノ用意ナリ

屋根ハ銅板張りナリ、(イ)ノ部ハ鐵板ヲ以テ張りタル板ヲ以テ容易ニ密閉シ得、日常(ロ)ノ位置ニ上ケ置クナリ、然ル時ハ若シ強風(ハ)ヨリ來ル場合ニハ庫内ノ空氣ハ(ニ)ノ方向ニ出テ、(ホ)ヨリ來ル場合ニハ(ヘ)ノ方向ニ出ル考案ナリ若シ(ロ)ノ防風板ナキ場合ハ(イ)ヨリ出ツル能ハスト云フ内樋ヲ設ケテ排水セシム、尙外部スヘテ銅板張りトセシハ耐久ト火災豫防(保險關係ヨリ)ノ爲メ、(ロ)ノ蓋ハ二硫炭素煙蒸ノ爲筆返シハ雨水

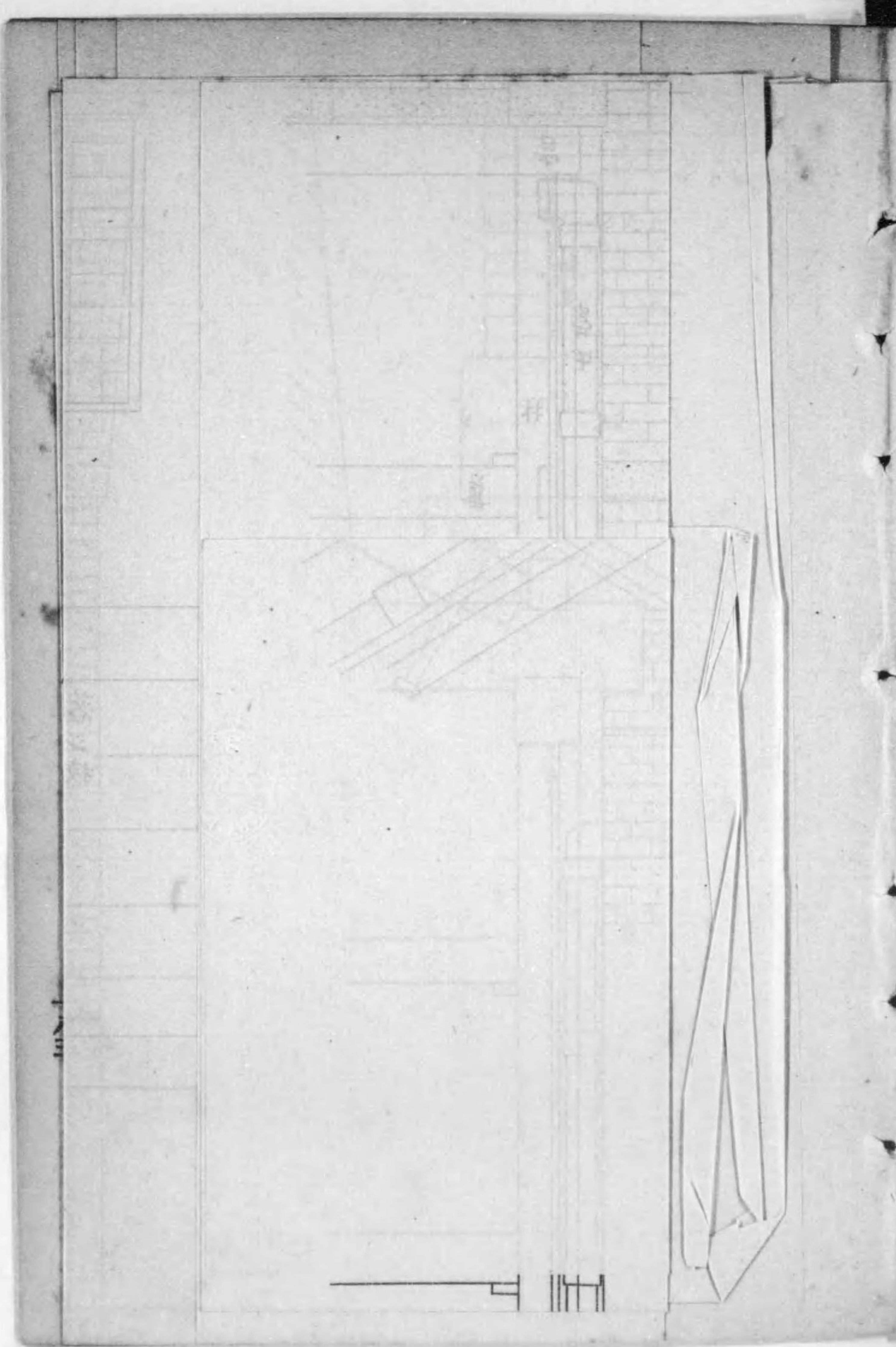
一、床、土間ノ地形ハ一尺厚サニ割栗石ヲ敷キ其ノ間ヲ空隙ナク砂ヲ以テ填充シ其ノ上ニ四五寸厚サニ砂ヲ敷キ其ノ上ニ切石(上州藪塚産、長サ三尺幅一尺厚サ四寸)ヲ一枚並トス、土間ヲ良トスルモ

警視廳令ニテ實行不可能ナルタメ水分ヲ吸ヒ上クル石ヲ選ヒタリ

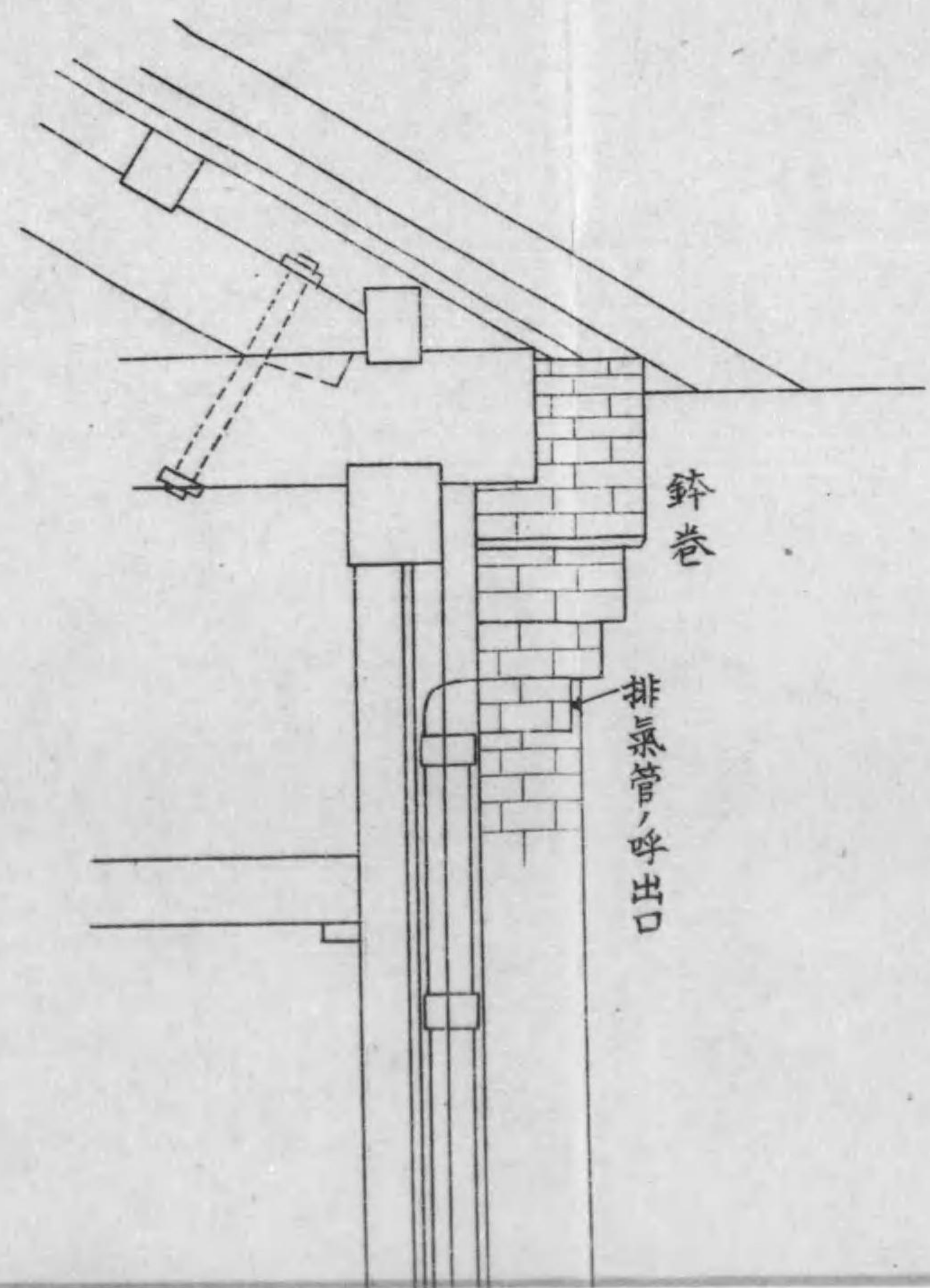
第四圖甲、參照

一、土臺ハ八寸角ノ材、之レニ六寸角ノ柱ヲ三尺毎ニ立テ四尺毎ニ貫ヲ通シタリ、第二圖乙、(右)參照

一、腰石(第四圖)ハ奥州白川ノ産、耐火性ニ富ム

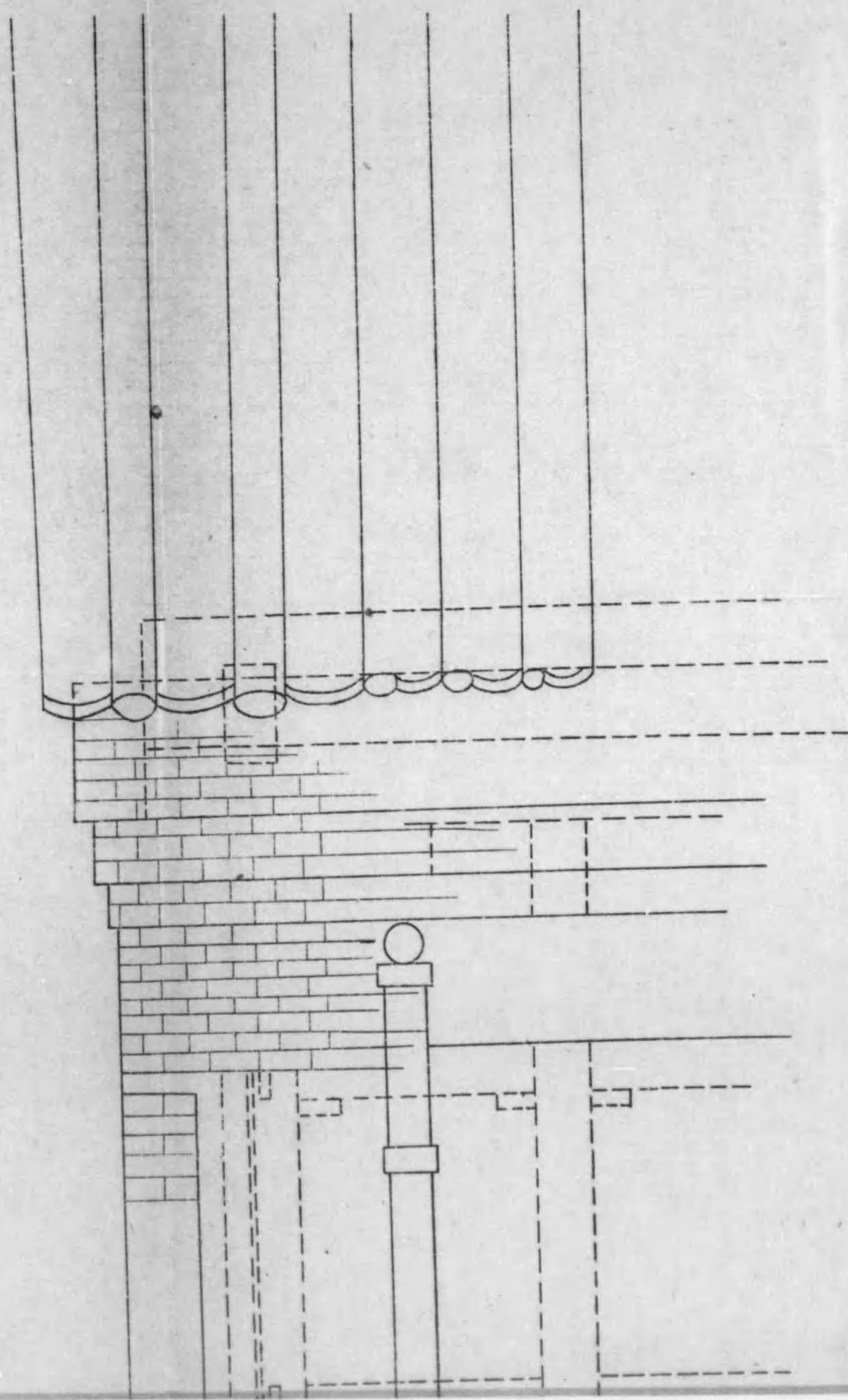


Architectural drawing of a building facade, showing a grid and a central section. The drawing is oriented vertically on the page.

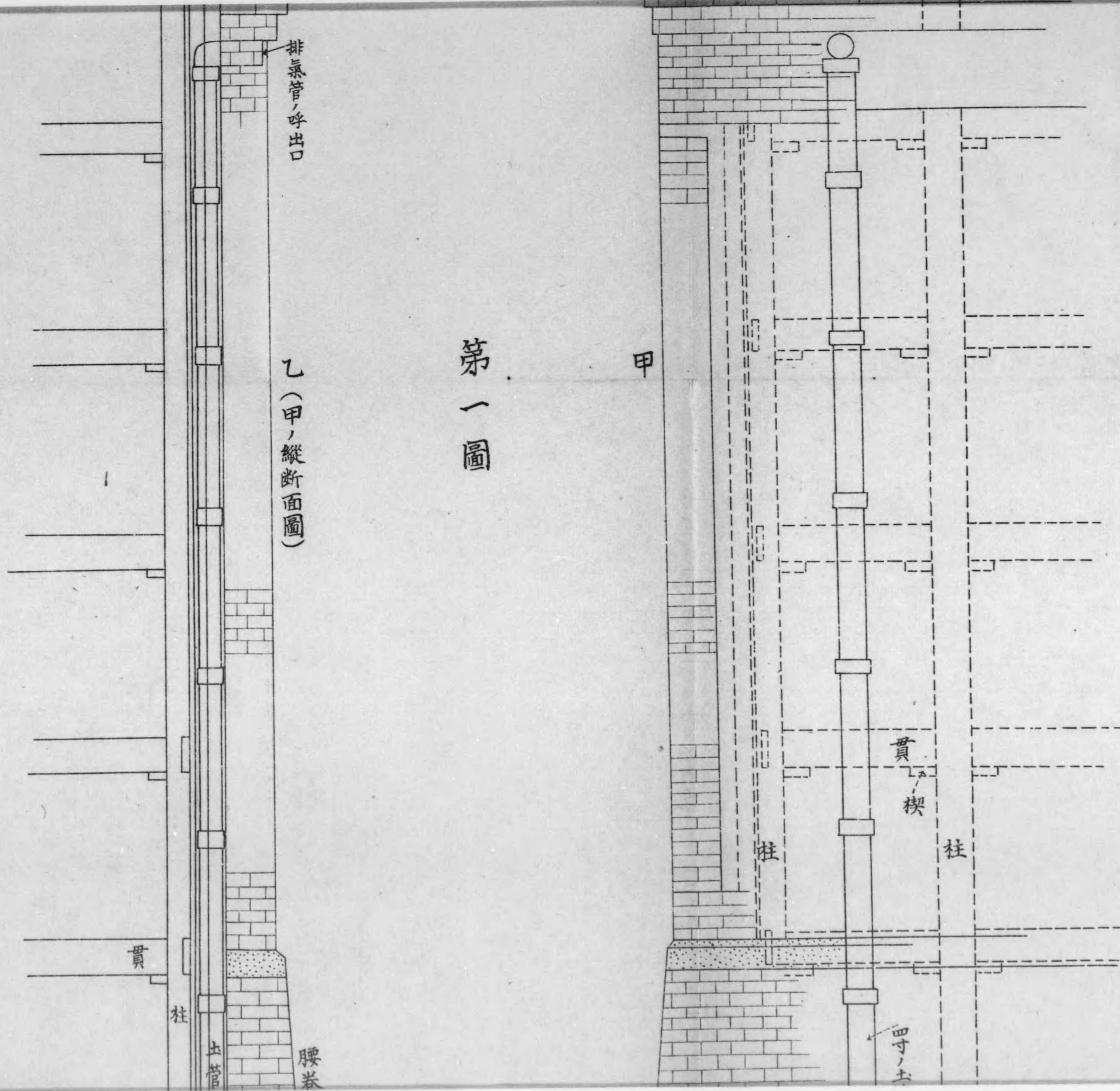


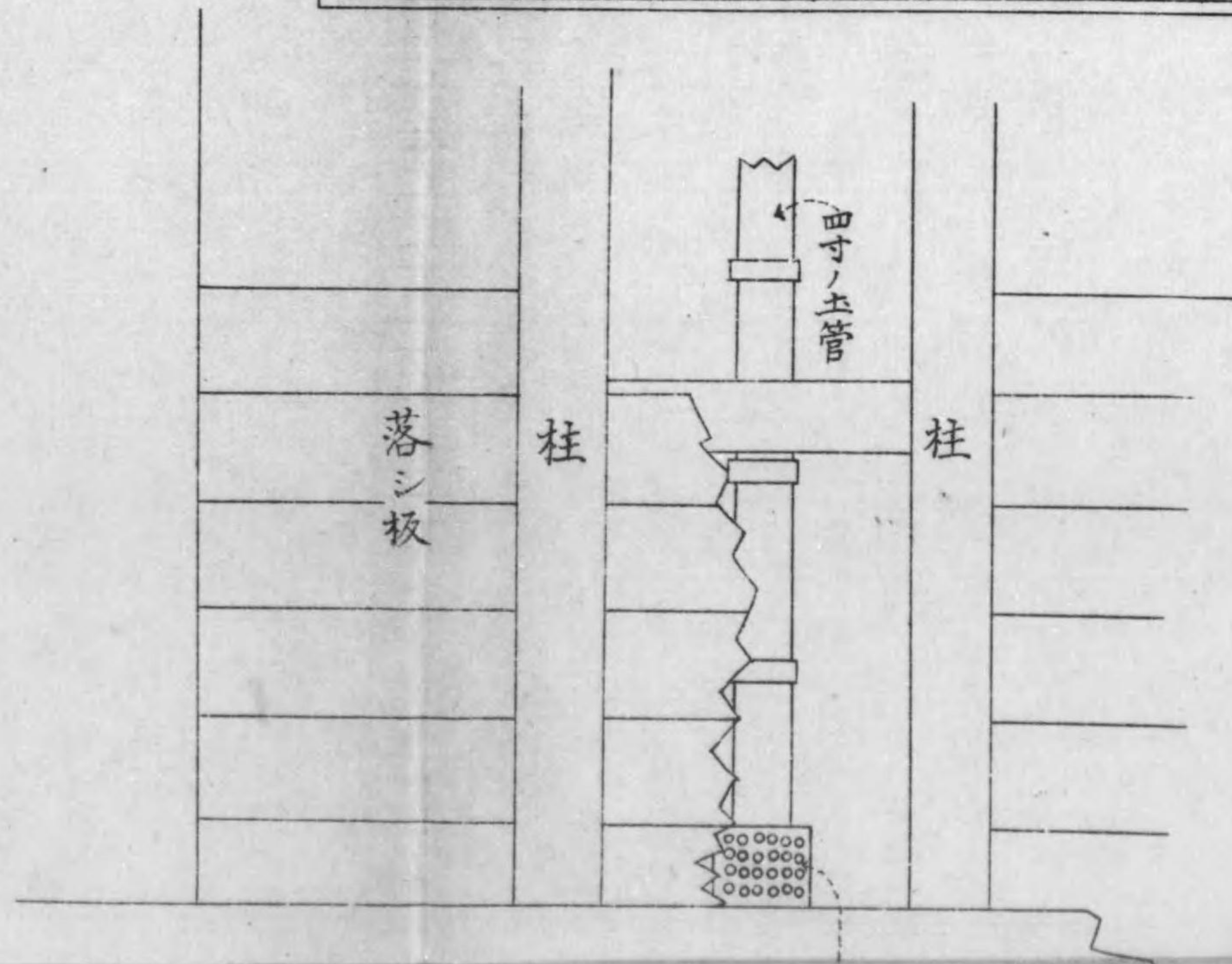
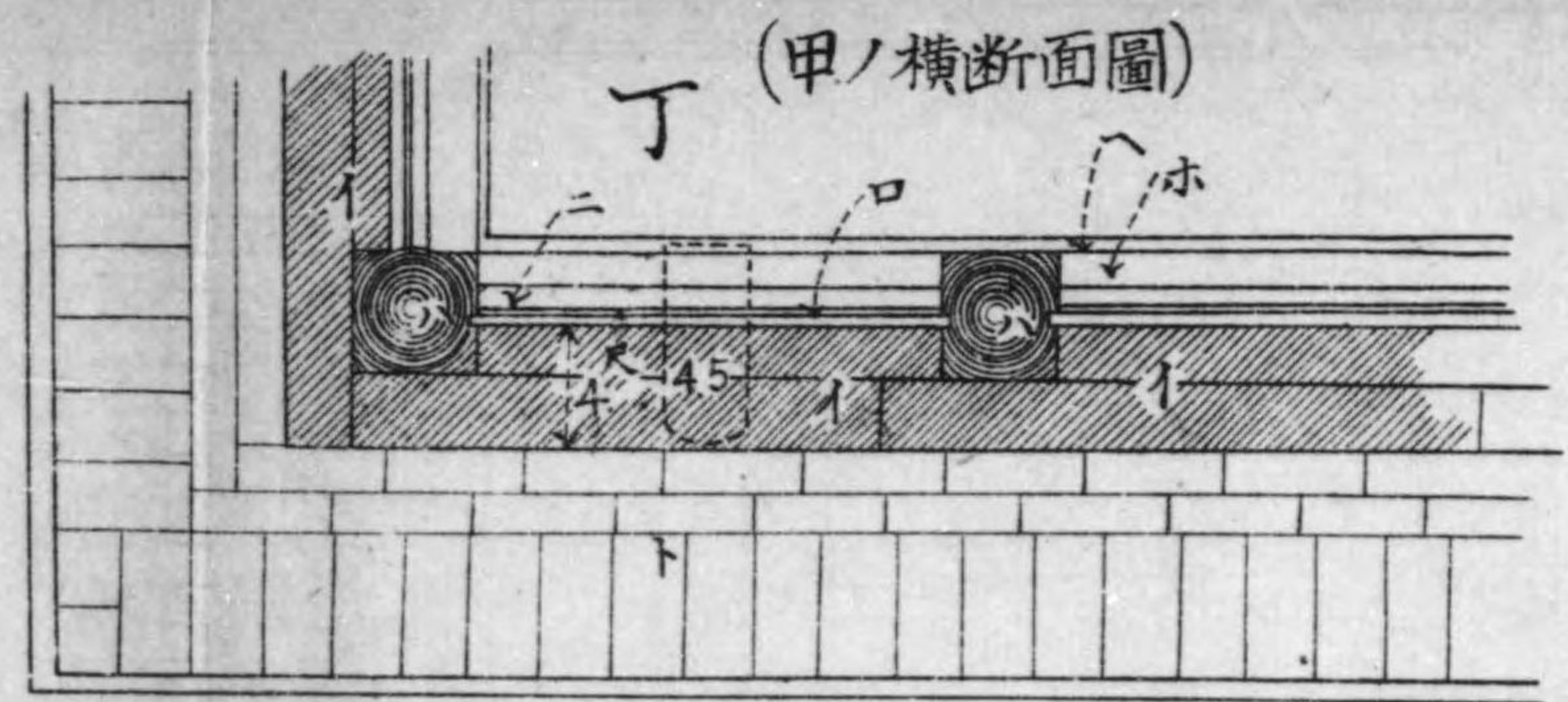
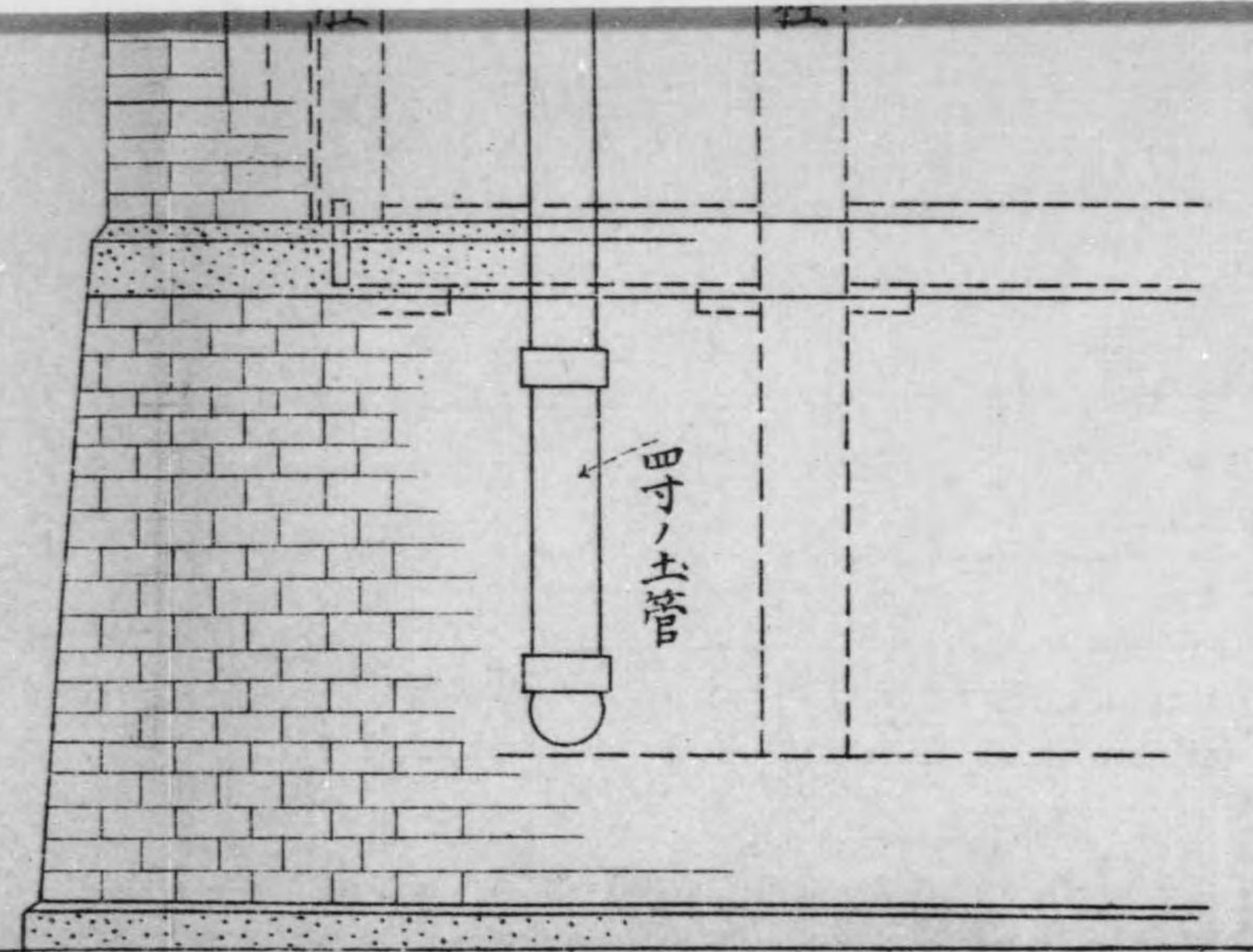
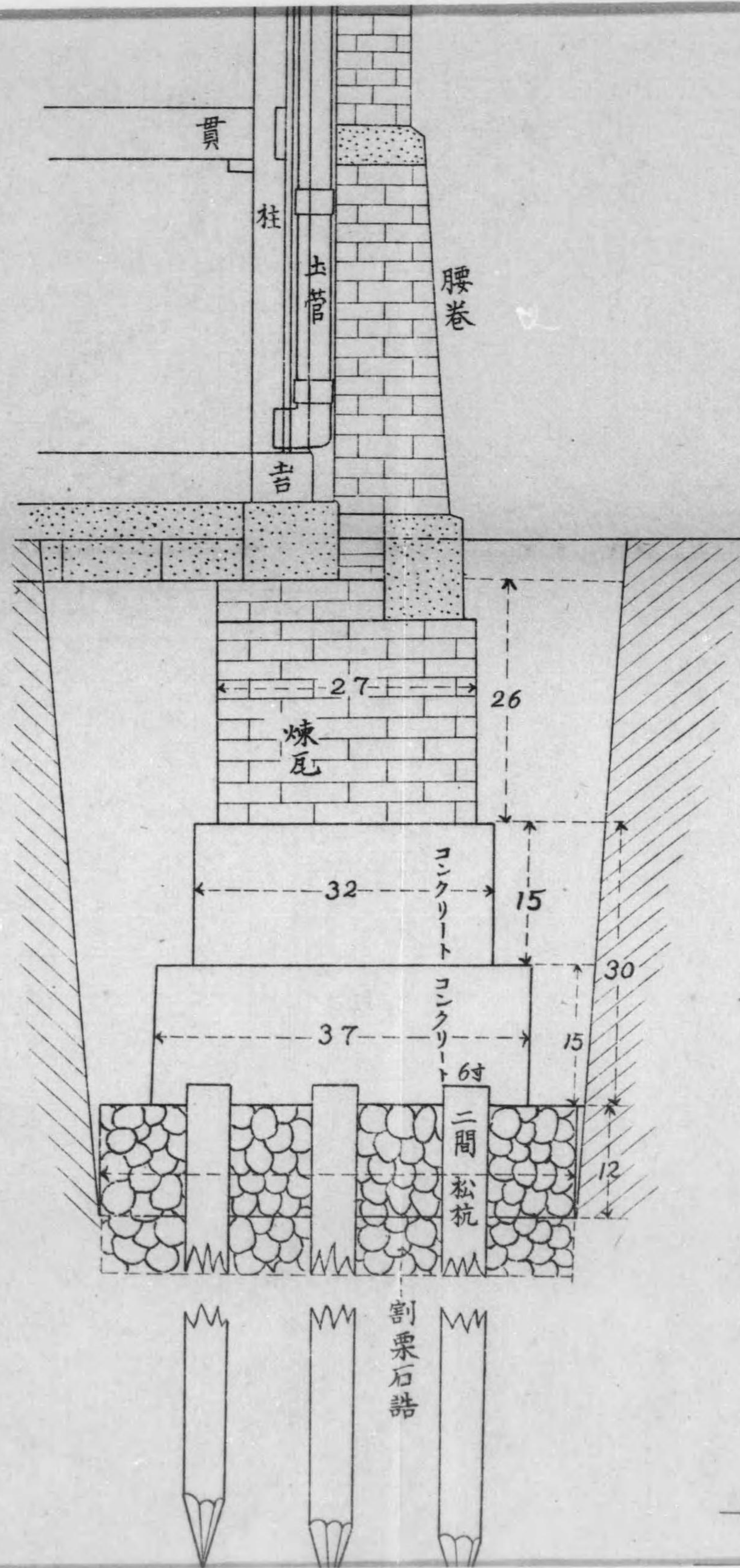
鉸卷

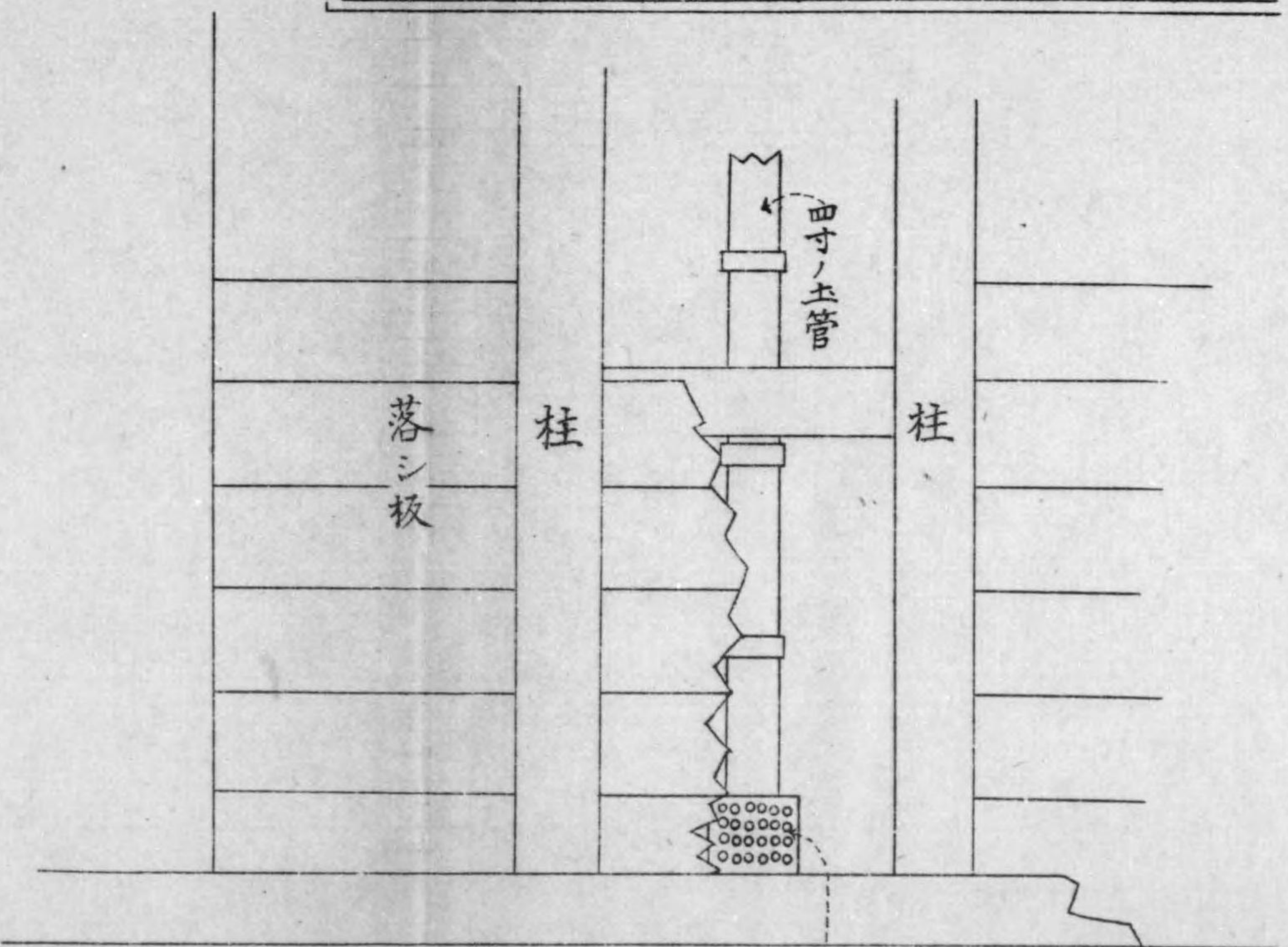
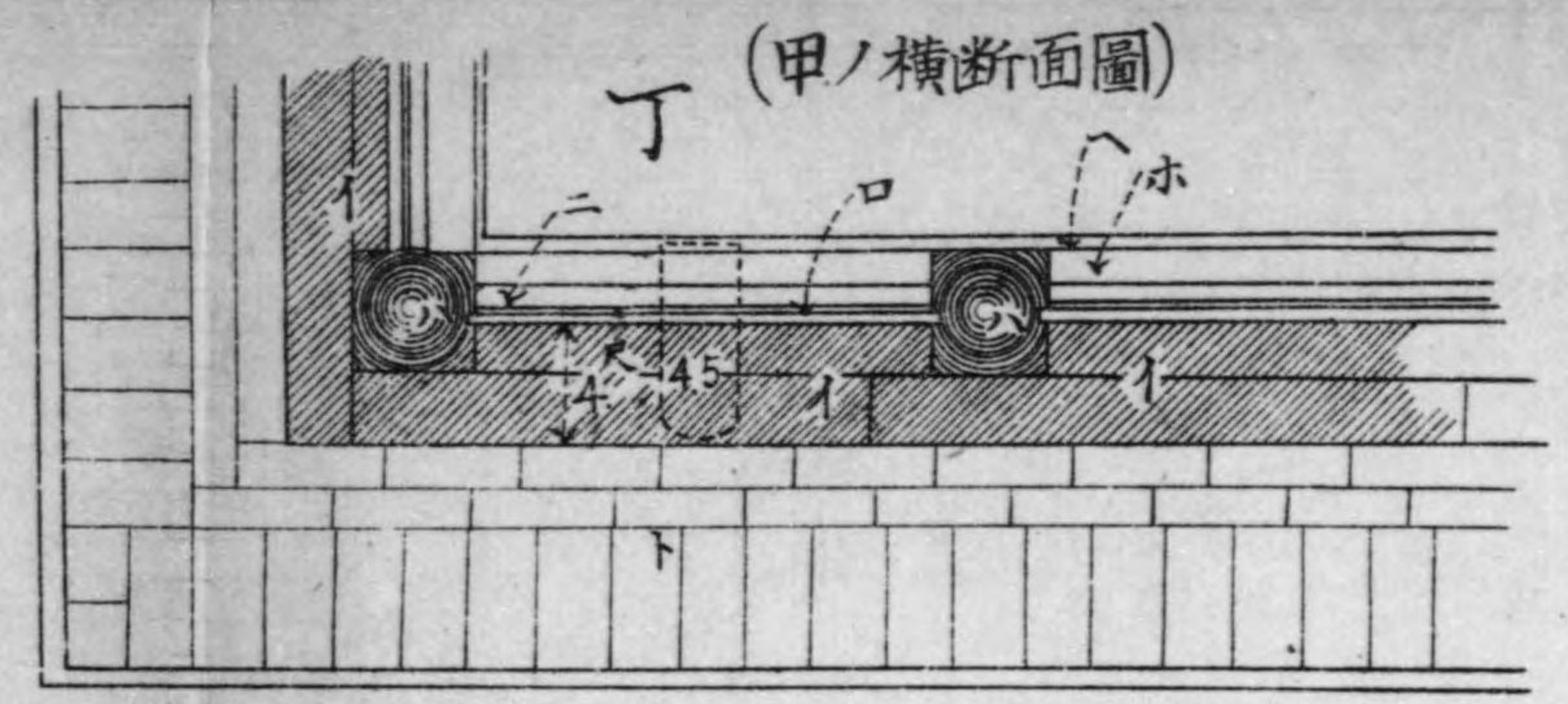
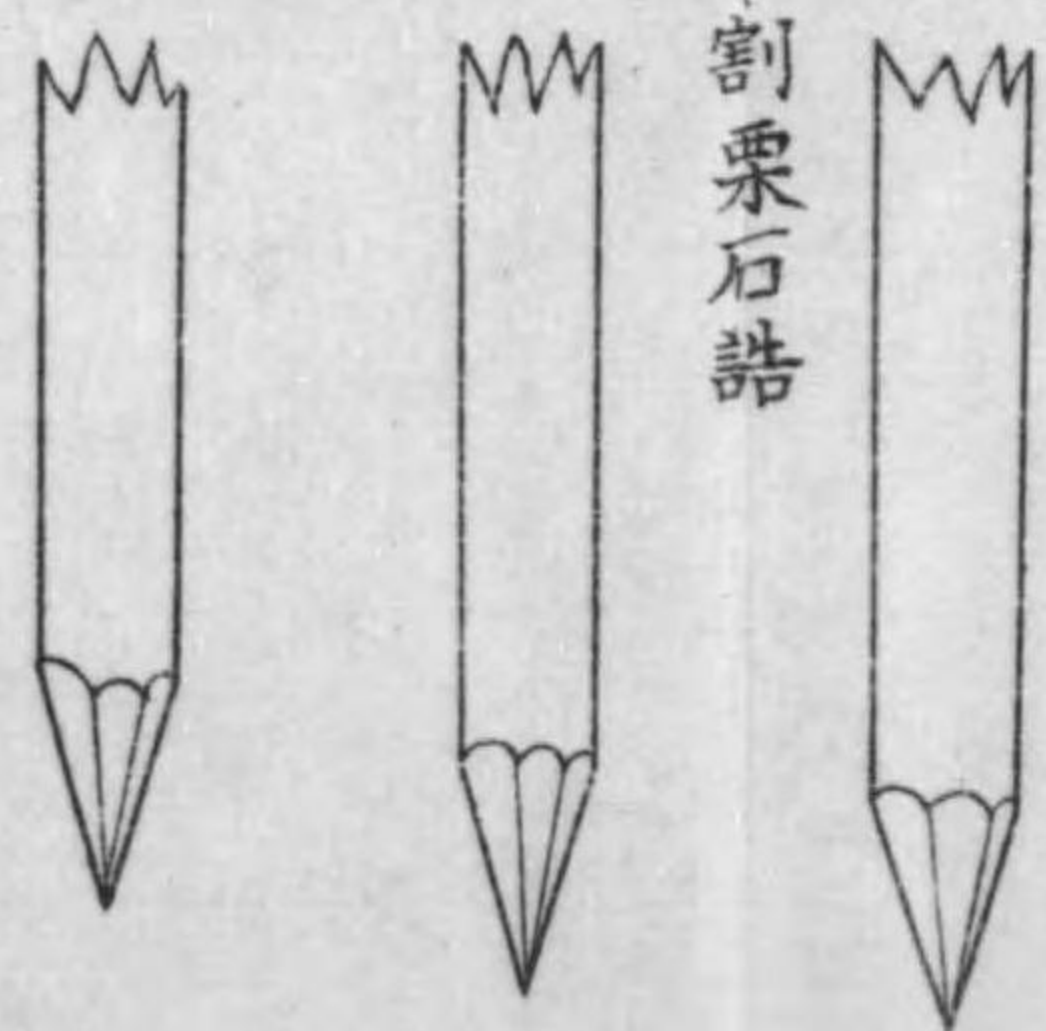
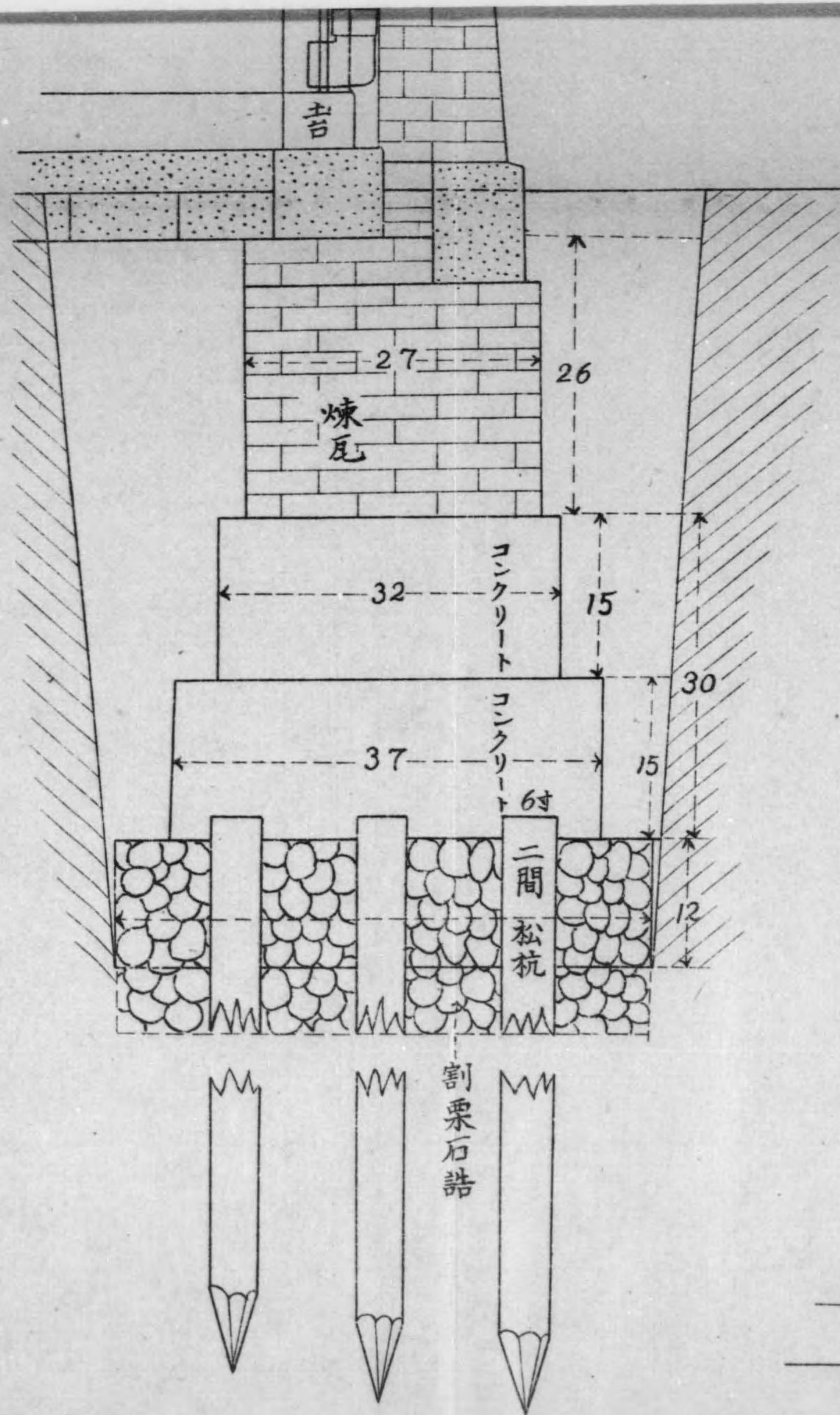
排氣管呼出口



第一圖



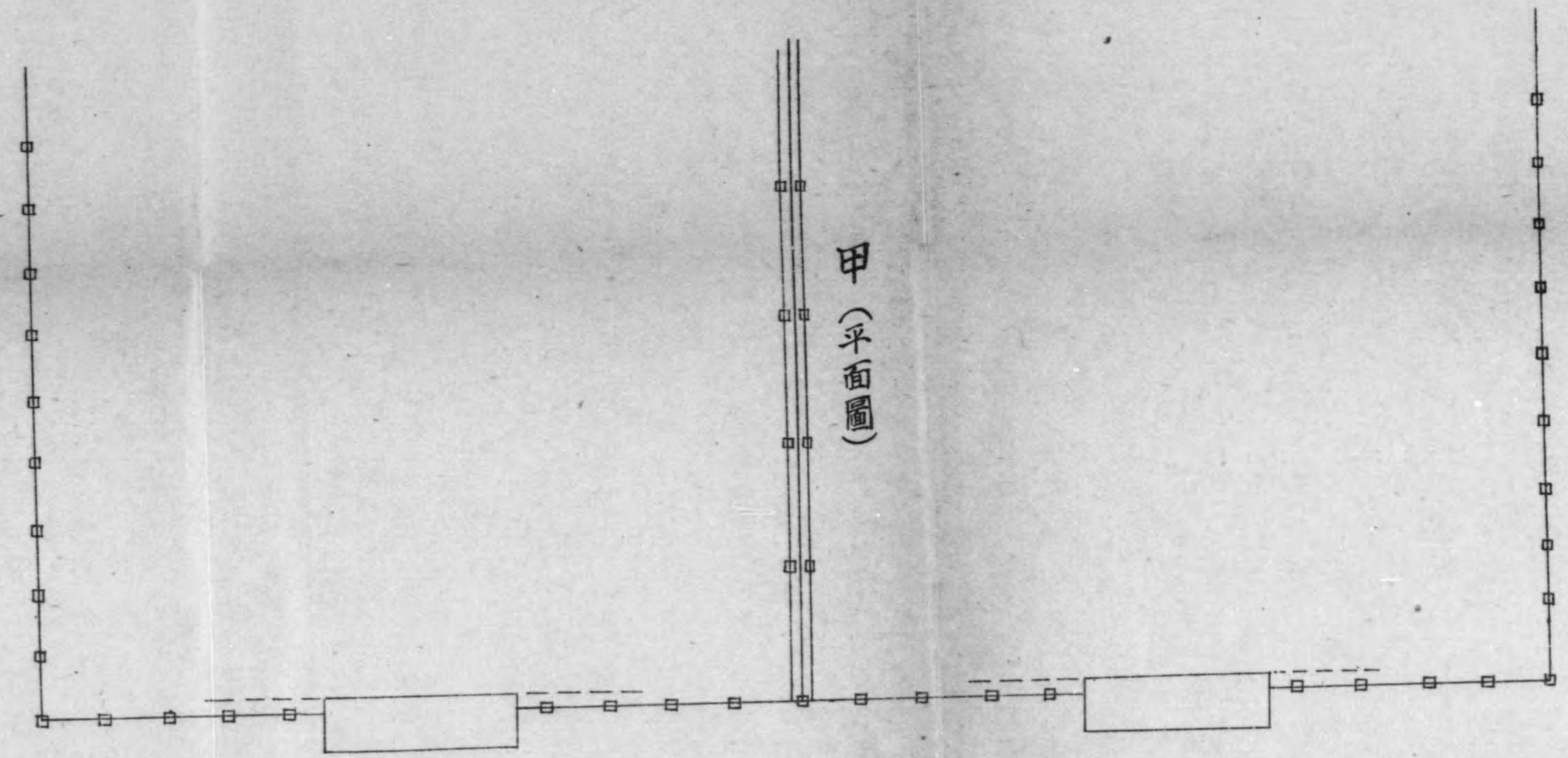




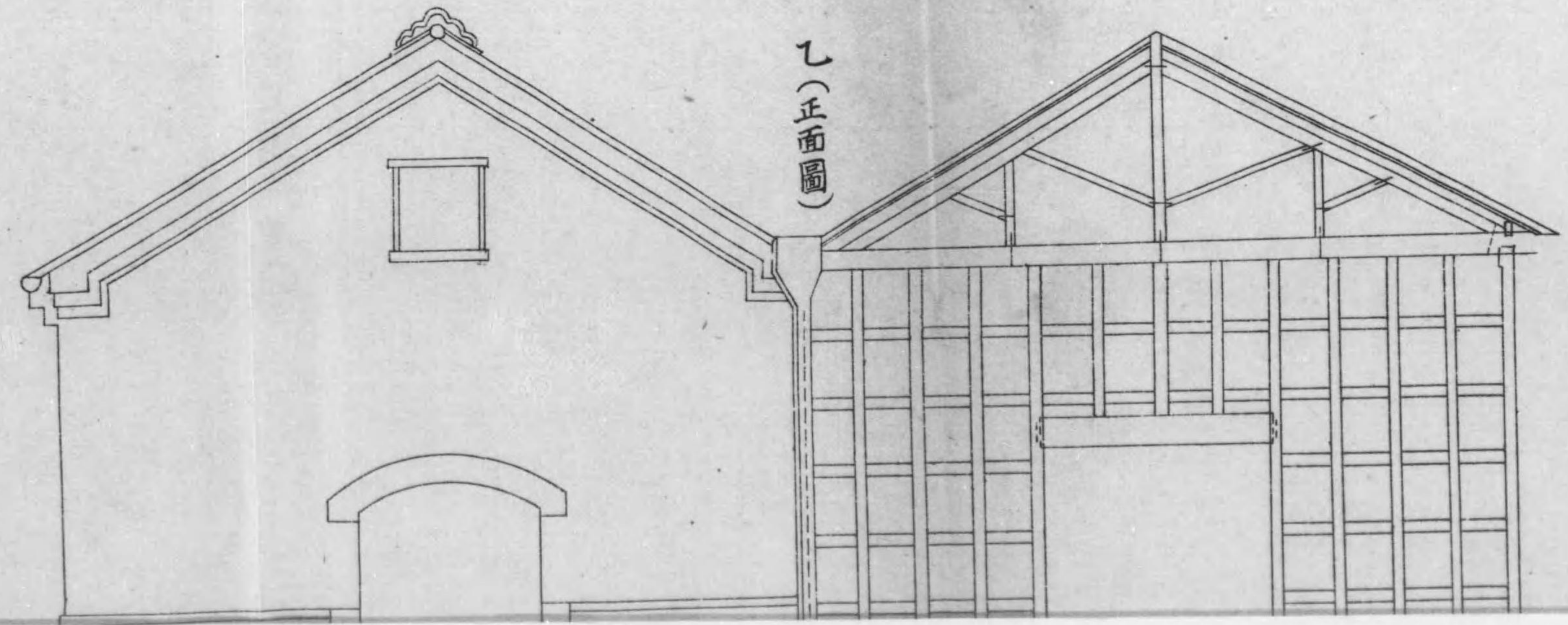
丙(甲ノ内通)
 空氣抜ノ鉄板

第二圖

甲(平面圖)

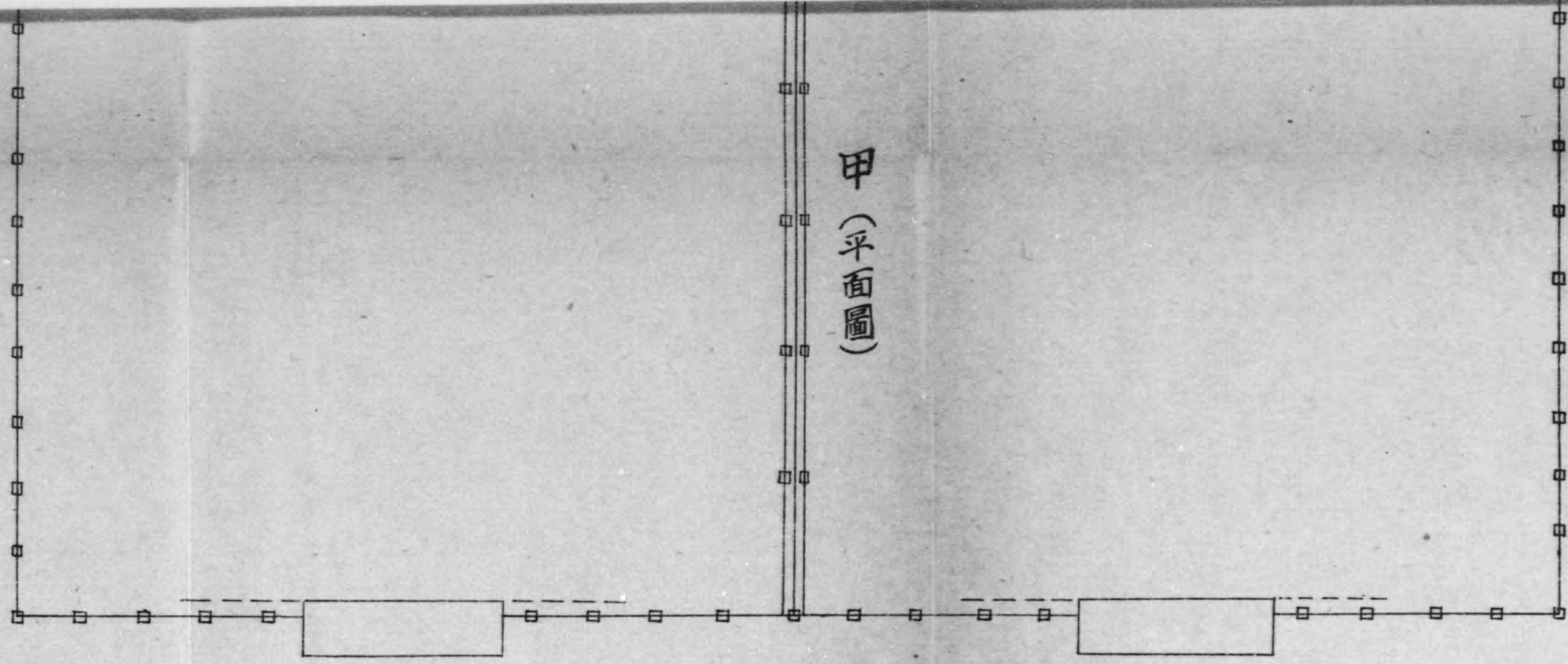


乙(正面圖)

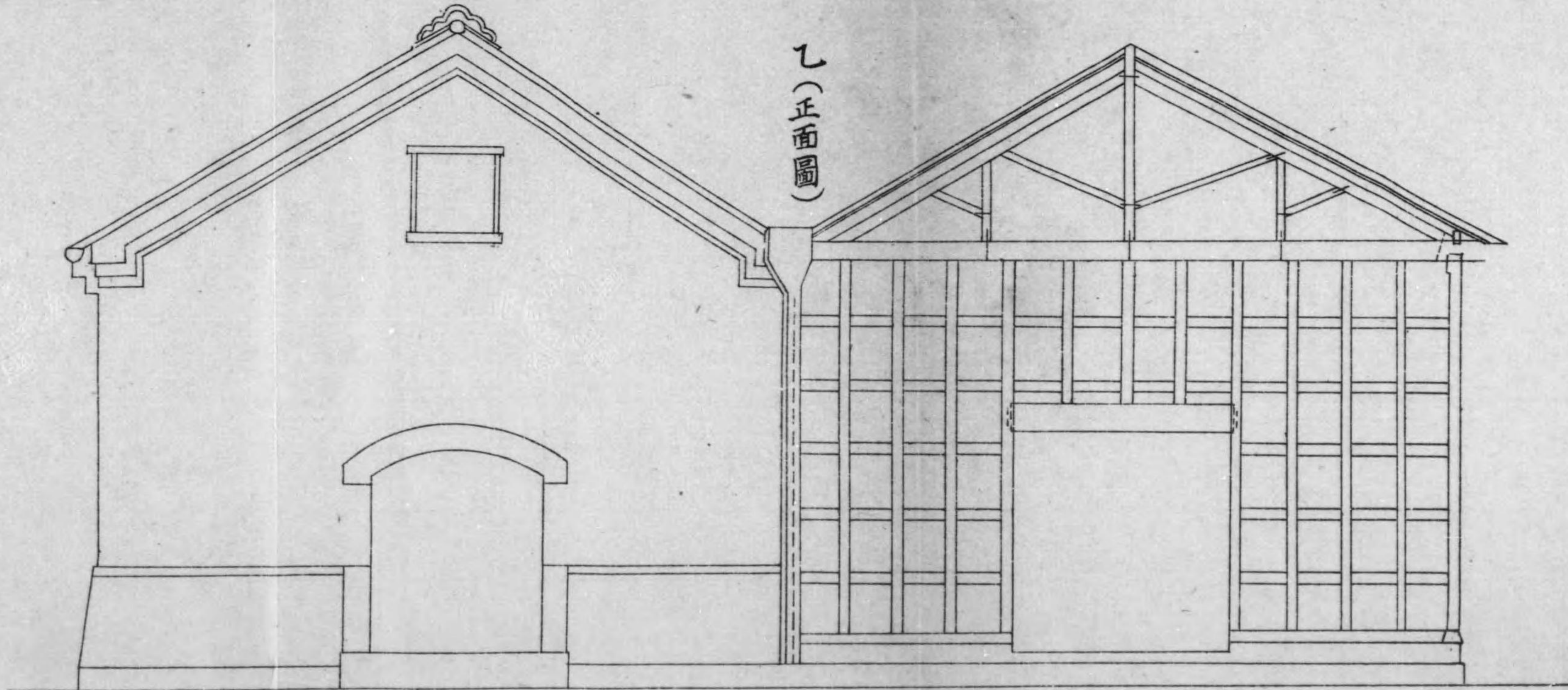


第二圖

甲(平面圖)



乙(正面圖)



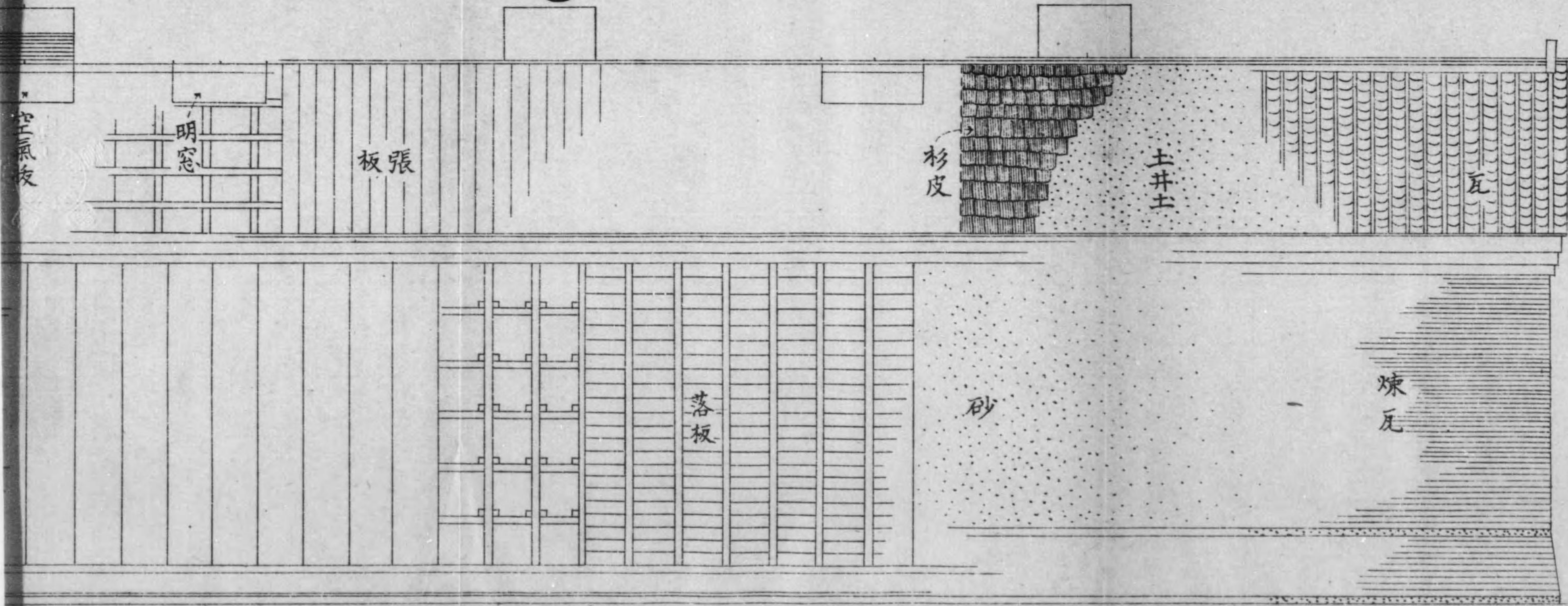
觀 外

組 骨

第三圖

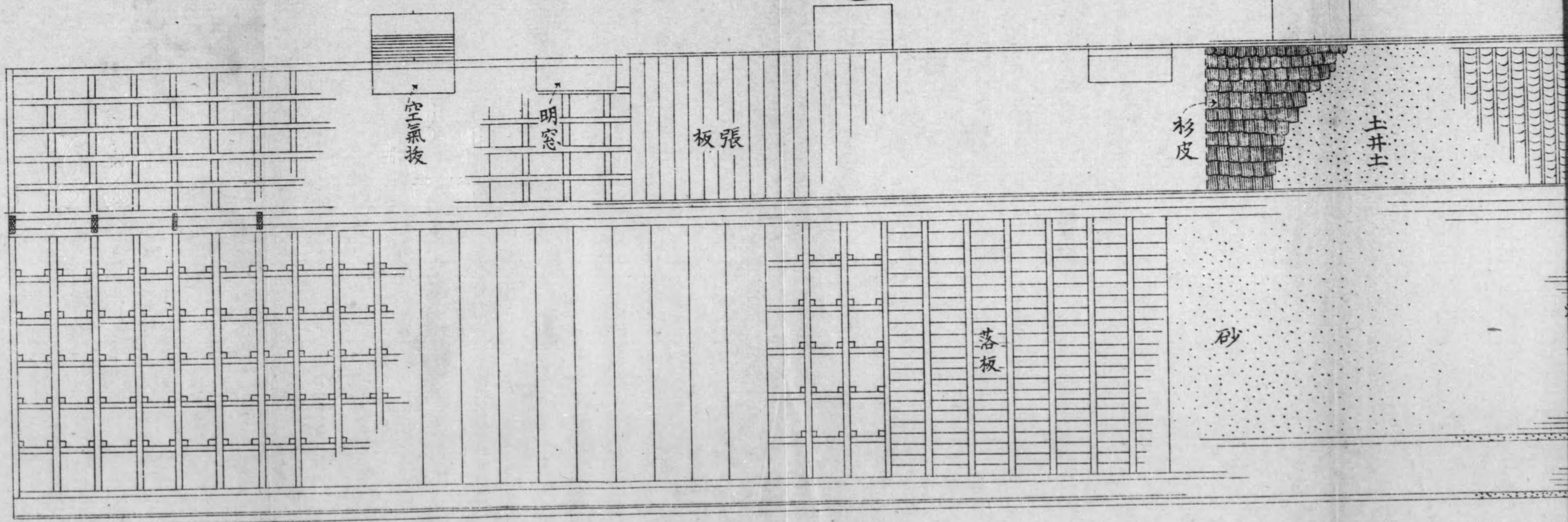
甲

乙

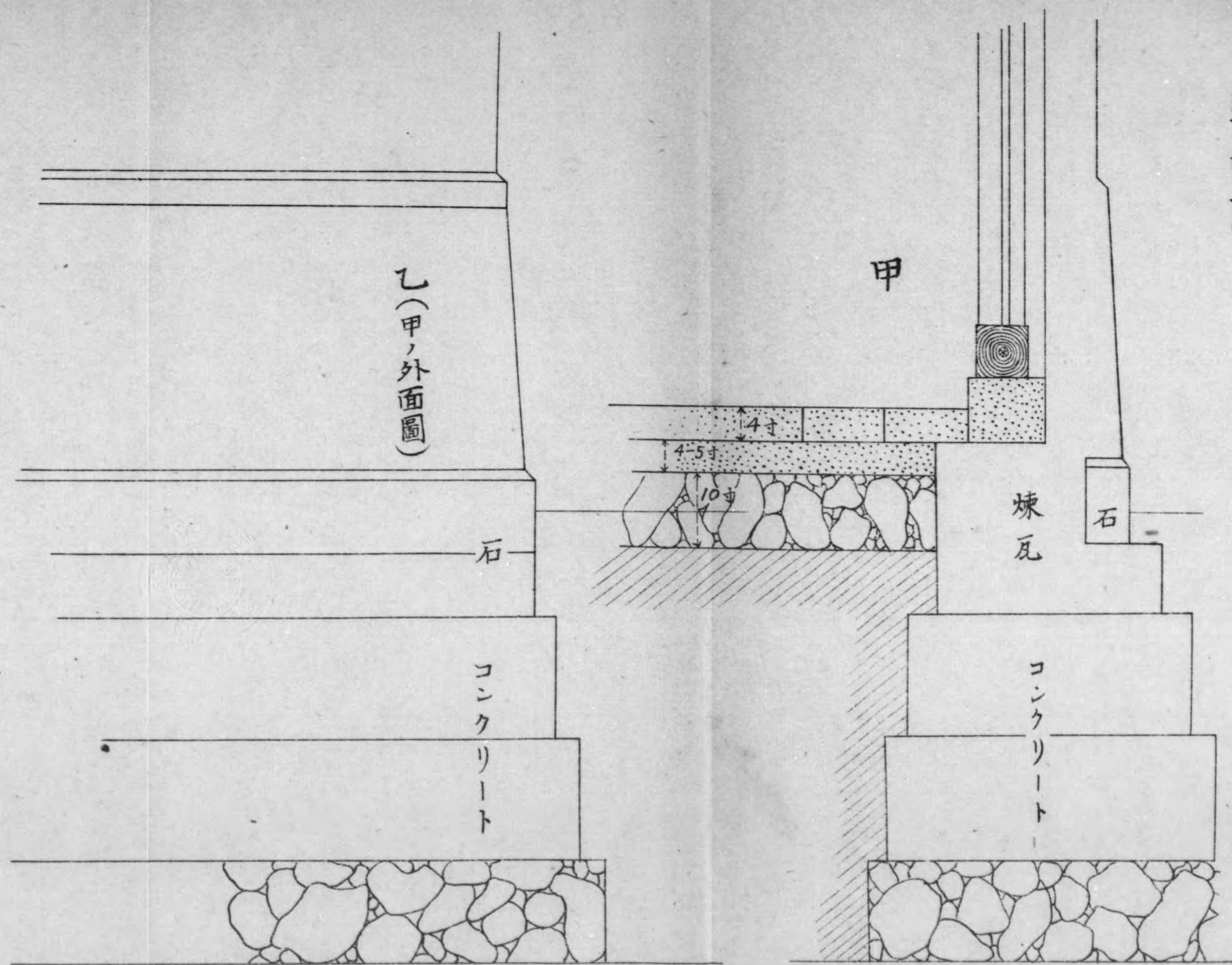


甲

乙



第四圖



乙(甲ノ外面圖)

甲

煉瓦

石

石

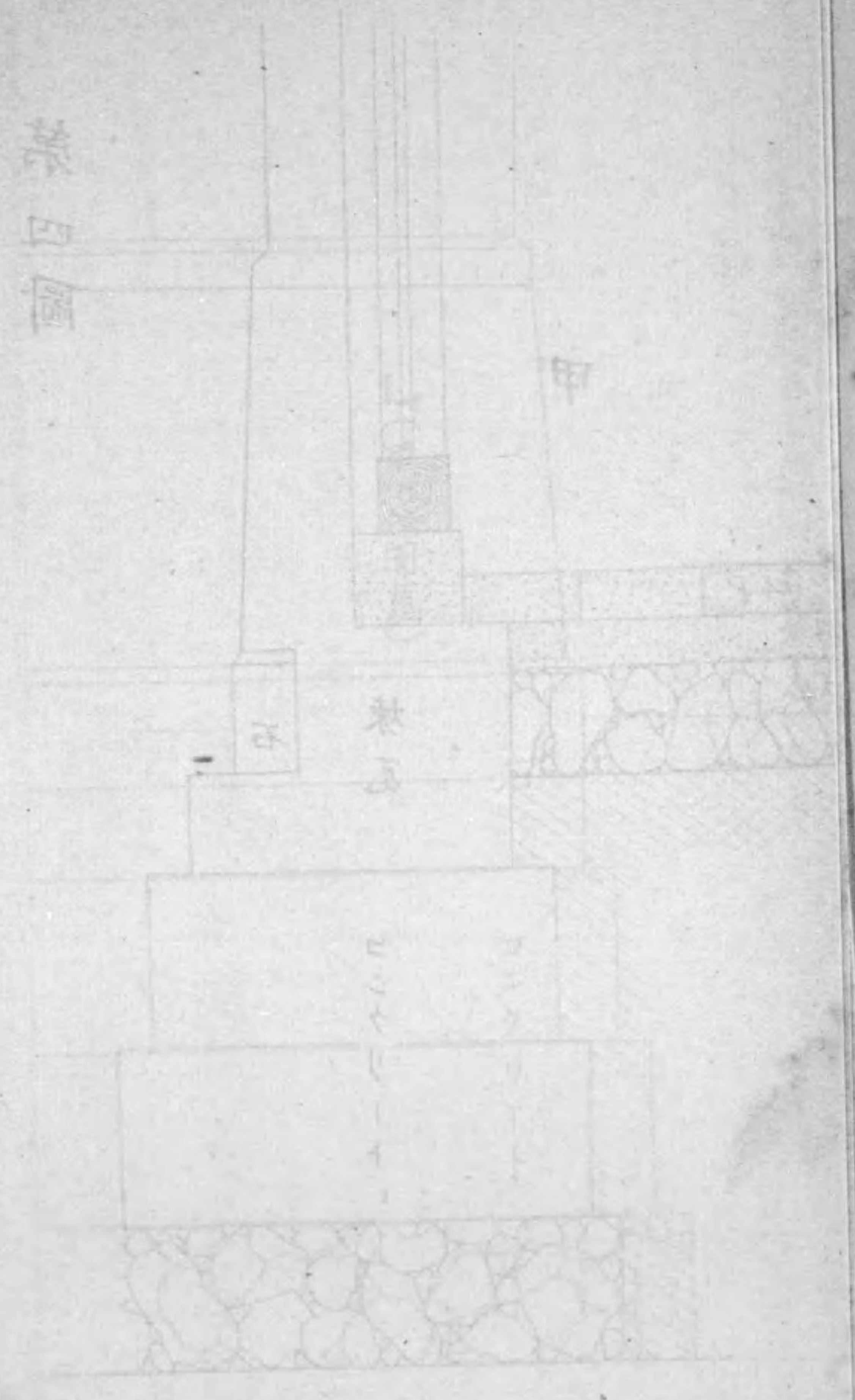
コンクリート

コンクリート

4寸

4-5寸

10寸



三、山口縣小郡町古林家倉庫

イ、地形 土臺下ハ深サ三尺幅三尺ヲ掘リ下ケ之レニ砂利ヲ水締ニシ其ノ上ニ二尺五寸角ノ石材ヲ敷キ更ニ其上ニ尺一寸角ノ長石ヲ三重(箱形)ニ敷圍ヒ此内(座下)へ砂利ヲ堅ク締入レ根座束持尺一寸角ノ石材ヲ用ユ

座下ニ八九尺毎ニ窓ヲ設ケ空氣ノ流通ヲ能クス(窓ノ大サハ三寸ニ一尺三寸)

ロ、壁ハ厚サ一尺二寸許ニシテ内壁ハ八分板ヲ以テ壁板トス

ハ、倉庫ノ大サハ奥行二間半間口八間ニシテ大垂九尺トス、之ヲ二戸前ニ仕切ル

ニ、地盤ヨリ棟迄ノ高サ二十五尺ニシテ根座ヨリ棟マテヲ二十二尺トス

ホ、根座下三尺ニシテ床下ノ掃除ニ便ス

ヘ、敷石上ニ厚サ三寸ノ臺輪(木材)ヲ用ヒテ柱ノ位置ヲ安全ナラシム

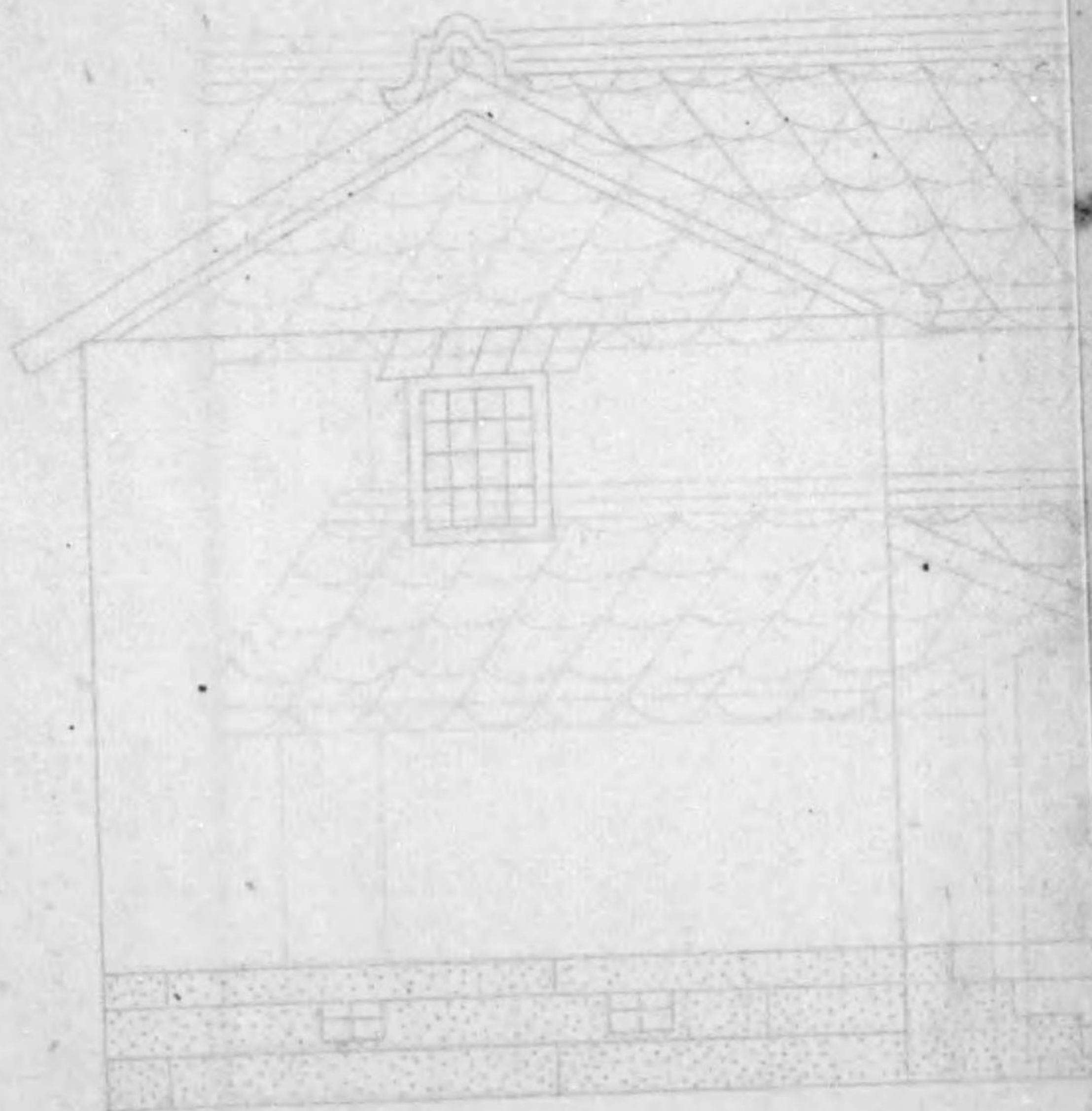
ト、倉庫内ハ年一回初秋ノ頃柿澁ヲ塗り貯穀ノ害虫ヲ豫防ス

チ、俵米ノ積方ハ座上ニ方五寸角ノ木材ヲ敷キ其ノ上ニ圖面ノ如ク重ネ積トス

リ、倉庫ノ左右側面ニ各一ヶ所及ヒ前面ニ二ヶ所ノ窓アリ、其大サ横二尺縦三尺ナリ

ヌ、位置ハ屋敷内ノ居宅ノ後ニアリテ西向トス

ル、周圍ハ何レモ家屋ナルモ西方及北方ハ隣接家屋ト相當ノ間隔アリ



第二節 新貯穀倉庫ヲ建設スル場合ニ特ニ注意ヲ要スト認ムル事項

本項ニ掲クル注意事項ハ土藏ニ限ラス一般倉庫ニ適用スヘキモノナリ又都會或ハ農村ニヨリテ實行不可能ノ場合ハ其ノ旨意ヲ適宜ニ採擇スルコト

一、土藏ノ場合

- イ、位置ハ可成高燥ニシテ且冷涼ナル所ヲ選擇スルコト
- ロ、方位ハ妻ヲ東西ニ向クルコト
- ハ、周圍ハ樹木等ヲ植エテ可成日光特ニ西日ヲ遮斷スルコト
- ニ、地形ハ可成堅固ニスルト同時ニ防鼠ニ注意スルコト、土臺下ヲ幅二尺深サ三尺位掘リテ割栗石ヲ詰メルカ「コンクリート」トスヘシ
- ホ、壁及家根ノ置土ハ可成厚クスルコト、何レモ五寸以上ナルコトヲ必要トス
- ヘ、窓及出入口ハ可成北向トスルコト
- ト、屋根ヲ高クシ可成一戸前ノ内容ヲ廣クスルコト
- チ、二硫化炭素ノ燻蒸ヲ爲シ得ル様ニ建ツルコト
- リ、換氣裝置ハ可成設クルコト、此場合ハ通氣作用ハ勿論ナレトモ併セテ火災、氣密、雨ノ浸入等

ニモ注意スルコト

二、石造倉庫及煉瓦倉庫ノ場合

石造倉庫ノ建築ニハ石材ニ注意シ耐久耐火ノモノヲ選フコト
煉瓦倉庫ノ壁ハ可成二枚トスルコト
穀物倉庫ノ建設ニ就キ一般ニ注意スヘキ事項ニ關シ東京、大坂及神戸ノ米穀市場ニ諮問セルニ左ノ如ク答申セリ(農務彙纂第十八號ヨリ再録)

第一 東京廻米問屋組合

日射ヲ避ケ風通シヲ能クシ庫内ニ空虚ノ多キ構造ヲ良シトス其要左ノ如シ

- (一) 熱氣ヲ受ケサル材料ヲ選ムコト成ルヘク土藏造リトシ若シ石造又ハ煉瓦造リトナストキハ内部ニ土ヲ三、四寸塗ルコト
- (二) 出入口ハ北向トシ朝夕ノ日射ヲ避クルヲ要ス、若シ南又ハ西向トナルナラハ前通りヘ日蔽ヲ兼ネ傘下見ヲ設クルコト
- (三) 軒ノ高サ地廻リ迄二十尺以上トシ一戸前ノ建坪ハ出來得ル限り内部ヲ廣濶ナラシムルタメ數十坪トスルコト
- (四) 東京地方ニ在リテハ内部ノ地盤ヲ土間トスルコト
- (五) 材料ノ種類ヲ問ハス倉庫ノ周圍ニ下見板ヲ以テ日蔽ヲ設クルコト

- (六) 出合ノ代リ戸ハ金網製トシテ風通シ能ク設計スルコト
- (七) 屋根ハ切妻トシ屋根ノ葺方ハ可成厚ク土ヲ塗り且急勾配ヲ採リ空氣拔ヲ設クルコト
- (八) 兩妻ニ風窓ヲ設クルコト
- (九) 鼠害ヲ防ク爲倉庫ノ周圍ニハ溝渠等ヲ設ケサルコト、尙ホ出來得ヘクンハ周圍ニ幅及深サ共四尺位ヲ掘リ砂ヲ詰メ置クモノ良シ
- (十) 倉庫建設地ノ周圍ニ樹木ヲ植込ムコト
右ニ附帶スル要件トシテ穀物保存上ニ關スル意見左ノ如シ
- (一) 倉庫ハ年中間斷ナク使用スルハ保存ニ害アリテ少クモ秋季ニケ月間ハ空倉トスルヲ可トス
- (二) 庫中ノ周圍ハ時々清潔ニ掃除シ鼠穴ヲ塞キ蟲殻ヲ除去スルヲ可トシ尙ホ一ケ年一回位倉庫ノ内部全面ニ鹽ノ苦汁ヲ散布スレハ穀物ノ害蟲ヲ防キ樹量ノ減耗ヲ輕カラシムルノ効アリ
- (三) 穀物積方ハ排嵩十俵位ヲ適度ト認ム但シ十一月ヨリ六月迄ノ間ハ排嵩十四、五俵トスルモ害アルヲ見ス
- (四) 壁際一尺位ヲ隔テ穀物積入スレハ保存ニ効アリ
- (五) 穀物ヲ積入レタル上部ニ菰或ハ藎ヲ以テ蔽フハ保存ニ効アリ但シ鹽菰ヲ蔽フトキハ菰或ハ藎ヲ以テ下敷トナシ其上ニ蔽フヲ可トス

第二 大坂穀物商同業組合

一、倉庫建設ニハ汽車、汽船ニ便利ナル場所ヲ選フコト
 一、構造、土藏造ヲ可トシ壁ヲ厚ク塗り地盤ハ「コンクリート」ニテ固メ床ハ水分ヲ含マヌ様厚キ板ヲ以テ張詰メ屋根ハ瓦葺ヲ最可トス
 直接上部ヨリ日光ノ當ラサル様ノ構造トナシ總テ窓ヲ横手ニ設ケ之ヨリ光線ヲ引クヲ可トス
 其他完全ナル防鼠工事ヲ要ス

第三 兵庫米穀肥料市場

穀物ノ倉庫建設ニ付テハ其貯藏期間ノ長短ニヨリテ自ラ其希望モ多少ノ相違アルヲ免レス當市場ノ如キハ各生産地ヨリ輸送シ來レルモノヲ永ク貯藏スル場合少クシテ常ニ集散頻繁ヲ極ムルヲ以テ從テ倉庫建設ニ就テモ永年貯藏ヲ目的トスルモノニ比シ聊カ異ル點ナキニアラス依テ穀物ノ集散地トシテ要點ヲ舉クレハ左ノ如シ
 倉庫ハ之ヲ石造、煉瓦造、土藏ノ三種ニ區分シ得ヘシ而シテ石造ハ棉花其他ノ高價品ヲ貯藏スルニ適スト雖穀物トシテハ經濟上ノ關係ヨリ煉瓦造、土藏ノ二種ニ依ラサルヘカラス然ルニ煉瓦造ハ水氣ノ發散スルコト土藏ノモノニ比シ遲キカ故ニ穀物貯藏中自然腐蝕ヲ早カラシムルヲ以テ假令鼠害等ノ點ニ於テハ土藏ニ優ル所アルモ結局完備セル土藏ヲ以テ適當ナリト思考ス

土藏ノ構造ハ地上ヨリ約二尺五寸位ノ高サニ築土ヲ爲シ倉庫ノ高サハ軒下三間ヲ以テ適度トス、床板用材ハ濕氣多キ松板ヲ避ケ杉板ヲ用ユルヲ良トス、窓ノ大サハ長サ二尺三寸巾一尺八寸入口ノ高サ七尺巾五尺八寸ヲ適度トス、總テ穀物ハ庫内ノ乾濕ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ濕氣ハ努メテ之ヲ避クルノ目的ヲ以テ建設スルヲ要ス、而シテ取扱上ノ注意トシテハ床板ヨリ一尺二三寸ノ高サニ更ニ枕木ヲ置キ其上ニ穀物ヲ積重ネ尙四方ノ壁ヨリ約四五寸ヲ隔テ排列シ庫内ニ適宜通路ヲ設クヘシ又窓ノ開閉ハ品質ノ保存ニ關係少ナカラサルヲ以テ寒暑、晝夜、光線等ヲ顧慮シテ取扱フヲ緊要ナリトス
 尙調査シタル地方別ニ注意事項ノ要點ヲ舉クレハ左ノ如シ、但左記地方以外ニ於テモ多大ノ材料ヲ得タルモ斷片的或ハ重復スルニ過キサルヲ以テ茲ニ省クコトトセリ

廣 島 縣

農村ニ於テ將來建築シ得ヘキ倉庫トシテハ從來ノ土藏ニ優ルモノナシ、煉瓦、鐵筋コンクリート倉庫ノ如キハ望ミテ得ヘカラサルモノナルヘシ、將來土藏ヲ建築セントスル場合ニハ次ノ條項ニヨリ建設スルヲ要ス

- (一) 位置 南北ニ長カラス東西ニ長キヲ良トシ、高燥ナル土地ヲ撰ヒ、方位ハ北向若クハ北東向トナサシメ南西ノ方ニハ少クモ落葉樹(可成濶葉樹)ナトヲ植エ込ミ日光ヲ遮ルト同時ニ温度ノ激變ヲ避ケシメ北ハ廣濶ナラシムヘシ

- (二) 倉庫ノ建坪 二、三ノ倉庫ヲ最モ便利トスルモノノ如シ
- (三) 地盤ハ地面ヨリ必ス高クシ床ハ「タタキ」若クハ「セメント」「アスファルト」ヲ以テ塗固ムル事ハ望ムヘキ事ナレトモ、能ハサレハ板張トナシ床ト地下トノ間隔ハ少クモ二尺以上トシ地上ヘハ川砂ノ如キヲ撒布スヘシ
- (四) 通風ハ自在ニシ且可成室内ヲ暗カラシムルコト、窓ハ北側カ、北東側ニ設ケ差支ナキ限リ少ナカラシムル事
- (五) 倉庫ノ周圍ハ掘リ下ケテ小石ヲ填充シ鼠害ヲ防ク様ニスル事
- (六) 住家トノ距離約二間以上トス

理由

- 一、經濟上ニ於ケル關係ナラン
- 二、温度調節ノ必要アルカ爲ナリ
- 三、濕氣又ハ非常(多クハ出火等)ノ場合ノ豫防
- 四、換氣ト庫内温度ノ調節ニアルカ如シ
- 五、「セメント」又ハ「アスファルト」ヲ用フルハ一ツニ鼠ノ豫防ニアルモノノ如ク尙「セメント」又ハ「アスファルト」ハ普通ノ壁土ニ比シ其密度高キカ故ニ庫内温度ノ上昇ヲ多少抑制スルモノノ如シ

石川縣

甲 普通のノモノ

シ、又床ト地面トヲ少ナクトモ二尺以上高クセシムル必要ハ床面ヘ濕氣ノ上昇ヲ防ニアルカ如シ

木造平屋建トナシ、四方及天井ニ土壁八寸以上ヲ塗り付ケ、内部ハ板張又ハ漆喰壁トナシ、床下ハ空氣拔窓ヲ附スヘク地上ヨリ一尺以下浮上ケ、地下ハ二尺以上ノ割栗石詰トシ、床ハ板張トナシ、窓ハ十坪ニ對シ十平方尺ノ標準ヲ以テシ、屋根ハ瓦葺トシ浮屋根トスヘク、外圍ハ風雪ニ曝露スル方面ニハ板圍ヲナスコト、地上五六尺ノ間ハ板石、煉瓦ヲ以テ圍フヲ良トス、漆喰ハ不良ナリ

乙 理想的ナルモノ

- 一、位置 土地高燥ニシテ人家稠密ノ巷ヲ遠カリ日光風雨ノ曝露ヲ避クヘキ防障ノ設備アリ殊ニ火災震災ノ憂ナキ場所ニ施設スルヲ以テ完全ナル位置タルヘシ、即チ海濱ノ如キ、山林丘岡ノ如キ空氣ノ乾燥セル場所ニシテ然カモ光熱風雨ノ直射曝露ヲ防クヘキ森林、樹木ニ富ミ四時常ニ氣温ノ變動ニ大差ナキヲ適良ナリトス
- 二、方位 東西南ノ三方ニ樹木アリ(北方ハ缺クトモ宜シク)戸前口、採光窓ハ何レモ北方ヲ最適トス、已ムヲ得サルトキハ東方ヲ撰フヲ可トス
- 三、地盤 砂礫土ヲ最良トス然ラサレハ地下二尺乃至三尺ヲ掘リ下ケ割栗石詰又ハ「コンクリート」

トナシ或ハ耐震工事ヲ施コスナト充分ノ地固メヲナスヲ要ス

四、床ハ下敷御影其他ノ板石ヲ敷詰メ其上ニ五寸角材ヲ一尺五寸又ハ二尺隔ニ並ヘ一寸以上ノ板張トナス

五、壁 土壁ハ一尺以上ノ厚サヲ要ス、又切石、煉瓦ヲ以テ疊ミ上ケルモ良トス

六、屋根 天井上ハ四方ト同シク土壁ナラハ一尺以上又板石五寸以上ノ厚サヲ以テ覆ヒ、屋根ハ必ス揚屋トナスヲ要ス、之レ瓦ノ收熱ニ際シ天井トノ間隔ヨリ常ニ通風換氣シテ内部ヘノ浸入ヲ防クノ利アレハナリ

若シ火災ノ慮リナキ場所ナレハ寧ロ天井ノ壁及石ノ覆ヲ省略シ上屋ノミヲ以テスレハ内氣ノ發散自在ナレハ貯藏物ノ保護上最モ適良ナル方法トセラレ

七、外圍 甲ニ同シ

八、室内装置 内側ハ板又ハ漆喰、豆砂利、「コンクリート」ヲ張詰メ俵積臺用トシテ床上ニ四、五寸ノ角材ヲ併行ス、窓ハ建坪十坪ニ對シ十平方尺以上ノ割合ヲ以テ開設ス、又床下ノ空氣抜窓ハ床面十坪ニ對シ一平方尺ノモノ二個以上トシ鐵扇又ハ切石戸付トスルコト

大要以上ノ如ク其設備ノ完全ヲ計リ以テ鼠虫害ノ防禦ヨリ火震ノ災害ニ對シ豫防ノ設備ヲナスト共ニ位置場所ノ撰定ヲ最モ注意シ其適良ヲ計ルニアリ例令ハ石川郡松任町ナル松任米券倉庫同郡美川町永

井米券倉庫ノ如キハ共ニ最近ノ建築ニ係リ概ネ理想ニ近キ設備タルヲ見ルヘシ

之レヲ要スルニ強チ建築構造ノ完備ノミヲ以テ貯藏上遺憾ナキヲ期スヘキニアラス右兩倉庫ノ如キモ建設以來三四年間ハ其用材ニ含蓄セラレタル水分ノ未タ充分乾燥セサル故ナルカ貯藏米ハ幾分腐化ヲ免カレサリシト云フ、又位置場所共ニ理想ヲ缺クヲ以テ將來必ス何等ノ變異ナク長期ノ貯藏ニ適スルヤ否ヤ疑問ナラストセス、彼ノ舊藩時代ノ堂形倉庫ノ如キハ其建築法殆ント今日ト同日ノ論ニアラスト雖其貯藏力實ニ優良ナルヲ見ル所以ノモノハ寧ロ其位置場所ノ然ラシムルニ基因セスンハアラス、山村部落ニアル粗造倉庫ハ卸テ貯藏ニ耐ユルノ實績ヲ見ル如キモ又然トナスヘシ

江沼郡大聖寺町ナル第八十四銀行支店所有倉庫(舊藩御藏)ノ如キハ其粗造亂雜殆ント物置小屋ニ等シク見ル影モナク類廢セルモノナレトモ貯藏常ニ安全ニシテ腐化スルコトナシト云フ、尙同郡ニ於ケル一種特有ノ構造ニナレル貯藏場ヲ各字部落ニ發見セラレタリ、其構造ハ壁ヲ施コスコトナク四方一寸板ヲ以テ圍フノミニシテ床下ハ殿宇ノ建方ノ如ク地上ヨリ一尺五寸以上ニ床ヲ張り床下ハ下柱ノミトシテ開放シ屋根ハ板又ハ瓦葺トシ一見物置納屋ノ如クニシテ然カモ貯藏セル粃ハ自然ニ乾燥セラレ米穀ハ何等變質スルコトナク殊ニ鼠、蟲類ノ被害絶無ナルハ奇トスヘク、爲メニ其利便一般ニ認メラレ漸次各農家ハ之レヲ設置スルヲ見ルノ狀況ニシテ今ヨリ二十年前頃ヨリ創マリタルモノナリト、其構造ハ方九尺一丈二尺高サ一丈位ノモノ、一棟ノ建築費七八十圓ヲ要スト云フ、何レモ相當ノ土藏ヲ

有スルモノニシテ尙之レヲ新設スルノ狀況ニアリトス
尙長期貯藏ニ耐ヘシムル方法ハ一度積込ミタルモノハ倉出ニ至ルマテ必ス移動スルコトヲ禁シ其儘
トナシ置クニアリ

鳥 取 縣

- 一、地盤堅固ニシテ高燥ナル通風宜キ乾燥地ニシテ貯穀ノ搬出入ニ至使ナルコト(土藏、煉瓦、鐵筋
「コンクリート」何レノ場合モ同様)
- 二、倉庫ノ建設ハ北方ニ面シ東西ニ延長セシムルコト
- 三、土藏ニアリテハ土臺石ハ切石積ノ密着シタルモノニヨルモ棒石ヲ一尺内外ノ間隙ニ配置シ通風自
在ナラシムルコト
- 四、經濟狀態ノ許ス限り可成屋根ヲ高クスルコト(各倉庫同様)
- 五、煉瓦、鐵筋「コンクリート」倉庫ニアリテハ建築材料ヲ吟味シ材料ノ使用ニ留意スルコト
- 六、土藏ニアリテハ倉庫ノ體裁ニ重キヲ置クコトナク出來得ル限り建築費ヲ少ナクスルコト
- 七、土地ノ狀態許ス限り樹木ヲ植付ケ樹蔭ヲ作ルコト(各倉庫同様)
- 八、貯穀害蟲驅除ノ爲瓦斯燻蒸ヲ行フ場合ニ使用スル完全ナル小倉庫ヲ附設スルコト

崎 玉 縣

- 一、位置ハ高燥ニシテ四圍ニ暗渠排水路ヲ設ケテ濕氣ヲ防キ且ツ四圍ニ常綠樹ヲ植付ケ日光ノ直射ヲ
遮ルコト
 - 二、方向ハ南若クハ東、東南向タルコト
 - 三、構造ハ左ノ如シ
倉庫トシテハ土藏又ハ石造、煉瓦造、板藏、鐵骨「コンクリート」造等アルヘシト雖一般農家ニ行ハレ易
ク且ツ貯穀上良好ナルハ土藏トス
壁ハ可成厚クシテ外氣ノ影響ヲ受ケサル様ニナスコト
屋根ハ二重屋根トシ上屋根ハ瓦、下屋根ハ土壁トナスコト
換氣窓ハ倉庫上下ニ適當ニ設クルコト
床ハコンクリート又ハ三和土ヲ以テ造ルコト
經費ハ材料ノ如何及各郡事情ヲ異ニスヘキヲ以テ一定シ難キモ平均坪當六七十圓トス
- 山 口 縣
- 貯穀ニ適スル倉庫建設ノ場合注意スヘキ要項左ノ如シ
- 一、鼠害ヲ防ク爲メ地伏下ハ深サ三尺幅二尺ノ溝堀リトナシ「コンクリート」ニテ堅固ニ固ムヘキ
 - 一、床ヲ高クスルコトバ俵米ノ搬入ニハ不便ナルモ斯クスレハ下敷米ニ濕氣ヲ及ホササルヲ以テ都

合宜シ、此場合床下ノ空氣ノ流通ヲ計ルコトニ注意スヘシ

一、外圍ノ壁ハ可成厚クスル方倉庫内冷涼ニテ可ナリ

一、位置ハ西南方ヲ塞キテ北方ノ開キタル處ヲ良シトス、若シ斯ル位置ヲ得難キ場合ニハ西南ノ方面ニ樹木ヲ植込ムヘシ

一、室内ハ板張トナサスシテ「セメント」ニテ柱モ共ニ塗り込ミ一切木質ヲ現ハササルヲ可トス

一、二硫化炭素燻蒸ノ場合ニ目張等ヲナサストモ漏出ノ患ナキヤウ構造上ニ注意シ窓ノ如キハ此場

合容易ニ密閉ノ出來得ル様注意シ置クヘシ

一、換氣窓ヲ設クル場合ニ南及西方ヲ避ケ可成北方ニ設クルヲ可トス

要スルニ鼠害ヲ防クコト倉庫内ヲ冷涼ニ保ツコト燻蒸ノ場合ニ密閉シ得ルコト及ヒ火災ニ罹ラサルコトノ諸點ニ注意スルヲ可トスヘク、煉瓦倉庫、鐵筋「コンクリート」倉庫ニ於テモ以上ノ四點ニ注意スヘキコトハ同様ナリトス

熊 本 縣

一、本柱ヲ長クシ屋根ト俵トノ間隔ヲ取ルコト

二、窓ヲ屋根上ニ設ケ密封シ得ラルルノ装置トナシ驅蟲ノ際空氣漏レサル様ニスルコト

三、床ハ板張トナサス完全ナル漆喰塗トシ乾濕ノ調節ヲ圖ルコト

四、雨日ヲ避クルノ装置ヲナスコト

五、瓦下及壁土ヲ厚クシ臺木ヲ五寸角以上トスルコト

六、時々苦鹽汁ヲ散布スルコト

七、臺木ノ上ニ炭俵ヲ敷込ムコト

第四章 貯藏方法

本章ニ於テ述ヘントスル貯藏方法ハ現在農家並ヒニ商人ニ依リテ實際ニ行ハルル所ノモノナリ、從來ノ貯藏方法ト稱スルモノハ米質保存ノ意義ニ觸ルルモノナキニアラサルモ多クハ穀蟲驅除法ト稱シテ可ナルモノナリ、例ヘハ最モ廣ク行ハルル締直法及保米袋ノ如キハ何レモ穀蟲ノ浸入ヲ防クヲ目的トスルモノニシテ米質トノ關係ハ不乾燥米ニアリテハ解俵後却ツテ不良ノ状態ヲ呈スト云フ、又鹽菰法、糠詰法、及糞灰混入法ノ如キモ同様ノ目的ヲ以テ行ハレタリ、但シ鹽菰法及締直法ノ如キハ米質保存ニ幾分關係アルカ如シ、以上ノ方法ヲ以テスルモ猶穀蟲ノ蝕害ヲ免レサルモノニアリテハ糶ヲ以テセリ即チ糶貯藏ハ或意味ニ於テハ米ノ貯藏法ノ一種ト云ヒ得ヘシ、斯クノ如ク專ラ穀蟲驅除ニ努メタル所以ハ想フニ蝕害程度カ直接賣買價格ニ著シク影響スルカタメナルヘシ、而シテ乾燥良好ノモノハ蝕害ニ罹ルコト少キハ公知ノ事實ナルモ地主ノ如キハ乾燥優良ナルモノハ自由ニ得ラレサル事情モアリ又秋收期ノ天候不良ノタメ充分乾燥スル能ハスシテ勢ヒ不乾燥米ヲ貯藏セサル可ラサル事情ヨリ專ラ消極法ニ出タルモノナルヘシ

之等ノ事情ハ今日ト雖猶依然タルモ二硫化炭素燻蒸ノ行ハレテヨリ穀蟲ヲ容易ニ根絶シ得ルヲ以テ從來ノ保米袋法、鹽菰法其他モ漸次影ヲ潜ムルニ至レリ、實ニ二硫化炭素燻蒸法ノ出現ハ米穀貯藏法

ノ歴史ニ一變化ヲ與ヘタリト云フヘシ

第一節 糶ノ貯藏方法

糶ハ米ノ保存上堅固ナル皮穀ニ依リテ保護セラルルカ故ニ玄米ニ比シ取扱粗雑ニテモ相當米質ヲ損セスシテ貯藏セラル即チ其ノ貯藏法ノ簡易ナル所以ナリ、而シテ實際ニ行ハルル貯藏法ハ簡易ナルカ爲種々雜多ナリ、今其ノ繁雜ヲ省ク爲貯藏所ニ依リ分類スレハ左ノ如シ

倉庫ニ屬スルモノ……………(イ)土藏(ロ)板藏

屋內…(ハ)納屋(ニ)梁(ホ)土間等

倉庫ニ屬セサルモノ
屋外…(ヘ)宅地ノ一隅

又積ミ方ヨリ分類スレハ俵積ト散積ト二種トス

(イ) 土藏ニ於ケル糶ノ貯藏ハ全國一般ノ慣行ヨリ見テムシロ異例ニ屬ス此ノ異例ハ地方的糶貯藏ノ盛ナル山梨縣ニ行ハルルハ奇トスヘシ、然レトモ山梨縣ニ於ケル糶貯藏ノ盛ナルハ小作米ヲ糶ヲ以テ納メシメ地主モ糶貯藏ヲ行フカ爲メニシテ之レガ他ト事情ヲ異ニスル所ナリ、地主ナレハ多數ノ糶ヲ貯藏スルノ必要上倉庫ノ大ニシテ且堅牢ナルヲ要シ加フルニ外見ヲ飾ル爲メ土藏ヲ建設スルニ至リシニ非ラサルカ一説トシテ記ス

土藏ハ一般土藏ト何等異ナル所ナシ、積ミ方ハ多ク俵積ニシテ玄米貯藏ト同様ナリ、多クハ單俵ニ

シテ容量ハ地方ノ慣行ニ依リテ一定セス、山梨縣ニ於テハ六斗六升ヲ一俵トスルノ習慣ナリ、散積ノ場合ハ板藏ニ於ケル同一ナリ

(ロ) 坂藏、元來粃貯藏ノ慣行ハ秋收期ニ於テ乾燥不良ナル地方ニ多ク行ハルルハ既ニ述ヘタル所ナリ、從ツテ粃ハ一般ニ乾燥良好ト云フヘカラサルカ故ニ貯藏中モ自然ニ乾燥セシムルノ必要アリ、故ニ空隙多ク空氣ノ流通モ自由ナル板藏ノ方却ツテ土藏ニ優ル譯ナリ、且粃ハ敢テ土藏ニ貯ヘテ之レヲ厚ク保護スルノ必要ナク却テ野積ニスルモ相當耐ヘ得ラルルモノナルカ故ニ經濟上ヨリスルモ板藏ヲ採用スヘキ筈ナリ、之レ一般ニ板藏ノ行ハルル理由ナルヘシ

板藏ニ於ケル積ミ方ハ俵積及散積共ニ行ハル、俵積ハ大低單俵ニシテ杉拵積ナリ、一俵ノ容量ハ全ク地方ノ慣行ニヨリテ一定セス

散積ノ場合ハ已ニ第三章第一節ニ於テ述ヘタル如キ取付ノ小室ヲ板藏ノ一隅ニ設ケ之レニ粃ヲ散ノ儘投スルナリ、此方法ハ貯藏裝置簡易ニシテ容積ヲ要スルコト少ク粃ノ出入ニ便利ナルタメ且ツ板藏ノミナラス土藏、納屋、土間等ニ容易ニ設ケラルルカ故ニ粃貯藏方法トシテ最モ廣ク行ハル、從ツテ地方ニ依リテ往々名稱ヲ異ニス(第三章第一節參照)ルモ其ノ内容ハ同一ナルカ如シ、即チ間口三尺、奥行三尺ノ一小室ニシテ多キモノハ此小室ノ數多キノミナリ、間口ノ兩柱ニ縱溝ヲ作り一尺幅ノ板ヲ上部ヨリ此溝ニ嵌メテ順次落シ粃ヲ支ヘ收納ヲ終リ、粃ヲ取出ス時ハ大低、最下ノ板ニ設

ラレタル小窓ヨリ出スナリ、一坪ノ貯穀量ハ大抵、六尺平方ニ高サ七八尺ヲ乘シタルモノナリ蓋ハ嚴重ニシテ鼠ノ浸入ヲ防ク外何等特別ノ驅除豫防方法ヲ講セサルモ乾燥良好ナレハ一ケ年位ハ蟲害ノ憂ナシト云フ

次ニ廣ク行ハルル貯藏裝置ハ井樓(井籠トモ書クコトアリ)或重櫃ト稱シ三尺四方高サ一尺位ノ木框ヲ所要タケ積ミ重ネ之レニ粃ヲ散ノ儘投スルナリ、此井樓ハ動カシ得ル點カ板圍ヒノ小室ト異ルタケニテ他ハ皆同様ナリ

(ハ) 納屋ニ於ケル粃貯藏ハ多ク散積ニシテ貯藏裝置ハ取付ノ小室及井樓ナリ

(ニ) 梁ニ繩ヲ以テ吊シ或ハ梁ノ上ニ丸太ヲ架シ其ノ上ニ粃俵ヲ並フル方法ハ小量ノ場合即チ多クハ飯米ノ貯藏ニ行ハル、鹿兒島縣及宮崎縣ノ一部ニハ此方法ニ依ルモノ多シ

(ホ) 土間ニ於ケル粃ノ貯藏ハ其ノ一隅ニ前記ノ板圍ヒノ小室ヲ設ケ之レニ散ノ儘ニテ貯ヘラルル外一時的ニ葦建ヲ作り之レニ同シク散ノ儘ニテ貯ヘラル

(ヘ) 屋外ニ於ケル貯藏ハ一般ヨリ云ヘハ特例ニシテ内地ニ於テハ佐賀縣及福井縣下ノ一部行ハル、(本節第一項佐賀縣參照)其ノ方法ハ甚タ簡單ニシテ宅地ノ一部ニ五寸位高ク地盛シ之レニ粃殼或ハ藁ヲ敷キ三十俵乃至八十俵位ヲ容ルル葦圍ヲ作り之レニ粃ヲ散ノ儘投シ其ノ周圍ヲ繩ヲ以テ巻キ上ケ上部ニ圓錐形ノ藁屋根ヲ設ケテ雨露ヲ凌ク、之レヲ佐賀地方ニ於テハ卷俵^{マキトウラ}ト稱シ上半部ニハ稍不乾

燥ナル粳ヲ入ルルモ貯藏中自然ニ乾燥シテ結果良好ナリト云フ
又竹籠ヲ骨子ト爲シ其上ニ壁ヲ塗リタルモノ或ハ中古ノ酒樽ノ外圍ヲ菰ヲ以テ巻キ之レニ粳ヲ投シ
同シク屋外ニ貯藏ス

尙朝鮮ノ一部ニ於テハ地上ニ石ヲ竝ヘ其上ニ粳ヲ俵裝シテ積ミ之ニ簡單ナル雨覆ヲ設ケ屋外貯藏ヲ
行フト云フ

俵積ト散積トハ何レモ一長一短アリテ容易ニ優劣ヲ定メ難シ、即チ俵積ハ貯藏ニ適シ運搬ニ便ナル
モ容積ヲ占ムルコト多ク之ニ反シ散積ハ容積ヲ要スルコト少シ、故ニ賣買ノ目的及團體トシテ粳ヲ
集積貯藏スル場合ハ俵積ヲ便トスヘク個人的ニ貯藏シ後ニ今摺米トシテ俵裝スルモノハ散積ヲ利ト
スヘシ

粳貯藏ノ注意トシテハ藏入以前ニ稻架ニ依リ可成良ク乾燥シ貯藏中ハ空氣ノ流通ヲ良クシ尙乾燥不
充分ノモノハ春季或ハ秋摺前ニ注意シテ乾燥セシムルヲ要ス

第一項 地方別粳貯藏方法ノ慣行

北海道

粳ハ俵裝セルモノハ玄米ノ如ク貯藏スルモ多クハ倉庫又ハ粳倉ノ中ニ厚板ヲ以テ仕切リヲナスカ又ハ
厚キ板ノ框ヲ重ネタルモノ、中ニ入レ置クモノ其ノ他納屋又ハ居宅等ノ一部ニ菴ニテ圓形ノ建ヲ造リ
此處ニ粳ヲ藏置スルモノアリ

埼玉縣

(イ) 倉庫ノ一隅ニ穀入ト稱スル板張リノ室ヲ設ケ之ニ納ムルモノアリ

(ロ) 穀櫃ト稱シ庭内ノ一隅ニ皮葺キ厚板圍床張リノ小屋ヲ構ヘ粳ノ儘堆積(異品種ハ各別々ニ堆積ス)
スルモノアリ

(ハ) 醸造用桶(通稱六尺桶)ニ貯ヘ菴ヲ嚴重ニシテ土藏内ノ一隅ニ格納スルモノアリ
千葉縣

粳ハ籾箱又ハ穀(ハメトモ云フ)ト稱スル板圍ヒノ内ニ粳ノ儘入レテ貯フ、然ラサルモノハ包裝シテ倉
庫、納屋、住宅等ノ一部ニ積ミ貯藏ス

茨城縣

貯藏裝置ハ農家ノ倉庫又ハ居宅内ノ一隅ニ小室ヲ設ケテ之ニ散ノ儘貯藏ス、包裝ハ粗造ノ單俵ニシテ
井形又ハ杉形ニ七八俵積ミ重ス、一坪ノ貯藏量トシテハ一定セス、蟲鼠害等ヲ受クルモ之レカ驅除豫
防ヲ行フモノナジ

栃木縣

粳ハ一般ニ一重俵ニ入レ又ハ穀櫃ニ入レテ貯藏スルモ倉庫ヲ所有セサルモノハ居宅ノ一隅土間等ニ丸
太ヲ置キ其上ニ俵ヲ積重ネ貯藏ス櫃繩ハ普通五ヶ所結ナルモ往々三ヶ所結トナスモノアリ

長野縣

粃ハ俵装シテ床上ニ積載スルモノト包装ヲ施サスシテ穀箱ト稱シ倉庫内ノ一隅ニ厚サ一寸内外ノ板ニテ圍メル高サ六尺間口二間内外、奥行六尺ノ戸棚様ノモノニ納メ之レニ貯ヘ夏季一回陽乾スルモノトス、又佐久地方ニテハ之レト同様ナルモノヲ倉庫外ニ設ケ倉庫ニ代用スルモノアリ成績良好ナリト云フ又板圍ハ地方ニヨリテハ内部ヲ亞鉛ニテ張ル處アリ南佐久郡方面ニ於テハ之レヲ「ツブシ」ト稱シ諏訪郡地方ニ於テハ粃文庫ト云ヒ西筑摩方面ニ於テハ「セイロ」ト稱ス即チ之等ノ装置ニ乾燥充分ナル粃ヲ納メ以テ貯藏スル慣行ハ本縣下ニ百リテ廣ク行ハル

山梨縣

俵装シテ藏入スルモノ縣下ノ大部分ヲ占ム、小作米粃納ノ慣行アル地方ハ全部此ノ法ニ依ル俵装法ハ一重俵ニテ五ヶ所詰ヲ普通トシ兩端ニ棧俵ヲ附シ、六年六升入ノ地方、七斗二升入ノ地方及七斗入ノ地方アリ、粃俵ノ積ミ方ハ單ニ横積トナスモノ最多シ、其ノ他ニハ井桁積アリ兩端一側ヲ井桁積トナシ中央部ヲ横積ト爲スアリ、横積一俵若シクハ二俵毎ニ横木ヲ置キ全部平積トナスモノアリ、高サハ六俵乃至八俵ヲ普通トス、一坪當リ積込ミ俵數ハ二階建ノ土藏ナレハ三拾俵然ラサルモノハ六拾俵内外ナリ、二本ノ丸太若シクハ五寸角臺木ヲ置ク、其ノ他俵ト爲サス二十俵乃至三十俵内外ヲ粃ノ儘「だいご」ト稱スル木箱ノ中ニ貯藏スルコトアリ、之等ハ縣下玄米納ヲ爲ス慣行ノ地方ニアリテ主トシテ自

作收穫ノ粃ヲ保管スル方法ナリ、北巨摩郡下ニ行ハル、「だいご」ハ倉庫内ニ凡ソ五尺立方ノ一寸板ノ箱ノ装置ヲ爲シ床ヨリ五寸位間隔ヲ置キ前面ノ板ハ取り外シ得ラル

新潟縣

倉庫ヲ有スルモノハ倉庫内ノ側壁ニ堅牢ナル板圍(之ヲ粃櫃、箱又ハせいろうト云フ)ヲナシテ其ノ中ニ貯フ、一坪ノ貯穀量ハ約十六石、此ノ方法ハ最モ手数ヲ要セス、且貯藏ニ適ス倉庫ヲ有セサルモノハ俵ニ入レ納屋又ハ土間ニ置ク、但俵ハ多ク入切りニシテ約七斗トス

富山縣

俵入貯藏、莖菰建貯藏、板圍貯藏ノ三種ニシテ其ノ最モ完全ナルヲ俵入包装貯藏ト爲ス、莖菰建貯藏之ニ次キ板圍貯藏ハ前二法ニ比シ米質ヲ損スル割合多シ昔時ハ屋外ニ堆積スル藁垣ノ中ニ粃俵ヲ入レ貯藏セシ習慣アリシモ現時ハ之ヲ行フモノナシ、俵入ハ約六斗俵トシ、俵装ハ一重又ハ二重アリテ一定セス積ミ方ニ至リテモ一定スルコトナシ、稀レニハ自家土藏内ノ一部ヲ仕切り函狀ノ板圍ヒヲナシ粃ヲ其内ニ入ル、アリ

石川縣

粃ハ俵ニ五斗或ハ六斗ヲ入レ土藏中ニ貯フルヲ常トスルモ板箱或ハ土藏ノ一隅ヲ板圍シ之レニ散ノ儘貯藏スルモノ等アリ此設備ハ最モ容積ヲ節約シ得ヘク又簡便ニシテ出入ハ一方ノ部戸ヨリナシ得ヘク

尙鼠害ヲ防クノ利アリテ倉庫ヲ所有スル農家ハ多ク之レヲ設備ス、由來今摺用糶ハ乾燥不充分ナルヲ以テ之レニ充ツルノ狀況ニシテ幾分ハ其貯藏中ニ於テ自然ニ乾燥ス殊ニ北國地方ニ於テハ收穫期ニ至レハ天候不順ナルタメ相當ノ乾燥ヲ得難キヲ以テ翌春又ハ白摺ニ際シ糶ノ莖乾ヲ行フ但此ノ慣行ハ産米検査ト同時ニ著シク減少セリ、尙特殊ノ方法トシテハ高サ一尺巾三四尺ノ方形無底箱四五箇ヲ土藏内又ハ適當場所ニ積ミ重ネ或ハ酒樽様器物ニ四五斗ノ糶ヲ入レ貯藏ス

福井縣

本縣ニ於テハ糶ノ貯藏ニ關シ四ツノ方法アリ、糶重、糶建、露天桶圍、露天藁圍ノ四ナリトス、就中一般的ニ行ハル、モノハ糶重、糶建ニシテ露天桶圍、露天藁圍ハ一部分ニ過キス

糶重、糶重ハ板ヲ以テ四角ナル底無キ箱(重)數箇ヲ作り倉庫ノ一隅ニ之ヲ裝置シ(一箇約五俵許ヲ容ル、コトヲ得)糶ヲ容ル、ニ隨ヒ一箇宛ヲ重ネ此ノ内ニ糶ヲ貯藏ス

糶建、糶建ハ多ク倉庫内ニ之ヲ設ケ莖又ハ菰ヲ以テ之ヲ包圍シ其ノ内ニ糶ヲ貯フルナリ(大小區々)

露天桶圍、屋外ニ桶ヲ裝置シ(多ク酒桶ノ古物)其ノ内ニ糶ヲ貯藏スルナリ、(尤モ藁ヲ以テ屋根ヲ葺ク)此ノ方法ハ貯藏後糶ノ乾燥ヲ良クスルノ効アリ、(桶ノ大サハ凡ソ五斗石ヲ容ルルモノナリトス)此ノ慣行ハ坂井郡、大野郡ノ一部ニ行ハル

露天藁圍、此ノ方法ハ屋外ニ土ヲ高ク盛リ其ノ上ニ糶殼二三尺ヲ盛リ更ニ其ノ上ニ一尺許リノ厚サ

ニヤタ藁(ヤタ藁トハ稻穂ノ糶ヲ打落シタル莖層)ヲ敷キ其ノ上ニ莖ヲ敷キ外圍ハ藁ヲ以テ作り其ノ内ニ少キハ二十俵多キハ五十俵ノ糶ヲ入レ藁屋根ヲ葺キ貯藏ス、此ノ方法ニ據ルトキハ多量ノ糶ヲ貯藏スルニ至便ナリ、貯藏後ノ成績ハ桶圍ト等シク乾燥良好ニシテ縣下糶貯藏ノ最モ盛ナル大野郡ニ慣行アルノミ

福島縣

一般ニ行ハルル方法ハ板藏、土藏、母屋又ハ納屋ノ一隅ヲ板ニテ圍ヒ俗ニ井籠ト稱スルモノニ納入シ置クモノトス

宮城縣

(イ) 俵入五十俵ヲ梁ニ吊下ケ又ハ藏入トナシ貯藏ス(ロ)井籠入、古ヨリ山間地方ニ行ハルル貯藏法ニシテ普通横三尺ニ縦六尺高サ一尺五寸位ノ板製ノ底無シ箱ヲ倉又ハ物置ノ中ニ重ネ其ノ中ニ貯藏ス(ハ)糶箱、倉庫ノ一部ニ箱ヲ備付ケ糶ヲ入レ貯藏ス

山形縣

土藏又ハ板倉ニ於テシ俵造又ハ俵造セスシテ貯藏ス

秋田縣

普通土藏又ハ板倉内ノ一部ヲ厚板ニテ仕切りタル板圍俗稱井籠内ニ入レ散ノ儘貯藏シ納稅其ノ他支拂

ヲ要スル場合或ハ其ノ年ノ作況並ニ相場ノ豫想付キ次第時々調製販賣スルモノトス、井籠ヲ用ヒサルモノハ五斗乃至一石ノ俵入トシタル儘乾燥シタル場所ニ貯藏スルモノトス

岩手縣

井籠、重櫃等ニ（長サ幅共五尺乃至六尺高サ一尺位ノ板框ヲ重ネ其ノ中ニ貯藏ス但其ノ重ネタル板框ノ全體ノ高サハ貯藏スヘキ粃ノ多少ニ依リテ定ムルモノナリ）等ニ粒入ト爲シ土藏、板倉、物置等ノ内ニ置クモ内ニハ素俵入トシテ貯フルモノナキニ非ス、粃ノ儘貯藏セルモノハ七、八十年ヲ超ユルモノ少カラスト云フ

青森縣

津輕地方ニテハ四斗乃至八斗入ニ俵裝シ倉庫又ハ屋内ニ貯藏ス、倉庫又ハ屋内ニ貯藏シ得サルモノ又ハ鼠害ノ虞アル場合ニハ屋外ニ屋根アル井樓ヲ造リ之レニ貯藏ス南部地方ニテハ俵裝ノ儘倉庫又ハ井樓ニ貯藏ス、南部地方ニテハ粃ノ儘永年貯藏スルモ津輕地方ニテハ翌年夏秋頃迄ナルヲ普通トス、梅雨後粃ヲ取り出シ莖ニ擴ケ陽乾シテ鬱蒸ヲ防ク

愛知縣

粃ノ貯藏ハ物置又ハ倉庫内ニ包裝シテ貯藏セラレルモ僅少ナリ

三重縣

多ク板倉ニシテ其ノ内部ヲ更ニ細ク區劃シ前ヲ落シトナシ之ニ粃ヲ散ニテ投入スルモノ多シ、或ハ又俵裝シテ積ムモノモアリ

岐阜縣

五斗入俵又ハ呷入等ニシテ三ヶ所緊縛シ倉庫又ハ住宅ノ一隅ニ玄米ト同様貯藏ス、又粃樹粃藏ト稱シ土藏ノ一隅ニ一坪内外區劃シテ貯藏ス

京都府

凡ソ一坪ニ高サ一尺ノ井籠ヲ必要タケ積ミ重ネ粃ヲ其ノ中ニ入レ倉庫内ニ貯藏ス其ノ他菰俵及五斗乃至八斗入ノ適宜ノ箱ニ入レ貯藏ス

大阪府

呷大樽又ハ粃入（粃入レトハ倉庫又ハ納屋ノ一隅ニ於テ濕氣ナキ場所ヲ選ミ上下周圍ハ總テ板張リトシ鼠等ノ侵入ヲ防ク裝置）等ニ貯藏ス

奈良縣

玄米ト同シキモ縮直シヲナサス又嵌メト稱スル倉庫ノ一隅ニ箱様ノモノヲ拵ラヘ之レニ入レ貯藏スルモノアリ

和歌山縣

粳ハ五斗又ハ八斗入一重俵トシテ倉庫内ニ積ミ重ネ貯藏ス
兵 庫 縣
粳ノ貯藏ハ其ノ數僅少ニシテ特記スルモノナシ

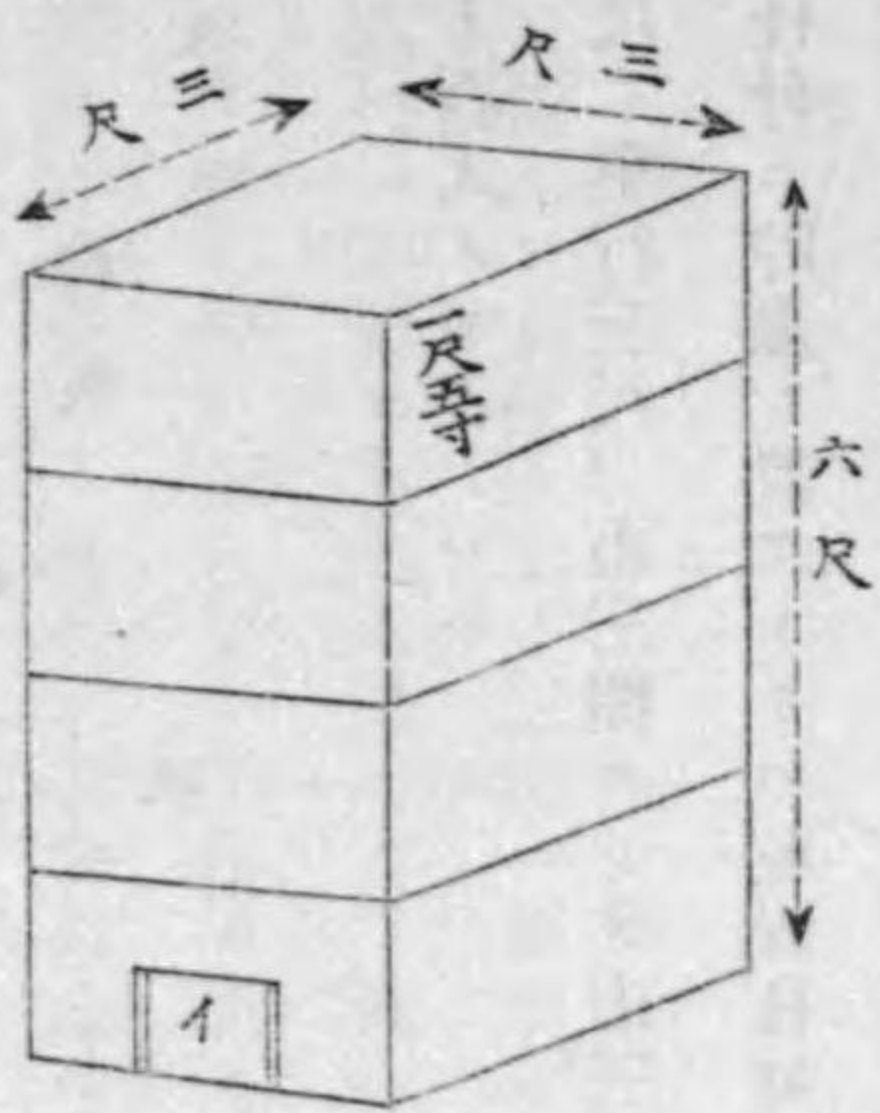
岡 山 縣

粳ニ在リテハ縣下最北部十數ヶ村中幾部落ノ農家ニ於テハ秋收ノ際粳ノ幾部（翌年春期迄ノ自家用飯米）ヲ糶摺ヲ爲シ殘部（翌年夏期後ノ自家用飯米）ハ粳ノ儘貯藏シ翌年五月ヨリ八月頃迄ニ必要ニ應シ時々糶摺ヲ爲シ自家食用ニ供スル習慣アリ、其ノ原因ハ山間ノ寒地ニシテ秋季ハ霧ノ爲粳ノ乾燥不可能ナルニ在リ、之カ數量ハ極メテ僅少ナリ其他一般トシテハ粳貯藏ノ習慣ナシ

廣 島 縣

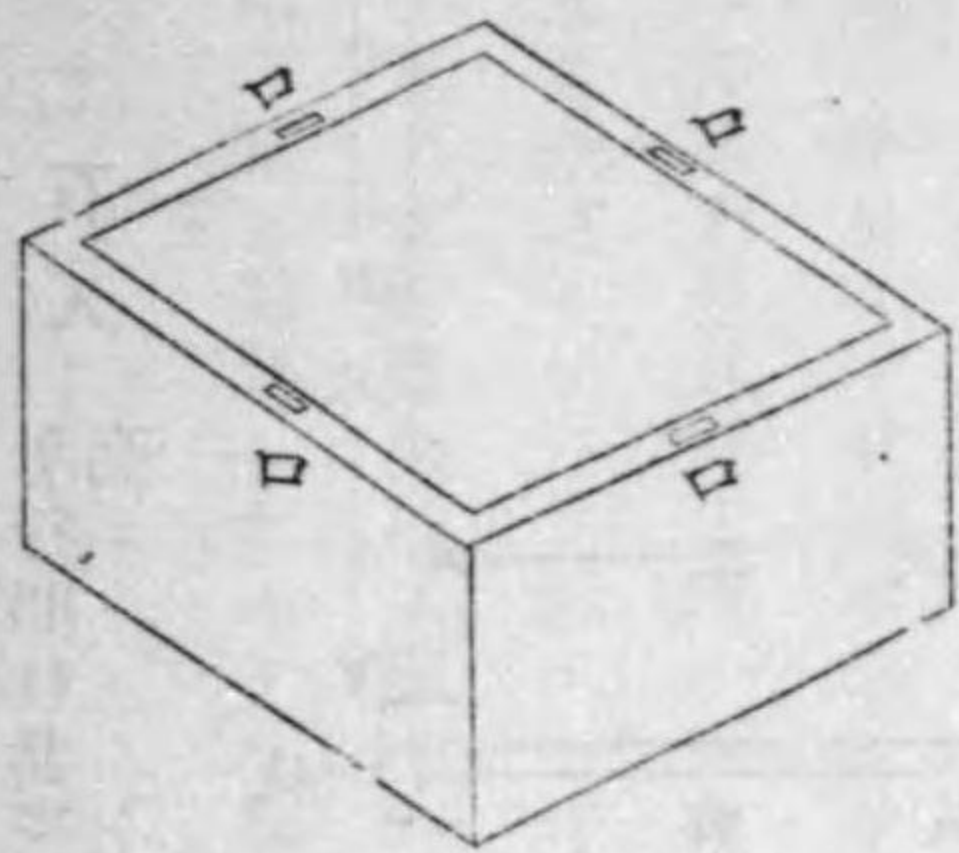
一般方法トシテハ秋收後二、三週間架乾ヲ行ヒ扱落シ其儘仕付若シクハ井籠中ニ貯藏ス、南部ニ在リテハ翌春晴天ノ日井籠ヨリ取り出シ約二日間莖ニ擴ケテ陽乾シ再ヒ之ヲ貯藏ス、又北部ノ或地方ニテハ酒造用ノ古桶ニ貯ヘタルニ結果良好ナリト云ヘリ、井籠ニ用フル板ハ主トシテ梅、杉ヲ用ヒ厚サ八寸以上ノモノニ限ル其ノ小ナルモノハ粳六石入大ナルモノハ十六石入位迄アリ
今六石ノ井籠ヲ圖示スレハ左ノ如シ

甲、井籠 全圖



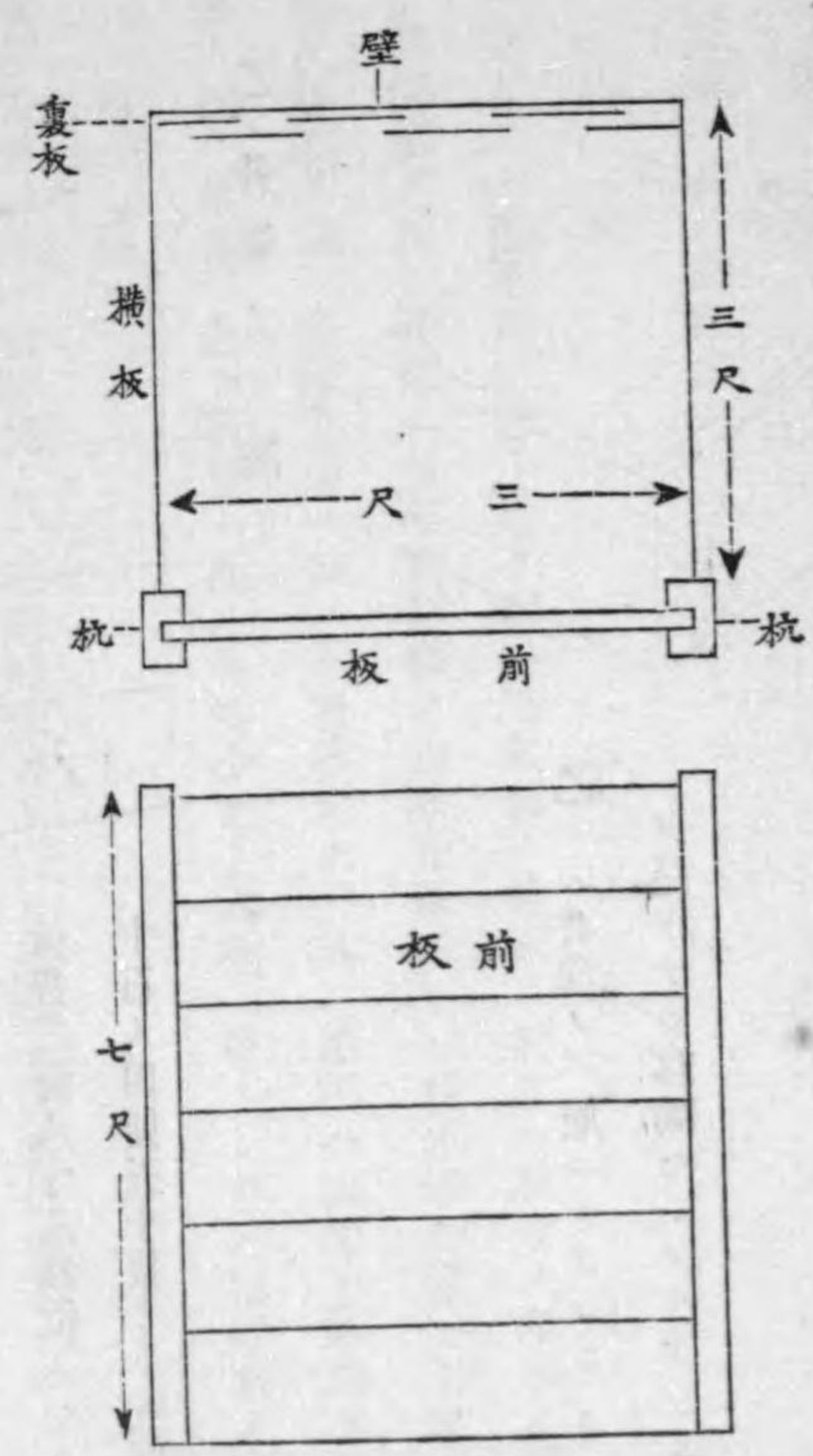
最上部ニ蓋ヲナス
最下部ノ小サキ引上戸（イ）ヲ引上ケテ粳ヲ出ス
用材正八分板ヲ用キ工賃二人手間（一圓）
材費二圓八十八錢位ニシテ一組代三圓八九十錢
十石入四圓五十錢——五圓

乙、井籠ノ一層



(乙) ハ井籠ノ一層ニシテ（ロニ「イボ」ヲ付シ上段ニハ穴ヲ穿チハメ込トナシ移動セシメサラシム

仕付十石入 奥行間口共三尺 價六、七圓



杭ニハ溝ヲ穿テ前板ヲ上下ニ移動セシム
前板ハ各五寸乃至一尺巾ノ板ニシテ一枚宛上部ヨリ嵌込ムナリ
艹ノ出入ハ上部ヨリシ上部ニハ之レニ相當スル蓋アリ

仕付ノ七十石入ノモノナレハ
高サ七尺 奥行三尺、巾三間ニシテ巾三尺毎ニ縦杭ヲ立ツ
井籠若ハ仕付ニ貯藏シ置クトキハ乾燥良好ナレハ病蟲害等ニ罹ル患ナク又緊密ニ蓋ヲ爲シ置ク時ハ鼠害等ノ恐ナシ

井籠ハ貯藏場ノ如何ナル場所ニモ運搬シテ据付ケ得ラル、モ仕付ハ其字ノ如ク貯藏場ノ一隅ノ壁ニ仕付ケラル、モノトス

山口縣

艹ノ貯藏ハ俵人ト木框入トノ二種ニ區別セラル、モ現今多クハ俵入トス、俵ハ一重ニシテ五斗入ヲ普通トシ倉庫内ニ毎列ニ小丸太又ハ竹ヲ横ヘ重ネ積トス、木框入ハ隨所ニ木框巾三尺長サ一間深サ一尺内外ノモノヲ据ヘ艹ノ量ニ從ヒテ框ヲ積ミ重ヌルモノトス、鼠害ニ對シテハ木框最モ優ルモ場所ヲ塞キ且ツ運搬等ノ不便アリ俵入ハ鼠害防止ニ困難アルモ運搬等ノ便ヲ有ス

鳥取縣

普通ノ倉庫ニシテ乾燥良好ナルハ床板上ノ上直接ニ俵ヲ積ミ乾燥不充分ナル倉庫ニテハ三寸位ノ枕木ヲ俵ノ下敷トナセリ、倉庫ヲ有セサル農家ハ住宅内庭土間ニ七八寸ノ枕木ヲ設ケ之レニ艹俵ヲ積ミ貯藏ス俵裝ハ四斗乃至八斗入トシ多クハ外俵ヲ用ヒス單俵ノ儘ニテ三ヶ所ヲ結束ス、積ミ方ハ杉拵法ニ依リ俵ノ大サ一定セサルヲ以テ一坪ニ貯藏スヘキ俵數明カナラス
俵裝ノ繁ヲ遮ケ尙貯藏面積ヲ狭少ナラシムル爲倉庫内ニ通例六尺四方ノ框ヲ作り之レニ秋收ノ際扱キ落シタル艹ヲ容レ鬱蒸セシメサル爲中央ニ竹、板若シクハ藁ヲ束ネタルヲ立テ通風ヲ良好ナラシムル裝置ヲナス

此ノ框中へ高サ六尺迄容ル、トセハ約三十三石ノ粃ヲ貯藏スルヲ得ヘク此ノ貯藏法ハ近時大ニ減少セリ、穀蟲鼠害ニ對シテハ特ニ設備ヲナシタルモノアルヲ見ス

島根縣

貯藏ノ方法ハ秋期取入ノ際俵又ハ俗ニ室ト稱シ土藏ノ一隅ニ板圍ヲナシ貯藏ス、俵ハ五六斗入トス

香川縣

倉庫、納屋、物置若シクハ住宅内ノ土間等ニ於テ頗ル粗漏ナル堆積ヲナセリ

愛媛縣

粃ノ貯藏ニハ之ヲ俵裝ト爲スモノト然ラサルモノトアリ俵裝トナシ貯藏スルモノノ積入方法ハ玄米ノ貯藏ト大差ナシト雖俵ノ積入ニハ其積上クル俵ノ各層間ニ直徑二三寸ノ丸太二筋ヲ併置シ貯藏スルヲ例トス、俵裝ト爲ササル粃ノ貯藏ハ土藏若シクハ住宅ノ一隅ニ八分乃至一寸ノ板ヲ以テ板圍ヲ造リ之ニ粃ヲ入レ其ノ上ヲ藁ノ類ヲ以テ被覆シ置クヲ例トス

高知縣

石入俵及枿(特ニ乾燥スル所ナルヲ要ス)ニ入レテ貯藏ス、多クハ一ケ年ヲ超ユルモノ少シ、石枿ノ容量ハ區々ニシテ十五石ヨリ三十石内外ナリ

福岡縣

粃倉、又ハ粃櫃ニ貯藏ス、粃庫トハ土藏又ハ木造ノ小形ノ倉庫ニシテ内部ハ總板張又ハ三和土漆喰トシ或ハ普通倉庫又ハ住宅ノ一隅ニ板圍トシテ設備スルモノニシテ粃櫃ハ木製ノ箱ニテ之ニモ同様貯藏ス

佐賀縣

粃ノ貯藏ニ就テハ從來種々ノ慣行アリ、佐賀郡ニテハ主トシテ卷俵ヲ用ヒ又一部ノ地方ニハ粃倉ヲ用フルモノアリ、神埼郡ニテハ卷俵、粃籠、粃倉ヲ用フ、三養基郡ニテハ粃室、桶箱等ヲ用フ、東松浦郡ニテハ明治二十年頃迄ハ容量六斗位ノ俵ヲ用ヒ屋内ノ土間ニ枕木ヲ置キ其ノ上ニ積ミ重ネ貯藏セシカ近來粃セコヲ用フルニ至リ以前ノ粃俵ヲ用フルモノ至テ少シ、杵島郡ニテハ前記ノ外粃トヤヲ設ケ貯藏スルモノアリ

此ノ他小城、西松浦郡地方ニ於テモ粃貯藏ノ慣行アリ、其ノ方法ハ前記ノ方法ト大差ナシ、

卷俵ノ圖



一、卷俵ハ菰ニテ作り之ヲ屋外ニ置キ雨覆ヲナス、容量三十俵乃至八十俵位

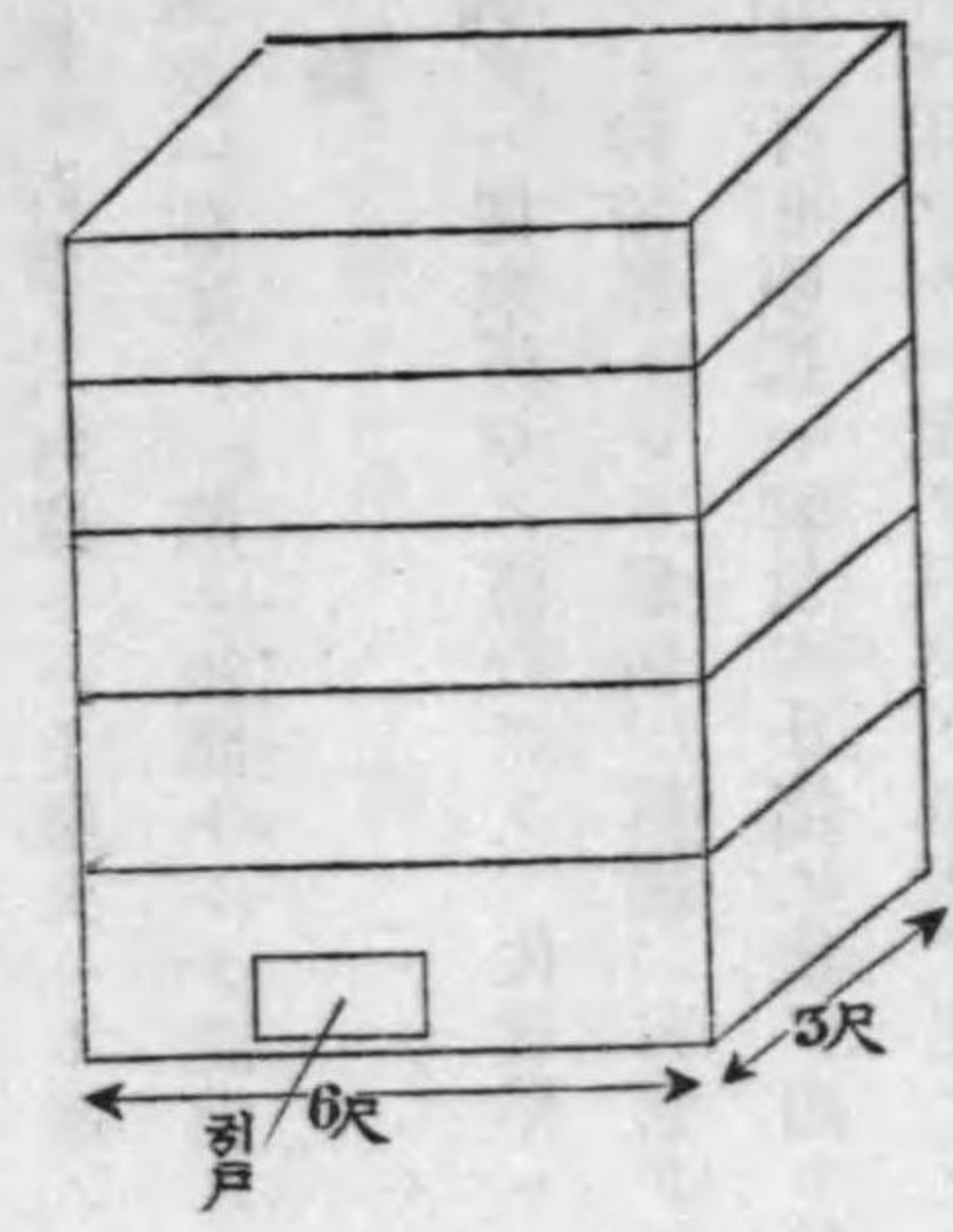
二、籾籠ハ圓筒形ノ竹籠ヲ作り外部ニ粘土ヲ塗り(壁ヲ塗ル如シ)雨覆ヲナス、容量二、三十俵

圖ノ籠籾



三、籾セコ、ハ巾三尺長サ六尺ノ箱ヲ作り積ミ重ネタルモノナリ、籾量ノ増加スルニ從ヒテセコハ逐次積ミ重ネ所要ニ應シ引戸ヨリ籾ヲ出ス

圖ノ[コセ]籾



四、籾トヤハ家屋又ハ收納小屋等ノ一隅ニ板圍ヲナセルモノナリ、前方ノ板ハ普通松ノ一寸板ニシテ側方ハ板又ハ壁、後方ハ家屋又ハ小屋ノ壁ナリ奥行三尺ニシテ番號ヲ記入シ、板ノ數一定セス

圖ノ[ヤト]籾

八 南	八 北
七 南	七 北
六 南	六 北
五 南	五 北
四 南	四 北
三 南	三 北
二 南	二 北
一 南	一 北
尺六	尺六

長崎縣
 扱落シタル籾ヲ精選後一二日間乾燥シ之ヲ四斗乃至五斗入ニ俵裝シ若シクハ其ノ儘土藏等ニ貯藏ス又俗ニセコト稱スル小ナル板張ノ貯藏庫ニ收メ若シクハ四斗乃至五斗入ニ俵裝シ之ヲ普通倉庫又ハ家屋内ノ一部ニ貯藏ス

熊本縣

農家ノ庭又ハ倉庫ニ臺木ヲ敷キ杉配ニ積ミ込ム、包裝ハ球磨郡ハ箱入トシ容積一坪ニシテ六石乃至九石入、天草郡ハ俵入トス、一坪ノ貯穀量ハ一定セス、自家用ノモノヲ糶摺スル時ハ再ヒ乾燥ヲ行フ、病蟲鼠害等ノ驅除法ナシ

宮崎縣

糶ハ乾燥ノ後四斗入ノ俵又ハ俵ニ入レ結束シテ倉庫内或ハ住宅ノ一部若クハ階上等便宜ノ場所ニ貯藏ス又糶櫃中ニ貯フルモノアリ

鹿兒島縣

糶ノ貯藏ハ從來横俵(三斗五升)ニ入レテ屋根裏ニ併列シ置クヲ普通トセシカ近來糶ヲ貯藏スル場合多ク俵(三斗乃至三斗五升)ニ入レテ前同様な根裏、納屋或ハ土間等ニ貯藏シ稀レニ板箱ニ入ルルモノアリ、貯藏シタル乾燥良好ナルモノト雖翌年梅雨時期ニ至レハ濕氣ヲ含ミ乾燥不十分ナルニヨリ糶摺立ノ場合ニハ更ニ一二日間糶莖乾ヲ實行ス

貯藏糶ニハ未タ本縣下ニ於テ病害ハ認めサルモ蟲害ハ往々穀象發生スルコトアリ、別ニ之カ驅除法ヲ施行スルモノナシ、鼠害ハ糶貯藏ニ於ケル最モ甚タシキ損害ニシテ一般之カ豫防ニハ大イニ憂慮スル

所ナリ、普通驅除法トシテハ猫ヲ放テ捕獲セシムルニアリ

福岡縣

三潞郡 本郡ハ糶貯藏高ハ五萬二千五百石ト稱セラル

(一) 住宅又ハ土藏ノ一隅ニセコ(板ヲ以テ上下及三面ヲ張切リ一方ヲ開放ニ便ニセルモノ)ヲ裝置シ以テ裸ノ儘貯藏スルモノ

(二) 俵又ハ俵ニ入レ以テ杉配狀ニ堆積シテ貯藏スルモノ

(三) 卷俵(糶ヲ以テ菰ヲ製シ以テ圓筒ヲ作り數段高サ九尺位ニ至ルモノアリ)ニ貯藏スルモノアリ而シテ一坪ノ貯穀量ハ二十三石ヨリ二十四石ニシテ他ハ三十三石ナリ、貯藏前充分ノ乾燥ヲ加フルモノト乾燥半ニシテ貯藏シ製穀前更ニ乾燥ヲ加フルモノアリ又セコ貯藏ハ鼠害ノ恐ナキモ風ノ流通セサルヲ以テ原質ヲ變スル事アルト蟲蝕ノ歩合多シ

遠賀郡 糶倉ハ一間四方位ノ土藏造リニコンクリートノ土間トシ之ニ裸糶ノ儘貯藏ス

糶櫃、長一間巾三尺高六七尺位ノセイロ式ノ箱ヲ倉庫又ハ其ノ他便宜ノ箇所ニ据ヘ置キ之ニ裸糶ノ儘藏ス、若シ又小農ニシテ此等ノ設備ヲ有セサルモノハ其ノ他ニ糶俵ニ入レテ貯藏ス

早良郡 糶倉、土藏内ノ一端又ハ一隅ニ直筒形若クハ立方形ニ梓ヲ組立テ其三方ハ板又ハ板壁トナシ一方ヲ幅一尺内外ノ厚板ヲ以テ繼キ重ネテ中ニ糶ヲ入レ上ニ板蓋ヲナス而シテ此ノ中糶ヲ取出スニハ

其ノ繼キ重ネタル板ヲ上ヨリ一枚宛取り下ケテ搔キ出スモノナリ
籾箱、之レハ幅一尺内外長サ四五尺ノ板ヲ以テ周圍ヲ枠ニ組ミタルモノニシテ此ノ無底枠ヲ幾段ニモ
組ミ立テ中ニ籾ヲ入ルルナリ

一坪ノ貯穀量ハ籾量約三十三石二升ニシテ之ヲ玄米ニスル時ハ約十八石トナル以上籾倉及籾箱ニ貯フ
ル籾ハ秋扱落シタル籾ハ晴天二三日間乾シ上ケテ入ルルナリ而シテ之ヲ春夏ノ候隨時扱摺ヲナス前一
日位莖ニ擴ケテ乾燥シタル後摺リテ玄米トナスナリ

蟲害、鼠害ノタメ損失ヲ受クルコト玄米貯藏ヨリモ却テ多キモ農家ハ此ノ貯藏籾ヲ正確ニ計量セサル
タメ玄米ノ吸入貯藏ヨリ損失少キモノト誤信シ居ルモノノ如シ、之レ大ニ改良ヲ要スル所以ナリ

第二項 貯藏ニ關シ特ニ注意スヘキ事項

一、籾ノ乾燥ニ注意スルコト

籾ト雖乾燥不良ナルモノハ蟲害、霉蒸、腐敗等ノ虞ナキニアラス、元來籾ノ貯藏ハ秋收期ノ天候不
良ノタメ乾燥充分行ハレス之レヲ摺リ玄米トシテ貯藏スルトキハ蝕害ニ耐ヘサルヲ以テ自然ニ行ハ
ルルニ至レルモノ多シ、故ニ貯藏籾モ亦乾燥良好ト云フ可カラス、從ツテ其儘ニ放置スレハ蝕害ハ
ヨシ免ヌカルト雖今摺米トナルトキハ品質ノ惡變スルコト急激ナルカ故ニ秋收期ハ天候上已ムヲ得
サルトスルモ春季日光ノ力弱キ時期ニ取出シ乾燥スルコト頗ル肝要ナリ、勿論板藏ニ貯藏スルトキ

ハ幾分自然ニ乾燥スルト雖乾燥良好ナル程貯藏状態モ亦良好ナルカ故ニ尙此ノ注意ヲ要ス、現ニ巖
手縣沼宮地方、福島縣會津地方、長野縣、石川縣、青森縣等ニハ此習慣アリ

二、濕氣ヲ避クルコト

前項ノ同様ノ理由ニ依リ濕氣ヲ避クルコト必要ナリ

三、貯藏中可成自然ニ乾燥スル様取扱フコト

前項ノ理由ニ依リ籾ハ概シテ乾燥良好ニアラサルカ故ニ貯藏中モ亦可成自然ニ乾燥スヘキ方法ヲ取
ルハ當然ニシテ之レカ爲ニハ臺木ノ上ニ積ムコト、俵ノ一並毎ニ二本ノ竹ヲ敷キ幾分間隔ヲ取ルコ
ト、壁際ニ接シテ積マサルコト等ノ注意ヲ必要トスヘク尙一般ニハ散積ヨリハ俵積、(石川縣ニ於テ
ハ全ク反對ニ俵、叭類ハ水氣ヲ吸收シ易キ故ニ木製ノ框、桶等ニ密閉貯藏スヘシト云フ)土藏ヨリハ
板藏ヲ以テ適當ト認ムルカ如シ

其他玄米貯藏ニ關スル注意事項ハ大低參考トスヘキモノナリ

第二節 玄米ノ貯藏方法

玄米貯藏ハ特別ノ場合ヲ除ク外總テ俵積ナリ、故ニ貯藏裝置トシテ特別ノモノナシ、只必ス臺木ヲ置
キテ最下層米カ濕氣ノ爲ニ變質スルヲ防ク位ノモノナリ、臺木ハ地方ノ慣行ニ依リテ異ナレトモ多ク
ノ場合五寸角、長サ二間位ノ木材ニシテ之レヲ二本敷キ其上ニ俵ヲ積ムナリ、或ハ之レヲ廩木トモ稱

ス

新潟市ノ三菱倉庫、酒田三居倉庫ノ如キハ直径五寸位ノ萱束ヲ臺木ノ代用トナス、尙粗糠ヲ五寸乃至一尺ノ厚サニ敷クカ或ハ粗糠俵ヲ一俵敷クハ同シク防濕ノ爲ナリ

包装ハ麻袋、叭、苳俵、菰俵等アレトモ麻袋ハ輸出入米ノ容器ニ限リ叭ハ耳ノ部分ヨリ害蟲ニ蝕サレ易ク貯藏上結果不良ナルタメ現在玄米ノ容器トシテハ殆ント用フルモノナキモ（佐賀縣ハ叭入ナリ白米ノ容器トシテハ多少用ヒラル、苳俵ハ地方ノ慣行ニ依リ時トシテ外俵ニ用ヒラルルコトアレトモ多クノ場合ニハ菰俵ナリ

菰俵ハ一重及二重ノ二様アリテ米穀検査事業ヲ行ヘル地方ニ於テハ規則ニ依リ規定セラレ其他ノ地方ニ於テハ慣行ニ依リテ定メラルルモ縣外輸出米ハ大抵二重俵裝ナリ、其ノ俵裝ノ一般ヲ述フレハ左ノ如シ但シ地方ニ依リ多少異ナルハ勿論ナリ

内俵ノ造リ方

- 菰皮 四ヶ所編ミ 量目六百匁
- 繩 横繩周リ一寸三分 小口繩一寸
- 棧俵 徑一尺 量目二個ニテ百五十匁位
- 繩掛方 横繩三ヶ所結ヒ

小口 目通シ八ヶ所普通懸リ

外俵ノ造リ方及締方

- 菰皮 四ヶ所編ミ 量目五百匁
- 形狀 長サ二尺七寸 徑一尺四寸
- 繩掛方 横繩二筋五ヶ所結ヒ縦繩一筋四方掛ケ三ヶ所内蛙股二ヶ所引掛ケ兩小口蛙股疣結ヒ
- 小口 目通シ十一ヶ所普通懸リ
- 締方 強ク緊縮ス

尙右ノ外容器トシテハ酒桶アリ、筑後地方ニ於テハ小作米ヲ裸ニテ受取慣行アリテ地主ハ已ムヲ得ス酒屋ノ古桶ヲ買ヒテ之レニ散積ト爲スナリ、貯藏中ハ密閉スルカ故ニ乾燥不良米ハ醱酵スル傾アリテ概シテ結果良好ナラスト云フ

俵ノ積ミ方ハ地方ノ慣行及戸前ノ大サニ依リテ異ナル、商人側ニ於テハ五俵併七俵併其他種々複雑ナル組合ヲ用フルモ農家ニ在リテハ杉併或ハ四角積ヲ普通トス、俵積ノ順序モ倉庫ノ大サニ依リテ異リ最小ノ倉庫ニアリテハ奥ヨリ戸口ニ向ツテ稍々大トナレハ戸前ノ兩側ヨリ始メ中央ニ及スヲ例トシ通路ヲ設クル必要アル場合ニハ中央ニ一本或ハ更ニ大ナル戸前ノ場合ニハ兩側ト中央俵積ノ中間ニ二本ヲ設ケ更ニ進ンテハ之ト直角ニ兩側ニ及ホスヲ普通トス

一坪一竝ヒ八俵ニシテ一坪ノ貯穀量ハ約百俵ナリ、枳高ハ下敷ノ關係上十五俵迄トス、但シ貯藏上ヨリ見ルトキハ可成天井トノ間ヲ廣クスル必要上倉庫ノ高サニ應ジテ積ムヲ要ス
 配列ノ順序ハ一旦積ミタル以上ハ可成動かササルヲ良シトスルカ故ニ早賣豫定ノモノハ戸口ニ近ク置キ又乾燥不良ノモノハ良好ノモノヨリ離シテ積ムカ或ハ他倉庫ニ積ムヲ例トス、但シ倉庫會社ニ於テハ之等ノ順序ニ行ハレ難キハ蓋シ止ムヲ得ザルモノトス
 貯藏中病蟲、鼠害ニ依ル損失ハ直接利益勘定ニ影響スルヲ以テ貯藏者ノ最モ苦痛トスル所ナリ、故ニ在來ノ貯藏法ト云ヘハ殆ント蟲鼠害ヲ免ヌカルル消極法ニ外ナラス、然カモ何レモ根本的方法ナラサル爲大集積ノ米ニ對シテハ自然放置ノ状態ニ在リシモ近時二硫化炭素燻蒸ノ蟲鼠驅除ニ有効ナルヲ知リテ漸次各地方ニ於テ此ノ方法ヲ採用スルニ至レリ

次ニ在來法ノ二、三及二硫化炭素燻蒸ノ成績ヲ略述スヘシ

一、保米袋

保米袋トシテ紙袋ノ使用ハ三重縣伊賀、愛媛縣南豫地方、佐賀縣其他ニ於テ從來ヨリ一地方ノ慣行トシテ行ハレタリ、紙質ハ仙華紙（一枚或ハ一袋三錢位）ノ如キ一回限リノモノト澁紙ノ如キ數回使用スルモノトアリテ絶對ニ穀蟲ノ浸入ヲ防クコトハ難シトスルモ相當ノ効果アリテ之ヲ用ヒサルモノニ比シ高價ニ賣買セラレタリト云フ、使用法ハ内俵ノ内ニ入ル、ト内外俵ノ中間ニ挾ムトノ二

様アリテ多少ノ手數ヲ要スル爲小作者及自作者ノ小數ノ販賣米ニ限リ行ハレ地主ノ販賣米ニハ行ハサリシカ如シ

此慣行ハ毀損ノ場合著シク紙袋ノ効力ヲ減スルト一方二硫化炭素燻蒸法ノ普及ニ依リ漸次減少スル傾ナリ、只自家用ノ玄米及白米ニハ今尙行フモノアリ

二、食鹽或ハ苦鹽汁

食鹽或ハ苦鹽汁ハ古來貯穀ト深キ關係ヲ有スル如ク唱ヘラレ俵米ヲ鹽菰ニテ包圍シ置クトキハ夏季ヲ經過スルモ品質並ニ榊量共ニ變化スルコトナシト云フ而シテ現今モ尙實例トシテ鹽藏或ハ苦鹽汁ヲ以テ固メタル土間ヲ引證シテ此ノ說ヲ確ムルモノ全國各所ニ普キモ未タ慣行トシテ見ルヘキモノナシ元來苦鹽汁ハ吸濕性ノ物質ヲ多量ニ含ムカ故ニ庫内ノ湿度ヲ調節シ米質ニ好影響ヲ與フルハ考ラレサルニ非ラサルモ蟲害ヲ防ク効力ニ至リテハ尙疑問トス、一說ニ苦鹽汁ハ庫内ノ氣温ヲ低ムル傾アリト云ヘハ其ノ結果或ハ穀蟲ノ活動ヲ抑制スルニ非ラサルカ何レトスルモ鹽ト貯穀ノ關係ハ今後研究ノ價值アリト認メラル

三、締直法

締直法ハ廣ク全國ニ亘リテ行ハレ貯藏上一般ニ有効ナル方法ト認メラル、方法ハ極メテ簡單ニシテ單ニ弛ミタル繩ヲ締直シテ俵ヲ緊縮シ以テ穀蟲ノ浸入ヲ防クニアリ、之モ多數行フ場合ニハ相當ノ

努力ヲ要スルモ梅雨期後迄貯藏セントスル場合ニハ地主ニ至ル迄之ヲ行フト云フ、締直時期ハ大低寒中ナルヲ以テ又寒縮法トモ稱セラル、或ハ梅雨期前ニ之ヲ行フモノモアリ、往時江州ノ締米ハ品質優良ニシテ蟲氣ナキ爲市場ニ聲價ヲ揚タリト云ヒ現ニ近江米同業組合ハ同地方ノ舊慣ニ從ヒ普通米(グサ米ト稱ス)ニ對シテ締米ヲ區別シテ取扱ヒ居レリ、而シテ更ニ小口ヲ固ムル爲ニ一尺位ノ棒杭ヲ打込ムモノスラアリト云フ以テ米俵ノ緊縮カ穀蟲ノ侵入ヲ防禦スル上ニ至大ノ効アルヲ知ルヘキナリ

四、糠詰法

倉庫ノ一隅ヲ板ヲ以テ圍ヒ單俵ノ俵積ノ間ヲ完全ニ粉殻ヲ以テ填充スル方法ニシテ鼠族ノ害ヲ受ケスシテ米質ヲ良ク保存スルト云フ、少數ノ篤志家ニヨリ行ハルルニ過キサルナリ

五、糞灰混入法

一俵ニ對シテ一斗五升位ノ糞灰ヲ混入シ置ケハ貯藏上頗ル有効ナリト云フ、此法ハ勿論自家用米ニ限ラルルモノニシテ一部ニ行ハルルニ過キサルナリ

六、二硫化炭素燻蒸ノ當初ハ一般ニ疑問ヲ迎ヘラレ商人側ニアリテモ燻蒸米ハ多少變質ヲ免ヌカレサルヘシト考ヘ或ハ商略上燻蒸米ハ色澤ヲ損シ食味劣ルト稱シ幾分安價ニ賣買セラレシコトアリシモ爾來當業者ノ經驗及試験ノ結果何等惡影響ヲ殘スモノアルニアラサルコト明白ニナリシヲ以テ商人

側ニ於テモ却ツテ蟲付ナキ爲之ヲ歡迎スルニ至レリ而シテ二硫化炭素燻蒸ノ普及ハ指導者獎勵宜シヲ得シト當業者ノ燻蒸ノ効果顯著ナルコトヲ自覺セシ結果今ヤ長足ノ進歩ヲ爲シ相當米ヲ貯フルモノニシテ之ヲ行ハサルモノ殆ント無キ現況ナリ、只農村ニアリテ適當ノ倉庫ヲ有セサル農家及都市(神戸、東京)ニアリテハ火災保險關係ニヨリ之レヲ利用得サルナリ
尙東北地方ニ於テハ今ニ燻蒸變質說ヲ唱フルモノ絶ス最近小樽米穀取引所ニ於テモ之レニ關スル問題起レル由ナレハ兎ニ角乾燥不良米ニ對スル燻蒸ノ影響及化學的成分トノ關係ヲ研究スルコト必要ナリ

第一項 地方別玄米貯藏方法ノ慣行

北海道

玄米ハ俵裝ヲナシ倉庫、居宅、納屋等ニ於テ、土間ニアリテハ臺木ヲ据ヘ其ノ上ニ板又ハ藁ヲ敷キ、板敷ニアリテハ直チニ堆積ス

東 東 府

玄米貯藏ニ就テハ苟クモ損傷ヲ誘致スヘキ貨物ノ混積ハ絶對ニ排除シ事情ノ許ス限リ米穀ノミヲ集積

スルノ方法ヲ採レリ、夏季ニ於ケル庫内ノ通風ノ善惡ハ保存上影響スル所至大ナルヲ以テ之カ注意ヲ怠ラス從來玄米ハ產地ニ依リテハ氣候ノ變化ニヨリ著シク變質スルモノアリ特ニ夏季ヲ經過スル毎ニ品質損量共ニ缺損スルヲ例トシ古來米穀ノ長期貯藏ハ米カ保存上良好ナル結果ヲ奏スルモノト認めラレツ、アルモ商人ニ在リテハ集散市場ニ於ケル取引及ヒ運賃ノ關係上總テ玄米ト爲シ同時ニ資金ノ運用上倉庫業者ニ寄託スルモノナルヲ以テ長期ニ渉ル寄託ハ豫期スル所ニ非ス、又克ク轉換スルノミナラス經費ノ多少加重セラルルヲ以テ貸主ニ於テモ貯藏ノ方法ニ關シテハ等閑ニ附スルノ傾向アリ、然ルニ昨年來深川ニ於ケル貯藏米數量未曾有ノ堆積ヲ見ルニ至リ貯藏法ノ適否ハ經濟上重大ナル事ト思量シ一層斯業者ノ注意ヲ喚起シ所轄區役所ニ於テモ之カ考究ヲ進メタリ、其ノ主ナルモノハ

一、鹽菰(鹽ノ明俵)ヲ以テ俵米ヲ包圍シ置ク事

米穀貯藏ノタメ鹽菰ヲ以テ俵米ヲ包圍シ置ク時ハ米質ノ變化及害蟲ヲ防止スルニ効益アリトシ往々行ハレタル保存法ナリ而シテ夏季ハ損傷多キヲ以テ初メヨリ夏越ノ豫定ノモノニ對シテハ之ヲ行ヒ其ノ効果ヲ認メタリ

二、二硫化炭素ヲ以テ燻蒸ヲ爲スコト

蟲害ニ因ル貯藏米損傷ノ甚大ナルコトハ夙ニ當業者ノ熟知スル處ニシテ之カ撲滅ヲ計ルハ保存上最モ緊要ナルヲ以テ近來二硫化炭素ノ燻蒸ハ當局ニ於テモ督勵スル所ナルカ當業者モ亦其効果ノ著シ

キモノアルヲ了解シ農家ニ於テハ之ヲ實行セルモ東京市内倉庫業者米穀商等ニ在リテハ其ノ効力ヲ認ムルモ火災保險業者ハ二硫化炭素ヨリ發生スル瓦斯ハ導火力強烈ニシテ爆發ノ恐レアルヲ以テ人家稠密ナル市内倉庫ニ於テハ不測ノ災害ナキヲ保セストナシ之ヲ承認セス爲ニ之カ實行ヲ阻止セラレツ、アリ

埼玉縣

一、俵裝 藩制時代ニアリテハ堅牢ナル二重俵ニシテ優美ナル俵裝行ハレタリシカ維新以來貢米制度ハ金納制度ニ改マリシ爲俵裝ニツキ法規ノ之ヲ検査スルモノナク當業者ノ隨意タリシカ爲遂ニ俵裝區々ニ亘リ各郡ハ勿論一郡内ニ在リテモ三四種ニ分レ而カモ粗製濫造ニ流レタルノミナラス二重俵ハ變シテ塵皮(單ニ藁ヲ俵ニ被ヒ繩ニテ結ヒツケタルモノ)トナリ或ハ一重俵トナリタリ然レトモ貯藏セントスルモノハ一月以後ニ於テ二重俵ニ改正スルヲ普通トス

二、積ミ方 俵ノ積ミ方ハ貯藏場所ノ状態ニヨルヲ以テ一定セサルモ多ク用ヒラル、方法ハ井桁積又ハ棒積等ナリ

三、其ノ他 玄米ノ貯藏法ニ糠詰法ト稱スル慣行アリ即チ倉庫等ノ一隅ヲ板ヲ以テ區劃シ俵製セル俵米ヲ積ミ入レ各俵間ニ空虛ヲ生セサル様粗穀ヲ填充シ翌年夏季取出スモノアリ

千葉縣

俵装シテ倉庫、納屋或ハ住宅ノ一部ニ積ミ貯藏ス、近年六七月頃ニ硫化炭素燻蒸ニヨリ害蟲驅除ヲ行フモノ多シ又管内印旛、夷隅、東葛飾三郡内ニ於ケル農家ノ一部ニ於テハ俵装ノ儘穀入ト稱スル板圍ヒノ内ニ重ネ俵ト俵トノ間隙並ニ周圍ヲ粉穀ニテ滿シ貯フモノアリ、普通ノ方法ニ比シ蟲害、變質、鼠害等ヲ防止スル効多カリシカ近時米穀ノ乾燥ニ就キ特ニ注意スルノ結果漸次減少ノ傾向ナリ

茨城縣

包裝ハ從來區々ナリシモ米穀検査實施以來検査規定ニ依リ二重俵ト爲ス、農家以外ノモノハ何レモ米穀検査ヲ受ケタルモノヲ貯藏ス方法ニ於テハ一般同様ニシテ特種ノ慣行ナシ

乾燥ノ充分ナラサルモノハ長期ノ貯藏ヲナサザルヲ普通トス
栽培中病害等ニ罹リタル不良米ハ貯藏ニ適セサルモノトス、蟲害ニ就テハ倉庫ヲ掃除シ又ハ二硫化炭素燻蒸ヲ以テ驅除スルモノ年々増加シ來リテ大正四年ニ之ヲ實行セシ箇所五百五十三箇所、倉庫内容積二百三十萬八千九百六十一立方尺、此ノ經費一千四百九十九圓九十錢ヲ要シ一般成績顯著ニシテ其ノ効果ヲ認メ居レリ

紙袋及苦鹽汁ヲ用ユル慣行ナシ

粉穀ヲ地盤ニ散布スルモノ間々アリ、之カ濕氣ヲ防キ多少ノ効果ナシトセス

栃木縣

土藏、石藏、板倉等ニ貯藏シ六七月頃貯藏害蟲ヲ燻蒸シ少量ヲ貯藏スル者ハ二重俵装ト爲スアリ、入梅前ニ締直ヲ行フモノ未タ稀ナリ

群馬縣

俵装シタルモノヲ倉庫、物置又ハ住家ノ一隅ニ移シ十俵乃至十二俵位宛、米積トナス、又濕氣多キ場合ニハ二重俵装トスルモノ間々アリ大地主ニシテ米穀ヲ貯藏スルモノハ二硫化炭素ニテ燻蒸シ保存スルモノ多シ

長野縣

俵又ハ叭ニ入レタルモノヲ倉庫ニ入レ床上ニ積載シ可成窓ヲ密閉ス、近來ニ硫化炭素燻蒸ヲ施行スルモノ増加ス一般ニ翌年土用前後迄ニ賣却スルカ故ニ長期ノ玄米貯藏ハ普通ニ行ハレサレヲ常トス、稀レニ地主及商人カ商略若シクハ賣リ損ネタル場合ニ貯藏スルノミニシテ其ノ方法ハ大體粉ニ同シ

新潟縣

玄米ノ貯藏ハ全部俵入りトシ容量ハ大部分四斗、多クハ單俵ナリ
倉庫ヲ有スルモノハ倉庫へ然ラサルモノハ納屋、土間又ハ居間へ積ミ置ク
倉庫ノ床、板張ナル時ハ其ノ儘、土間又ハ砂ナル時ハ木材又ハ並列セル萱束(直徑三寸乃至四寸)ノ上ニ俵ヲ積ムモノトス

一坪(平面)ニ置キ得ル俵數ハ積ミ方ニ依リテ差アルモ平均九俵又ハ十俵トス高サハ十一段位迄ヲ可トス

玄米貯藏ニ紙袋ヲ使用スル者ナシ

農家ノ普通積ミ方 杉形積ミ

營業倉庫積ミ方 二俵出シノ七俵(七俵掛) 三俵掛 〇〇 圍リ四俵 〇〇 五俵掛 〇〇

二、硫化炭素燻蒸ハ未タ一般ニ普及セサルモ目下獎勵中ニシテ燻蒸シタルモノノ成績ハ極メテ良好ナリ今本縣米穀検査所新津支所ニ於テ試驗セル損益計算ヲ示セハ左ノ如シ

燻蒸ヲ行ヒタル米俵數	燻蒸ノ利益一俵升ト見積リタル總額	時下十三圓ニ換算シタル金額	燻蒸ニ要シタル經費總計	差引總益金
二〇、一三〇俵	二〇一三〇	二、六一六、九〇〇 ^円	二八一、八九〇 ^円	二、三三五〇 ^円 一〇

備考

前表ハ燻蒸ノ利益ヲ一俵ニ付一升(最少額)ニ見積リ算出セシモ、嘗テ新發田支所ニ於テ試驗セル成績ニ基キ燻蒸ノ利益ヲ一俵ニ付二升九合トセバ其ノ利益實ニ七千三百餘圓ノ巨額ニ達ス

現今食鹽、苦鹽汁ヲ使用スル者ナキモ嘗テ食鹽ヲ貯藏シタル倉庫内ニ貯藏スル時又ハ米ト食鹽トヲ同一倉庫内ニ貯藏スル時ハ夏季ニ於テ温度ノ昇騰ヲ防キ蝕害、變質ナキノミナラス貯藏米ハ入庫當時ニ

比シテ乾燥良好トナルモ同時ニ著シク容量ヲ減スルヲ以テ自己使用米トシテ長期間貯藏スルモノノ外ハ一般ニ食鹽貯藏ノ倉庫又ハ同貯藏後ノ倉庫ニ入庫スルヲ避クル傾アリ
土藏内部ノ土壁ト腰板トノ間隙ニ糶ヲ入レ庫外ノ温度ノ傳導ヲ防クモノ極メテ稀ニ見ル事アルモ多用ヒラレス

先ツ倉庫内ノ土間ニ栗石ヲ敷キ其ノ上ニ充分ノ下敷莖ヲ敷クカ又ハ漆喰ヲ塗リタル上ニ同様下敷ヲナシ一重若シクハ二重俵裝ヲ爲シタルモノヲ五根ニ積ミ約一坪ニ四十五俵位ヲ貯藏ス、堆積ノ高サハ寒キ間ハ貯藏ノ關係上十重ネ以上ニ昇ルコトアルモ夏向ニナレハ温度ノ關係ニ鑑ミ七、八重ネヲ以テ最高トスルカ如シ、而シ少數ノ貯藏者ニアリテハ區々ニシテ一定スルコトナシ
四斗入一重俵トシテ横繩四ヶ所各二回捻込トシ縦繩二筋ヲ以テ二方掛トシ兩端ノ棧俵ヲ通シ横繩ニ引掛ケ四ツ目結トシ緊括シタル上貯藏ス

石川縣

先ツ舊藩政時代ニ於ケル一斑ヲ叙シ而シテ明治時代ノ一般的ヲ次ニ略記ス
イ、貯藏倉庫ノ構造及裝置

- 一、堂形倉庫 四方面ハ土壁ナルモ天井ハ土壁ヲ用ユルコトナク、板葺上屋ノ儘トシ、土間ニハ枯粗朶ヲ厚サ一尺以上ニ積ミ、其ノ上ニ糶糠ヲ一尺厚サニ敷キ更ニ莖ヲ上敷トシ俵米ヲ積ミ重ヌル

ナリ

二、藏宿倉庫 四面並ニ天井トモニ土壁ヲ以テ覆ヒ下地ハ八寸角ヲ一尺五寸間ニ土間ニ引併ヘ其ノ間隔ニ小石ヲ充詰シテ板敷トナシ其ノ上ニ直ニ俵米ヲ積置クナリ

右貯藏米ノ耐久力比較、堂形倉庫ハ何レモ高燥ニシテ四面開潤通風良好ニシテ鬱蒼タル大樹ヲ以テ日光ノ射熱ヲ避ケ得ル場所ニ建設シアリ、且火災ノ慮リナキ場所ナレハ天井ニ土壁ヲ設ケス爲メニ内氣水分ノ發散自在ナレハ釀熱スルコト少クシテ常時冷涼ニ保ツコトヲ得ルカ故ニ長期貯藏スルモ何等變質セスト云フ

然ルニ藏宿ノ倉庫ハ人家稠密ナル市街ノ個人所有ノ指定倉庫ヲ以テ之レニ充ツルモノナレハ堂形倉庫ニ比シ全ク反對ノ構造及場所ニシテ五六月頃ヨリ漸次穀蟲發生シ腐敗ヲ來タスヲ常トスト云フ

ロ、容器ハ凡テ菰俵ヲ以テシ凡テ五斗入トナス

ハ、包裝 二重俵トシ緊括最モ嚴重ニシテ横繩五ヶ所縦繩四ヶ所トシ繩ハ皆擦掛タルコト

ニ、積方ハ五俵拵トシテ長ク連亘シ兩側ニ通路ヲ開キ高サ十三段以上トシ藏出シノ際ハ一拵置キニ搬出シテ拵ト拵トノ間隔ヲ遠サケ專ラ風通ノ便ヲ謀リテ蒸熱腐蝕ヲ防クコトニ注意ス

ホ、坪當積量 内容ノ餘裕アル限りハ其拵ノ間隔ヲ廣クスルコトニ努メ敢テ一定ノ俵數ナシ

ヘ、倉出ノ方法 一方ヨリ搬出スルコトナク一拵置キニ牽出シ專ラ風通ヲ計ルコトニ留意シ積込ノ際

ニ於テモ品質等良好ナルモノヲ奥方ニ積ミ込ミ比較的不良ノモノハ入口ニ積ミ込ムノ掟ナリト、蟲害ノ防除 之レカ發生期ニ至レハ食鹽水ヲ俵ノ露出面ニ撒布シ又鹽空俵ヲ一様ニ覆被シ猶竹箒ヲ以テ綴絲巢ヲ常ニ掃蕩シテ僅カニ其ノ繁殖ヲ防遏スルニ過キス、其ノ他ニハ何等ノ方法ナシ(主トシテ藏宿倉庫ニ然リ)

參照 貢米ノ制度

一、貢米ハ作人自ラ指定ノ倉庫ニ擔荷シテ納入スルコト

一、乾燥調製最モ充分ニシテ能ク貯藏ニ堪ユルモノタルコト

品質又良好ナルモノタルヲ要ス故ニ概ネ巾着種ヲ栽培セリ

一、檢査方法 代官ノ面前ニ俵米ヲ併ヘ方一尺深サ一寸ノ黒塗ノ析ニ内底ニ畝溝ヲ作リタルニ一俵ニ付中央及ヒ兩端ノ三ヶ所ヨリ一升内外ノ米ヲ抜キ取り入レテ乾燥調製品質ヲ檢審シ合格ト決定セルモノニアラサレハ納入セシメス

一、合格米ハ先ツ櫛入ヲ行フ、其量リ方ハ納入ヲシテ必ス之ヲ行ハシメ跪坐シテ兩手ヲ以テ櫛ニ米ヲ掬入盛量トナシタルモノニ中央ヲ上ヨリ前後ヘ割斗棒ヲ用キシム

一、俵裝ハ内俵四ヶ所トシ(横繩)充分緊括シテ外俵ヲ被ヒ擦掛繩ヲ以テ横五ヶ所縦五ヶ所掛トシ麥粒成ニ製俵スルコト

玄米貯藏ノ方法

玄米トシテハ古ヨリ殆ント一ケ年以上貯藏ニ耐ヘサルモノトナシ而カモ六七月以降ノ保管ニ對シテハ特種ノ施設ヲ爲ス慣例アリ

即チ乾燥ハ可成完全ニシ、俵裝ハ二重トナシ、且ツ緊括ヲ充分ニナシ、以テ貯藏スレハ能ク梅雨期ヲ經過シ得ヘク、一巨梅雨期ヲ經過スレハ二冬期ヲ經過スルモ能ク貯藏シ得ラルルコト今モ古モ異ルコトナシ

積ミ方ハ五個拵又ハ木呂積トナス、小數ノモノハ俵毎ニ立テ並フルモノ又ハ二階越ニ吊揚タルモノアリ一重乃至二重俵裝ト爲シタルモノヲ土藏内ニ堆積ス、其ノ方法ハ床上ニ丸木或ハ一尺厚サノ粗糠ヲ撒布シ其ノ上ニ藁ヲ敷キテ積ム、五乃至八俵拵、高サ十俵迄、特種ノ方法トシテハ藏水貯藏ノ際鹽水ニ浸シタル藁又ハ藁ヲ各俵ノ中間ニ填充シ又ハ各列毎ニ藁ヲ敷キ置クモノアリ、之ハ虫害ヲ豫防スルモ濕氣ヲ吸ヒテ米質ヲ損シ易シト云フ

福井縣

玄米貯藏ニ關シテハ從來特種ノ方法ヲ攻究セス只成行ニ任シ貯藏シ來ルモノ多ク是ヲ以テ變質時期ニ至レハ止ムヲ得ス賣却スルモノ多シ、然ルニ近時二硫化炭素燻蒸法、保米袋ノ使用、括直シ等獎勵ノ結果漸次普及シツツアリ、二硫化炭素燻蒸法(此ノ方法ニ就テハ已ニ一定ノ施行方法アルニ依リ之ヲ略

ス)始メ施行者ニ於テ其ノ効力ヲ疑ヒ或ハ一部米商人等商策上利益ヲ私スル爲ニ種々ナル奇言ヲ弄シ獎勵上支障尠ナカラサリシカ昨今ハ之カ効力ノ偉大ナルト無害有利ナルトニ依リ益々普及スルノ狀況ニ在リ

保米袋使用 此ノ方法ハ廣ク行ハレス、目下自家用米ノ貯藏位ニツキ一部使用セラレツツアリ括直シ 此ノ方法ハ從來ヨリ或ル一部ニ於テ施行セラレツツアリシカ米穀検査開始ト共ニ幾分進ミタル形跡ナキニアラサルモ未タ廣ク施行セラレス、此方法ハ掛繩ノ緊括ヲ充分ニシテ特ニ横繩ハ嚴密ニスル必要アリ

福島縣

小作米又ハ賣惜ノ爲メ翌春迄持越ヲ爲スモノニシテ單ニ吸入又ハ俵入トナシ貯藏場ニ積ミ置クモノトス

宮城縣

玄米ノ貯藏ハ概ネ小作米ニシテ夏土用前ニ賣却スルヲ普通トス時ニ夏越米アリト雖モ單俵トシテ貯藏ス、近年米價暴落ト豊作ノ結果殘留米多ク之等ハ二硫化炭素燻蒸ヲ行ヒ長ク貯藏スルモノ増加セリ

山形縣

近來二硫化炭素燻蒸ヲ行フモノアルモ他ハ俵裝ノ儘土藏中ニ貯藏スルニ過キス、大地主及米券倉庫等

ニ於テ玄米ヲ貯藏スルニ於テハ床ニ苦鹽汁ヲ散布シ又ハ五寸位ノ厚サニ粃殻ヲ敷キ其ノ上ニ經五寸位ノ糞束ヲ縱横ニ重ニ並ヘ其ノ上ニ藎ヲ敷キ俵ヲ堆積スルモノアリ、是等ハ何レモ完全ナル大倉庫ニ行ハルルヲ以テ其ノ効果ヲ一般倉庫ト比較スル事能ハス

秋田縣

主トシテ地主ノ小作米ニシテ一俵四斗入ヲ等級別ニ倉庫内ニ積ミ、穀蟲發生期ニ先チ二硫化炭素燻蒸ヲ行フヲ通例トス

岩手縣

地主ノ小作米ヲ初夏ノ候迄所有スルモノニシテ紙袋ニ入レ若クハ單ニ一重俵トシテ土藏、板倉等ニ積載スルモノトス

青森縣

俵ニ入レテ倉庫内又ハ屋内ニ貯藏ス

神奈川縣

一般ニハ二俵宛井桁積ナレトモ篤農家ノ飯米ハ二重包裝ニテ穀倉又ハ住宅内ニ丸太ヲ下敷トシテ俵トシテ間ニ多少間隔ヲ設ケ數層ニ重ネ貯藏ス

静岡縣

俵入トシ普通倉庫内ニ貯藏シ、翌年夏季ニ至リ二硫化炭素燻蒸ヲ行フ

愛知縣

一般ニ倉庫若クハ物置等ノ濕氣少ナキ場所ニ堆積貯藏ス、自家貯藏ニアリテハ翌春多クハ縮直ヲ行フモノトス、尙内外俵ノ間ニ保米袋或ハ新聞紙等ヲ挟ミテ虫害ノ豫防ヲナス慣例ノ地方ナキニアラサルモ効果尠ク現今ハ初夏ノ季節ニ何レモ二硫化炭素ノ燻蒸ヲ行フニ至レリ

岐阜縣

俵裝シタルモノヲ倉庫内ニ(倉庫ハ床張リ)倉庫ナキモノハ住宅ノ一隅ニ(床張リ又ハ臺木ヲ据付)牛糞積又ハ棧積トナシ貯藏ス

養老郡ノ一部其ノ他ニ於テ穀蟲豫防トシテ俵ノ緊縛後俵口ノ兩端ヨリ木杭(普通桐ヲ使用ス)ヲ打込ミ或ハ保米袋トシテ新聞紙ヲ用ヒ又ハ桶等ニ密封シテ貯藏スルモノアリ又梅雨期前及秋季ニ於テ俵ノ縮直シヲナス何レモ穀蟲ノ發生豫防ニハ多少効果アルモノノ如キモ近時二硫化炭素燻蒸法ニ依リ穀蟲ノ驅除ヲ行フニ至リシヲ以テ完全ナル倉庫ヲ所有セサル農家ノ一小部ニ行ハルルノミナリ

滋賀縣

自家用ト販賣用トヲ問ハス全部縮米トナシ貯藏ス

京都府

玄米ノ貯藏ハ府下各郡ニ亘リ大農ニアリテハ自家ノ普通倉庫ニ井籠拵及山積トナシテ貯藏シ夏季害蟲ノ發生スルニ至リ二硫化炭素ノ燻蒸ヲ行フモノノ外寒締ト稱シ一二月ノ頃保米袋ニ米ヲ入レ其ノ上ニ内俵ヲ被ヒ七乃至十一ヶ所ノ横繩ヲ掛ケ充分緊括シ、俵口ノ兩端ヨリヨク枯レタル杭ヲ打込ミテ貯藏スルモノアリ尙小農ニアリテハ納屋及屋内ノ冷カナル場所ヲ撰擇シ拵積トシテ貯藏セリ

奈良縣

俵ノ儘積ミ重ネ貯藏シ翌年一、二月頃寒締ト稱シテ横繩ノ締直シヲ行ヒ緊括ス但米穀検査實施後ハ減少シツツアリ

和歌山縣

農家各自倉庫ニ積ミ重ネ貯藏スルニ過キス近時夏越米ニ對シテハ二硫化炭素燻蒸法ヲ實施スルモノ益々多シ

兵庫縣

中産以上ノ農家ニシテ年内ヲ通シ相當ノ數量ヲ貯藏スルモノニ在リテハ特ニ之レカ集積ニ要スル倉庫(土藏)ノ設ケアレトモ其ノ他ハ多ク秋收期若シクハ翌年四五月頃迄ニ大部分ヲ賣却シ僅カニ食料ヲ貯藏スルニ過キサレハ特殊ノ設備ナク倉庫ノ一隅ニ他ノ物品ト共ニ積ミ込ムカ或ハ納屋、住宅ノ一部ニ土間積トナスヲ通例トシ他ニ異ナル方法ヲ用フルモノナシ

夏越米ノ殺蟲驅除豫防ニ就テハ近來ニ硫化炭素燻蒸ヲ行フモノ最モ多ク其ノ他舊慣ニ依ル俵裝ノ締直シ(大抵毎年梅雨期以前)或ハ貯藏米ノ俵口(棧俵ト米トノ間)ニ古新聞ヲ挿入シテ蟲害ヲ防ク向アルモ這ハ極メテ僅少ナリトス

岡山縣

玄米ハ期間ヲ定メ貯藏ヲ目的トシテ藏置スルノ慣行ナシ但シ年ニ依リテハ相場ノ關係上地主又ハ商人等ニ在リテ賣却ノ時期ヲ得サルタメ又ハ好期ヲ逸シタルタメ止ムナク二三ヶ年又甚シキニ至リテハ稀ニ其ノ以上貯藏スルニ至ルモノアリ、是等ノ貯藏方法ハ地主ニ在ツテハ概シテ自家ノ倉庫ニ積ミ込ミ窓戸ヲ開放シ空氣ノ流通ニ便ナラシメ空氣ノ濕潤セル時ハ之ヲ閉鎖ス又六月末頃ニ二硫化炭素ノ燻蒸ニ依リ害蟲驅除ヲ行フ又藏置方ハ成規ノ俵裝ノ儘倉庫内ニ積ミ重ネ別段保護設備ヲ爲ス事ナシ、商人ニ在リテハ米券倉庫其他普通商品倉庫業者ノ倉庫ニ預ケ之カ保管ハ倉庫業者ニ一任セリ、倉庫業者ノ保管方法モ略地主ト同様ナリ

廣島縣

玄米貯藏ノ方法トシテ特別ナル事ナク只倉庫内ニ俵裝ノ儘井桁積、平積ト爲シ置クニ過キス、改良俵ナレハ平積、未改良ナレハ井桁積トスルモノ多シ、一坪ニ三斗俵六十二俵半乃至六十四俵(井桁積トシテ)ニシテ五三ノ倉庫ニテ千俵積ト稱セリ、四斗俵トシテハ一坪ニ四十俵ヲ積ミ得

目下北部地方ノ農家ノ玄米貯藏方法ハ完全ナラサル倉庫中ニ乾燥充分ナラサルモノヲ貯藏スルモノ多ク蟲害ニ罹ルモ其ノ蝕害ニ委スルノミニシテ米穀貯藏上甚タ寒心スヘキモノアリ、會々二硫化炭素ノ燻蒸ヲ行フモノアルモ倉庫不良ノ爲メ往々ニシテ其ノ效果ヲ認メラレサルヲ遺憾トス

山口縣

玄米ノ長期貯藏ニ關シ何等慣行ノ記スヘキモノナク短期貯藏トシテハ大地主又ハ商人カ直接其他ノ關係上ニケ年或ハ長クシテ三ケ年間位ヲ貯藏保存スルニ止マル、古來大地主ニアリテハ直段ノ高下ニ關セズ翌年ノ二十十日ヲ經過シ新穀ノ作得確實ナルコトヲ見定メタル上ニアラサレハ販賣セサルノ風アリシモ近時ニ至リテ此ノ習慣ハ漸次消滅シテ毎月平均賣若シクハ高値ヲ見テ一時ニ賣却スルモノ増加スルニ至レリ隨テ古來米ヲ貯藏スルカ如キ地主ハ殆ント無シ

市場ニアリテハ定期ノ掛米等ニ故意ニ古古米ヲ用ヒ以テ買方ヲ困ラシ直段ノ騰貴ヲ防ク手段ニ供セラシ、コトアリ、隨テ古古米ハ常ニ相當存在シアルモノノ如キモ夫レ以上ノ長期ニ涉ルモノハ極メテ尠シ

縣下豐浦郡ノ一部ニ十數年前ヨリ紙袋ヲ使用スルモノアリ、然レ共乾燥不良ナルモノニアリテハ蟲害ヲ受クル事紙袋ノ有無ニ關セス同一ノ状態ニアリ、隨テ乾燥ヲ良好ニセハ特ニ費用ト手數トヲ掛ケ紙袋ヲ用フルノ必要ナキモノノ如シ

以下貯藏裝置、包裝等ニ就テ其大要ヲ記スレハ左ノ如シ

貯藏裝置 室内ヲ掃除シ多クノ丸太等ヲ敷ク

包裝 四斗入二重俵

積ミ方 重積又ハ棧積

一坪ノ貯穀量 約五十石

- 一、病蟲鼠害驅除豫防法 蟲害豫防法トシテ舊來行ハレタルモノヲ列記スレハ一般ニ硫黃ノ燻蒸或ハ俵ノ締直シ行ハレ、又縣下吉敷郡内中農ニアリテハ蟲害豫防ノ爲六七月頃倉庫ヨリ取り出シテ住宅内ノ庭ニ積ムコトアリ近時ハ二硫化炭素ノ燻蒸ヲ行フモノ大ニ増加シ其ノ成績ハ極メテ良好ナリ

鳥取縣

四斗入二重俵トシ横繩五ヶ所ヲ結束シ倉庫内ニ杉拵ニ積ミ上ケ一坪ニ付約百俵内外ヲ貯藏ス、西伯、日野ノ一部ニ單俵ノ儘貯藏スルモノアルモ單俵ハ穀蟲ノ侵入多キヲ以テ勉メテ二重俵トセリ

穀蟲驅除法トシテ明治四十年頃縣立農事試驗場カ各郡一二ヶ所ノ倉庫ニ於テ試驗的ニ二硫化炭素燻蒸ヲ施行セシニ其効果良好ナリシ爲各地ニ行ハルルニ至リ八頭郡、日野郡ノ如キハ郡農會ヨリ補助金ヲ支出シ燻蒸ヲ奨勵シ更ニ大正三年及四年度ハ國庫補助ヲ受ケ各郡數ヶ所ニ於テ模範穀蟲驅除實地指導

講習ヲ爲セリ、而シテ燻蒸ノ効果アルハ當業者ノ知得スル所ニシテ漸次普及セリ、燻蒸ノ時期ハ六月
中下旬トシ秋季迄貯藏セントスルモノハ八月上旬頃尙一回燻蒸セシムヘク獎勵シ西伯米券倉庫ニ於テ
ハ別ニ燻蒸室ヲ設ケ特ニ發生シタルモノヲ常ニ燻蒸セリ

島根縣

四斗入俵トシテ土藏又ハ鼠害ナキ場所ニ貯藏ス

徳島縣

貯藏久シキニ及フモノハ二硫化炭素ノ燻蒸法ヲ行フ

香川縣

倉庫ニ藏メ棧積トナシ五俵ヲ以テ方形ニ組ミ八重積ト爲スヲ普通トスルモ往々杉拵ト稱シ每俵ヲ一列
ニ積ミ上クルモノアリ、前者ハ倉庫面積ニ於テ經濟ノ利アルモ各俵ノ重量ニ依リテ下層俵ニ壓迫ヲ加
ヘ根敷俵ヲ生スルノ失アリ、後者ハ之ニ反ス其ノ他少許ノ米俵ヲ所有スルモノハ倉庫ヲ有セス、居宅内
ノ土間ニ枕木ヲ置キ堆積スルモノアリ、其ノ方法ハ右ニ異ラス

愛媛縣

玄米ハ二重俵裝ニシテ貯藏ニ際シテハ床ニ枕木ヲ置キ其ノ上ニ壁際ヲ僅カニ隔テ俵ヲ併列シ二階建
ニ在リテハ普通五俵積平屋建ニ在リテハ八俵積トシ倉庫ノ奥ヨリ順次堆積シテ入口ニ及フヲ一般ノ

例トス、特種ノ貯藏方法トシテ効果アリト認ムルモノハ一ハ毎年倉庫内壁ノ上塗リヲ行フモノアト一
ハ自己所有米ノ倍額ヲ貯藏シ得ル丈ノ倉庫ヲ所持シ隔年交互ニ積ミ入レ一ケ年ハ空倉ト爲スニアリ何
レモ普通ノモノニ比シ穀蟲ノ防除ニ適ス

高知縣

倉庫又ハ特ニ乾燥スル場所ニ重積貯藏ス、近來二硫化炭素ニ依リ害蟲驅除ヲナシ貯藏ノ安全ヲ期スル
傾向ヲ來セリ

福岡縣

主ニ地主ノ小作米ニシテ之等ヲ俵裝或ハ入トシテ倉庫内ニ堆積ス、普通梅雨期後又ハ遅クモ八九月
頃迄ニ賣却ス、長期ノ貯藏ハ乾燥、調製ト共ニ不十分ナル爲至テ稀ナリ、又地方ニ依リテハ桶ヲ以テ
貯藏スルノ慣行アルモ別ニ記載スヘキ設備ニアラス

佐賀縣

玄米ハ俵ニ入レテ倉庫又ハ居宅ノ土間ニ枕木ヲ置キ積ミ重ネ或ハ階上ニ貯フル習慣アリ、其ノ他
酒樽、酒屋ノ仕込桶ニシテ俗ニダブツト云フ）甕ニ入レテ貯フルモノアリ、紙袋ヲ用フレハ濕氣ヲ防
キ爲ニ米質ヲ損セス蟲害亦極メテ少キモ此ノ方法ハ未ダ廣ク行ハレス

長崎縣

玄米ハ總テ俵入トナシ倉庫又ハ屋内乾燥ノ場所ヲ選ヒ木材ノ臺ヲ設ケ俵ヲ並ヘ其ノ上ニ竹又ハ丸太二本ヲ横ヘ俵ヲ列ヘ順次斯クシテ五六層ニ積置クヲ普通トス

大分縣 各自所有ノ土藏倉庫ニ納メ可成氣温ノ變化濕氣ノ浸入セサル様設備ス
熊本縣

土間ニハ臺木トシテ五寸角ノモノヲ二本宛配列シ杉拵又ハ棧積トス包裝ハ縣令ニ依ル一立方坪ノ貯穀量ハ普通農家ノ倉庫ニアリテハ三十俵、米券倉庫ニアリテハ六十四俵ヲ普通トス、
蟲鼠害ノ驅除ハ國費ノ補助ヲ受ケ縣農會ニ於テ模範的ニ之ヲ行ヒタルノミニシテ自働的ニ行ヒタルモノナシ、之レカ普及ヲ見サルハ倉庫ノ修理ニ費用、手間ヲ要スルニ依ル、米券倉庫ノ新築ノモノニアリテハ空氣拔ヲ屋上ニ廣ク設ケアルヲ以テ密封ニ困難ナル爲メ實行スルコトヲ得ス
阿蘇郡ニ於テハ試ミニ新聞紙ヲ以テ包裝シ、葦北郡ニ於テハ自家用ノ雜穀ヲ紙袋ニ入ルルノ習慣アリ、尙近時保米袋ノ效果ニ付試驗ヲ行ヒツツアリ

宮崎縣

二重俵トシテ固ク結束シ倉庫内或ハ住宅ノ一部ニ貯藏シ置クヲ常トス

鹿兒島縣

地主ハ二重俵又ハ一重俵(四斗入)トシテ多ク各自ノ倉庫内ニ其ノ他ノ農家ハ俵裝ノ外往々呷入(三斗乃至四斗)トシ屋根裏等ニ貯藏スルヲ普通トス

倉庫内ノ積ミ方及一坪ノ貯穀量等ハ一定セサルモ俵ハ横ニ併列シ積ミ重スルヲ例トス
乾燥ハ艸ト同シク貯藏ニ著シキ影響ヲ及ホスヘキヲ以テ玄米調製ノ場合充分乾燥ニ注意スルハ勿論ナルモ貯藏中濕氣ヲ吸收シ易キヲ以テ貯藏ノ場所、包裝、積ミ方等ニ付キ一般留意スルノ傾向アリ
病害ハ艸ト同シク未タ認メサルモ蟲害ハ穀象發生ノ爲損害甚シク之カ豫防驅除トシテハ第一米ノ乾燥、俵裝、貯藏場所、等ノ完全ニ注意シ穀蟲發生ノ場合ニハ往々二硫化炭素燻蒸法ヲ實行スルモノアリテ其ノ效果顯著ナリ

第二項 貯藏ニ關シ特ニ注意スヘキ事項

- 一、乾燥ヲ良好ニシ調製ヲ嚴重ニスルコト
米ノ貯藏力ハ殆ント乾燥ノ良、不良ニ依リテ左右サル、又調製粗漏ニシテ青米、死米、碎米ヲ混スルモノニアリテハ之等カ蝕害、腐敗ノ誘因ヲ爲スコト已ニ第二章ニ於テ詳述シタル處ナリ故ニ此等ノ點ニ就キ特ニ意ヲ用ユヘキハ言ヲ俟タサルナリ
- 二、玄米ノ包裝ハ菰俵ヲ良トス
玄米ノ容器トシテハ麻袋、呷、菴俵、菰俵等アレトモ麻袋ハ輸出入米ニ限リ用ヒラレ内地ニ於テハ

吠、菴俵、菴俵等行ハル、モ就中菴俵最モ一般ニ用ヒラル、吠ハ緊括シ能ハサル部分アリテ之レヨリ穀蟲ノ侵入スル虞レアルカ故ニ貯藏スヘキ米ノ容器トシテハ不適當ナリト言ハサルヘカラス、菴俵ハ外俵ノミニ用ヒラレ其ノ成績ハ菴俵ト同等ナリト云フ

三、俵装ハ二重トシ緊括ヲ充分ニスルコト

俵装ヲ二重トスルノ可ナル理由ハ一重ヨリハ穀蟲ノ侵入ヲ防ク力大ナルト同時ニ米ヲ一層保護スル爲メナリ、其他一重ナレハ運搬ノ際脱漏ノ虞アルニヨリ現在各地方ノ縣外輸出米ハ必ス二重俵装トセリ尙三重俵装トシテ市價ヲ上ケタル例新潟縣ノ一地主ニアリ

又同シ理由ヲ以テ緊括ヲ充分ニセサル可カラス、即チ兩々相俵ツテ始メテ穀蟲防禦ノ完全ヲ期スヘキナリ、在來貯藏法ノ一ツタル縮直シ法ノ夏越米ニ付キ必ス行ハレタル、又江州縮米ノ聲價高カカリシ所以ハ畢竟右ノ次第ニテ蟲付ナク品質優良ナレハナリ

四、内俵ノ藁ハ必ス前年ノ良ク乾燥セルモノヲ用ユルコト

外俵ハ商品トシテノ外見ヲ裝飾スル必要上藁ヲ用ユルモ可ナレトモ内俵ハ直接米粒ニ接スルタメ水分ヲ含有スレハ自然米粒ニ濕氣ヲ與ヘ變質或ハ腐敗ノ原因ヲ爲ス譯ナリ

五、天井ト相當ノ距離ヲ隔ツル程度ニ桁高ヲ止ムルコト及最高限度ヲ十五俵迄トス

俵積カ天井ニ接スル程熱氣ノ影響ヲ受クルコト甚シク從テ樹滅、變質モ著シカルヘシ又俵積ノ高ク

ナルニ從ヒ下積ノ俵ハ壓迫ヲ受クルコト甚シク所謂臺付米ヲ生スルヲ以テ最高限度ヲ十五俵迄ニ止ムヘシ、但シ天井ノ低キ倉庫ニ於テハ天井トノ距離ノ關係上十五俵以下ニ止ムヘキハ勿論ナリトス

六、必ス臺木ノ上ニ俵積スルコト

土間、コンクリートノ場合ハ勿論板張ノ場合ト雖必ス臺木(廩木トモ稱ス)ノ上ニ俵積スルコト必要ナリ、之レ下積カ濕氣ヲ受ケテ變質スルカタメナリ、新潟市三菱倉庫、酒田山居倉庫ノ萱束及熊本米券倉庫ノ粗穀等モ素ヨリ可ナリ

七、通風換氣作用ニ注意スルコト

通風換氣ハ大抵ノ場合極メテ必要ニシテ深キ注意ヲ以テ建テラレタル倉庫ニハ換氣裝置ヲ特ニ設ケアルモ從來一般ノ倉庫ニハ極メテ稀レニシテ多ハ窓及出入口ヲ以テ此ノ作用ヲ不完全ナカラ行ハシメ居ルナリ、故ニ換氣裝置ヲ有セサル場合ハ窓及戸ノ開閉ニ特別ノ注意ヲ要ス、即チ蒸蒸セル熱氣ヲ發散セシメ新鮮ナル空氣ヲ導キ常ニ庫内ヲ冷涼ニ保ツコト肝要ナリ、庫内冷涼ナレハ米質ハ常ニ生産當時ノ儘保持スルコトヲ得ル譯ナリ

八、二硫化炭素燻蒸ヲ行フコト

穀蟲發生ノ氣配アル場合ニハ速カニ二硫化炭素ノ燻蒸ヲ行フコトヲ要ス、之レ單ニ穀蟲ノミナラス其被害侮ル可カラサル鼠族其他生物一切ヲ根絶シ得レハナリ、此場合燻蒸規定ヲ嚴重ニ守ルコト必

要ニシテ然ラスンハ折角之レヲ行フモ効果無キカ或ハ品質ヲ損シテ遂ニハ二硫化炭素ノ効果ヲ疑フ結果トナレハナリ

九、貯藏中ハ猥ニ米俵ヲ動かサ、ルコト

米俵ヲ移動スル時ハ掛繩緩ミテ穀蟲ノ侵入ヲ易カラシメ且ツ變質シ易カラシムト云フ

十、他物ト混積セサルコト

他物ト混積スレハ米質ヲ損スル場合多シ、殊ニ麥類ト混積スレハ麥ノ害蟲ニ忽チ襲レ又綿ト混積スレハ米ノ水分ハ綿ニ吸收サレ、砂糖ト混積スレハ米ハ砂糖ノ水分ヲ吸收シテ膨脹スルト云フ譯ナリ

十一、新古米ヲ混積スヘカラス

古米ニハ大抵ノ場合多少ノ蟲氣アルタメ新米ト混積スレハ新米ハ忽チ穀蟲ニ襲ル、如何ントナレハ新米ノ方食味良好ナレハナリ

十二、年ニ一回ハ倉庫内ノ清潔法ヲ行フコト

倉庫ヨリ全ク蟲ヲ驅除スルコト必要ニシテ年ニ一回ハ大掃除ヲ行フヘシ、此場合單ニ柱ニ蝕入セル蟲塊ヲ去リ塵埃ヲ拂フノミナラス消毒ノ意味ヲ以テ硫黄ヲ燻蒸シ或ハ卵塊ヲ根絶スルタメ壁ノ上塗ヲ行フコト有効ナルカ如シ

十三、壁ニ接シテ俵積セサルコト

天井トノ間隔ヲ取ルト同様ノ理由ニテ特ニ西側ハ一俵側タケ明ケテ積ムコト

十四、蟲付米ハ燻蒸後ニ入庫スルカ或ハ倉庫ニ餘裕アラハ別ニ積ムコト

十五、倉庫ニ餘裕アラハ一年毎ニ他物ト交替ニ貯藏スルコト

第三節 白米ノ貯藏方法

白米トシテ貯藏サル、モノハ農家ノ自家用飯米ニ限ラル、カ故ニ其ノ貯藏法モ概シテ單純ナリ、多量ノ場合ニハ俵裝シテ倉庫ニ貯ヘラルヘキモ普通小農ニ於テハ俵或ハ叭ニ入レ之レヲ梁上ニ並フルカ或ハ梁ニ繩ヲ以テ吊ス、其位置ハ普通爐或ハ竈ノ上方ヲ選フ、蓋シ燻烟ノ効果ヲ收ムル爲ナラン

其他特ニ紙袋ヲ俵ノ内側ニ敷キテ穀蟲ヲ防キ或ハ石油罐ニ密封シ或ハ壺、桶、鼠入ラス(滋賀)戸箱(同上)甕(佐賀)地方ニテハ底ニ粃糠ヲ敷キ上部ニ藁灰ヲ置キ蓋ヲ爲ス)等ノ容器ヲ用ヒ尙米質保存ノ爲精米三斗ニ對シ食鹽一合ヲ加ヘ或ハ木炭或ハ木灰ヲ米一斗ニ對シテ一、二升宛混スルモノアリ、又蟲除トシテ蓬ノ葉、桃ノ嫩葉、檀栴ノ葉等ヲ俵ノ小口ニ挿入シ置ク法アリ、何レモ古來ノ經驗ニ依ルモノナレハ相當ニ効果アルヘキモ廣ク行ハル、方法ニアラス

尙輸出白米ハ熱帶地方ヲ通過スルモ米質變化セス又摩擦白米ハ長期ノ航海ニ耐フル等ノ事實ヨリ推定スルニ前述ノ白米トハ性質ヲ異ニシタル意味ニ於テ白米モ亦米穀貯藏ノ目的ニ適スルモノト認メラ

ル、蓋シ糠分ヲ全ク去リタル白米ハ生理上一個ノ死物ニシテ外界ノ影響ヲ防禦セハ中ヨリ變質スル憂ナキ筈ナレハナリ

第一項 地方別白米貯藏ノ慣行

埼玉縣

農家ハ所調寒搗ト稱シ冬期ニ於テ搗精貯藏シ農繁期即チ養蠶期、稻ノ插秧期等ノ飯料ニ供シタリシモ近時精巧ナル搗精機發明セラレ比較的僅少ノ勞費ニテ隨時精米トナシ得ルヨリ白米トシテ貯藏ヲナスモノ漸次減少シ來リ目下ノ處殆ント之ヲ認メス

千葉縣

二重俵裝トナシ倉庫、納屋、住宅ノ一部ニ積ミ貯藏ス

新潟縣

白米ノ貯藏方法ニ就テハ玄米ノ場合ト大差ナシ元來白米ハ商人ノ之ヲ貯藏スルモノ殆トナク地方農家ニアリテ多少寒搗ヲナシ飯米トシテ貯藏スルニ過キス、大部分俵人トナスモ、時ニ箱ニ入ルルモノアリ俵ハ倉庫内ニ貯藏スルモノアリ、或ハ俵ヲ爐邊ノ天井ノ梁ニ繩ヲ以テ吊シ置クモノアリ、其下ニテ冬期焚火スル爲多少乾燥モ良ク鼠害、蟲害ニ罹リ難シ

保米袋ト稱シ紙袋ヲ用フルモノ若干アリ、此袋ハ俵ノ内袋トシテ用フルモノニシテ澁紙ヲ以テ製シ(一箇二錢餘)古來ヨリノ慣行ナルモ漸次減少スル傾ナリ、其得點トスル處ハ蟲害ヲ防クニアリテ一箇ノ紙袋ハ多少ノ修繕ヲ加ヘテ二三ヶ年内外使用シ得、但シさしヲ入ルルニ不便ナルハ缺點ナリトス

富山縣

一重俵四斗入トシ屋内ノ梁ニ吊シテ貯藏スルモ現時ハ此ノ白米貯藏ヲ行フモノ極メテ少シ

石川縣

白米ヲ俵ニ四、五斗入レ繩ニテ能ク緊縛シ農家ノ天井ニ懸ケ置クヲ常トス、然レトモ紙袋ニ入レ又ハ板箱ニ入レ置クモノアリ

福井縣

寒搗米ヲ臺所ノ梁木ニ吊シ置クヲ普通トス、蟲害、腐敗ノ憂ヒ少ナキモ五月以後ニナリテハ枯氣ヲ脱シ喰味惡シ變ス

福島縣

四斗乃至五斗入ノ呎入トナシ堅ク結束シテ母屋ノ天井ヨリ繩ニテ吊シ置クモノト、木製ノ箱ニ入レ目張シテ積ミ置クモノト、鐵力罐ニ貯藏スルモノアリ

宮城縣

下級ノ農家ハ居宅内、竈、爐等ノ火氣ノ上昇スル梁上ニ置キ或ハ梁ニ吊シ置クモノ多ク倉庫ニハ單俵ノ儘貯藏ス

山形縣

嚴重ニ俵裝シ、或ハ保米袋等ニ入レ之ヲ勝手等ノ屋根裏ニ繩ニテ吊ス

秋田縣

普通四、五斗トシテ緊括ヲ充分ナラシメ乾燥セル個所（倉庫ノ一部又ハ爐ノ上ニ横木數本ヲ架シ之ニ配列ス）ニ貯藏ス、地方ニ依リ右俵裝ノ上部ヲ更ニ葎等ニテ包ミ所謂二重包裝ニスルカ又ハ保米袋ヲ用フル地方モアリ、尙仙北郡金澤町中野部落ニ於テハ一ケ年間ノ飯米ヲ寒中ニ精白シ三斗ニ對シ食鹽一合ヲ加ヘ充分混淆シタルモノヲ保米袋ニ入レ俵裝シテ普通ノ如ク倉庫ニ貯藏シツツアルカ害蟲ノ發生ナキハ勿論米質ヲ損スルコト極メテ少シト云フ、又實行者ハ一名ニ過キサレモ前記ノ精米ヲ石油空罐ノ充分洗滌シタルモノニ入レ「ハンダ」ヲ以テ密封シ空隙ナカラシメ之レヲ倉庫ニ貯藏スルトキハ少シモ米質ヲ損スル事ナカリシ事實アリ

岩手縣

多クハ紙袋ヲ使用シ、又ハ單ニ一重俵ニ入レ其ノ上ヲ菰ニテ卷キ爐ノ上邊ニ棚ヲ設ケ煙ニ近ク之ヲ積ミ置クモノトス、又吹入レトナシ又ハ石油罐ニ入レ密封シテ貯フルモノナキニアラス

滋賀縣

締米トナシ自家ノ倉庫ノ一隅ヲ區劃シテ之ニ入レ或ハ「鼠入ラス」ト稱スル木庫又ハ戸箱等ニ入レテ貯藏スルモアリ

京都府

保米袋若シクハ菰俵ニ入レ倉庫或ハ屋内ノ竈上ニ吊シテ貯藏ヲナスヲ普通トス

奈良縣

少量ナルトキハ壺、桶等ヲ用ユルモ多量ナルトキハ俵裝シテ貯藏ス

岡山縣

外國行ノ磨擦白米ハ貯藏ニ耐ユルモ内地向ニハ高價ニ過一般ニ行ハレス

廣島縣

精搗後多少ノ糠ヲ殘シ置キ之レヲ俵ニ入レ縦ニ爐上ニ懸垂シ貯藏スルヲ普通トス然レトモ三四ケ月間ノ貯藏ニ過キス

鳥取縣

(イ) 普通四斗入俵トシ可成乾燥良好ノ場所ニ貯藏スルモノ多シ
(ロ) 蟲害或ハ霉蒸ヲ避ケンカ爲メ居宅ノ梁ニ吊スモノ縣下各地ニ行ハル

- (ハ) 居宅内二階ニ積ミ置クモノ東伯郡等ニ多シ
- (ニ) 可成爐ノ上部ニシテ煙ノ達スル位置ニ吊シ置クヲ普通トス
- (ホ) 桶、木箱、甕等ニ容レ密閉貯藏スルモノアリ
- (ヘ) 甕ニ入レ米一斗ニ付木灰一、二升ヲ混シ置クモノアリ
- (ト) 岩多郡浦富地方ニ於テハ精搗ノ際米一斗ニ付食鹽一勺位ヲ加ヘ置ケハ保存良好ナリトシ之レヲ行フモノアリ

- (チ) 西伯郡渡村地方ニテ石灰若クハ木灰小許ヲ俵ノ小口ニ混シ俵装スルモノアリ
- (リ) 東伯郡橋津地方ニ於テ玄白共ニ俵装ノ際小口ニ藁灰若クハ蓬ヲ入レ隙リ置クモノアリ尙、木炭混入貯藏ハ因幡、伯耆各地ニ於テ多少行フモノアルモ石灰混入ハ郡ノ一部ニ於テ稀ニ見ルノミ、尙同郡ニ於テハ穀蟲ノ侵入ヲ妨ク爲メ蓬ノ葉ヲ俵口ニ挿スモノアリト云フモ果シテ防蟲ノ効アルヤ否ヤ不明ナリ

島根縣 俵ニ入レ貯藏スルモ少量ノモノハ鐵葉罐等ニ詰メ貯藏ス又内俵ノ中ニ袋ヲ入レ封緘シタルモノヲ普通ノ俵装ノ如クシテ貯藏スルモノアレトモ極メテ稀ナリ

福岡縣

極メテ僅少ニシテ一定セス

佐賀縣

叭入トシ梁上ニ貯ヘ又ハ桶、甕ノ底ニ粗糠ヲ入レ其上ニ白米ヲ入レ上部ニ藁灰ヲ被ヒ置クモノアリト雖白米ニテ貯藏スルモノ稀ナリ

鹿兒島縣

自家消費用ノ白米ヲ一時甕ニ入レ貯藏スルモノアリ、此ノ場合ハ無砂搗ニシテ糠付ノ儘ナルヲ常トス備考 青森、神奈川、静岡、愛知、三重、大阪、兵庫、徳島、香川、愛媛、高知、長崎、大分、熊本、宮崎等ノ各府縣ニ於テハ白米貯藏ノ慣行ナシト認ム

第二項 貯藏ニ關シ注意スヘキ事項

白米貯藏ハ農家ノ自家用飯米ニ限リ而モ多クハ夏期迄ノ飯料ニ過キサレタメ特ニ注意スヘキモノナキカ如シ、然レトモ白米モ亦玄米ト同シク蝕害ヲ受ルカ故ニ保米袋ヲ用ユルカニ重俵装ニシテ緊括ヲ充分ナラシメ爐邊ノ上方ニ置キ可成病蟲害ニ罹ラシメサルコト肝要ナリ、其他多量ニ倉庫ニ貯藏スル場合ハスヘテ玄米貯藏ニ關スル注意事項ヲ参照スヘシ

第五章 貯藏ノ米ニ及ホス影響

第一節 概 説

永年ニ亘ル貯藏ノ結果米ニ及ス影響ハ頗ル多方面ニシテ且ツ顯著ナルモノアリ、而シテ其ノ程度ニ至リテハ玄米貯藏ト粳貯藏トノ間ニ多少ノ輕重アリト雖大體ニ於テ長期貯藏ノ結果ハ重量ヲ減シ、光澤ヲ失シ、色相ヲ濃厚ニシ且ツ赤褐色ニ變シ米質脆弱トナリ食味減退ス、或ハ貯藏宜シキヲ得テ粳摺容易トナリ釜殖アリトスルモ粳摺歩合ハ減少シ精白ヲ困難ナラシメ搗減ヲ多クシ爲ニ米價ハ益々遞減スルノ傾向ニ至リテハ軌ヲ同フス、粳ノ貯藏力ハ其ノ乾燥程度ニ依リテ非常ニ異リ、乾燥良好ニシテ貯藏法宜シキヲ得ハ二、三十年位ノ保存ハ容易ナルカ如シ、然レトモ米質ノ惡變及食味ノ減退ハ免ヌカレサルカ故ニ賣買ノ目的ヲ以テハ凡ソ四、五年ヲ限度トスルカ如シ、但シ實際ノ場合ニハ一兩年内ニ大抵處分スルヲ以テ四、五年間ノ貯藏ハ稀レナリ、玄米ハ米ヲ保護スヘキ皮殻ヲ有セサルタケ粳ヨリ貯藏力ノ劣レルハ明カナリ、玄米モ乾燥、米質共ニ優良ナルモノハ數年ノ貯藏ニ耐ユルト雖經濟的貯藏ハ二、三年ヲ以テ限度トスルカ如シ、農家ニ貯藏サルル白米ニ至リテハ更ニ貯藏力劣リ比較的貯藏力ニ富ムト稱セラルル寒搗米ニテモ半ケ年ニシテ已ニ食味ヲ減スルコト著シト云フ

貯藏米ノ容重量ハ貯藏スルニ從ヒテ減スルヲ通則トスルモ乾燥良好ナル粳ニアリテハ殆ント蟲害ノ憂

ヒナク主トシテ貯藏中ノ自然乾燥ニ因ル減量ノミナルカ爲最初ノ一ケ年ハ三分乃至五分位ノ減量アルモ其後ハ毎年一、二分減ニ止マリ五ケ年貯藏スルモ二割減位ナリ

玄米ハ五、六月ヨリ八月迄ハ温度及湿度ノ影響ヲ受ケテ容重量ヲ増シ其後ハ漸次減シテ十、十一月頃ニ至レハ元樹ニ復スト云フ、容重量ノ増減ニ關シテハ主トシテ米ノ乾燥程度ニヨリ膨脹開始期及最高膨脹量ヲ異ニシ、概シテ乾燥ノ良好ナルモノハ膨脹力モ強ク膨脹開始期ハ遲シト云ヒ、之レニ反シテ乾燥不良ノモノハ膨脹力微弱ニシテ膨脹開始期比較的早ク且ツ蝕害ヲ蒙ルコト著シク減量ニ就キテハ前者及後者ノ間ニ著シキ差ヲ生スト云フ、之等ニ關スル數量ハ素ヨリ地方産米ニ依リテ異リ一概ニ言フヘキモノニ非ラサルモ大體ニ於テ次ノ如キ關係アリ(全國二十八ヶ所平均成績)

乾燥優良ナルモノ

乾燥普通ナルモノ

乾燥不良ナルモノ

七月上旬頃 (梅雨後ヨリ土用入前)

多クノ場合尙増量アリテ平均二分ノ樹増

多クノ場合尙増量アリテ平均六厘八毛ノ樹増

時トシテ増量ノ場合アルモ極メテ其ノ量少ク平均八厘ノ樹減

八月下旬頃 (夏期ヲ經過シ秋分ノ頃)

増量ノ場合及減量ノ場合殆ント相半スルモ尙平均五厘ノ樹増

減量ノ場合ノ方多ク平均七厘ノ樹減

總テノ場合減量ニシテ平均三分ノ樹減

十月下旬頃 (一ケ年ヲ經過シ冬境期)

多クノ場合減量スルモ甚タ少ク平均四厘ノ樹減

總テノ場合減量ニシテ平均一分六厘ノ樹減

總テノ場合減量ニシテ平均四分ノ樹減

粳摺ノ難易ハ地方ニ依リテ所説區々ナリ、蓋シ粳ノ乾燥程度及摺摺方法ニ至大ノ關係ヲ有スレハナ

リ、然レトモ糶摺歩合ハ貯藏スルニ從ヒ減少スルハ概ネ諸説ノ一致スル所ナリ、其ノ理由ハ貯藏スルニ從ヒ乾燥シ粘氣ヲ失ヒ米質脆弱トナリ糶摺ニ際シ胴割及碎米ヲ生スルコト多キカ爲ニシテ其ノ歩合ハ秋摺歩合(五分—五分五厘)ニ對シテ今摺歩合ハ約五厘減、三ヶ年貯藏ノ糶ハ五厘乃至一分減位ナリ貯藏ト精白ノ難易ニ就テモ糶摺ノ難易ト同シク地方ニ依リ著シク條件ヲ異ニスル爲メ諸説一致ヲ缺クモ一般ニ秋摺米ト今摺米トヲ比較スレハ秋摺米ノ方精白容易ニシテ今摺米ト貯藏玄米トヲ比較スレハ今摺米ノ方精白容易ナルヘシ、蓋シ搗精ハ米質軟弱ナルタケ容易ナレハナリ、然ルニ貯藏スルニ從ヒ米質ハ強硬トナリ色相ハ濃厚トナル爲精白愈困難トナリ搗減ハ益々多カルヘシ、今摺米ノ搗減ハ貯藏玄米ノ搗減ニ比シ約一分乃至五分位多キカ如シ

乾燥優良ナルモノ

乾燥普通ナルモノ

乾燥不良ナルモノ

七月上旬頃 (入梅後ヨリ土用入前)

三・二二 (最多八・三七 最少一・二〇)

五・四〇 (最多一・〇三三 最少二・三三〇)

七・八五 (最多一・三三三 最少三・六〇)

八月下旬頃 (夏期ヲ經過シ秋分ノ頃)

四・一〇 (最多九・〇〇〇 最少一・〇〇〇)

六・四二 (最多一・一三三 最少三・〇〇〇)

九・五三 (最多一・六五〇 最少五・七〇)

十月下旬頃 (一ヶ年ヲ經過シ端境期)

四・四〇 (最多九・三三三 最少一・五〇〇)

七・一八 (最多一・一八三 最少三・〇〇〇)

一一・一〇 (最多二・〇〇〇 最少四・〇〇〇)

貯藏ト食味及釜殖ニ就テハ糶及玄米共ニ貯藏スルニ從ヒテ食味ハ減退シ釜殖スルヲ普通トス、糶貯藏ニアリテハ一ヶ年ニシテ稍々食味劣リ三ヶ年ニシテ粘氣ヲ減シ惡變スルヲ以テ能ク貯藏シテ五ヶ年迄ナリト云フ、玄米貯藏ニアリテハ古米トナレハ味劣ルヲ以テ古米ノミヲ以テ精白スルコトナク之レニ味付米トシテ新米ヲ混シ古米ノ釜殖ヲ利用シ適宜ニ按配シテ需要ニ供スト云フ、尙今摺米ノ場合ハ其ノ食味秋摺米ニ比シ良好ナリト云ヒ或ハ不良ナリト云フ、而シテ前者ハ主トシテ農村及常ニ今摺米ノ供給ヲ受クル都市ニシテ後者ハ一般都市及今摺米ヲ多ク見サル地方ナリ、素ヨリ人ノ嗜好ニ依ルモノナレハ確實ニアラサルモ何レモ正當ノ判斷ナルカ如シ、蓋シ摺立ヲ精白シテ直チニ食スルトキハ新米ノ香味アリト云フ、然レトモ變質後ハ却テ食味不良ナリト云ヘハ此關係ニ依リテ略ホ推察シ得ヘシ

米價ハ貯藏スルニ從ヒ遞減スルヲ原則トシ、古米トナレハ石五十錢内外ヨリ一圓五、六十錢迄ノ格下行ハル、但シ端境期ニ於テハ新米ニ比シ却テ石二十錢位高價ナルコトアリト云フ、又今摺米ノ場合ハ之レヲ好ムト好マサル地方ニヨリテ價ヲ異ニス即チ之レヲ好ム地方ニ於テハ食味佳良ト蟲付ナキ爲搗精歩合良好ナル故ヲ以テ石三十錢乃至七十錢位格上ニシテ之レヲ好マサル地方ニ於テハ食味不良ト搗減多キ故ヲ以テ石五十錢乃至七十錢位ノ格下行ハル、又定期取引所ニ於テハ市價以外ニ今摺米ノ故ヲ以テ石五十錢乃至一圓位値引セラル

貯藏ノ米ニ及ホス影響ニ就キテハ從來試驗成績ノ見ルヘキモノ極メテ少ナカリシニ兵庫縣米穀検査所

ハ夙ニ此點ニ着眼シ大規模ノ貯藏試驗ヲ開始シ極メテ有益ナル數字ヲ得タレハ左ニ成績全部ヲ掲ケテ
參考ニ供ス、但シ一ケ年ノ成績ナレハ其ノ結論ハ今遽ニ信シ能ハサルモノモアルヘシ

米穀貯藏試驗成績

兵庫縣米穀検査所(主査、手島監督員)

産米改良事業ノ發達ニ伴ヒ之レカ貯藏ノ方法ヲ講究スルハ最モ緊要ナルヲ以テ茲ニ本試驗ヲ行ヒ斯業
ノ參考ニ資セントス

試驗ノ梗概

一、本試驗ハ大正四年度産米ヲ以テシ收穫當時大小粒別ニ乾燥良好ノモノ、普通ノモノ、不良ノモノ各
一種ニ付八俵ツ、即チ四十八俵ヲ一ヶ所ノ倉庫ニ貯藏シ各俵ニ付正確ニ容量及重量ヲ檢シ三月ヨリ
十月マテ八ヶ月間毎月下旬ニ各種一俵ツツ解俵シ容量、重量及俵裝ノミノ量目並保存ノ状態ト更ニ
之レヲ精白シテ搗滅歩合其他ノ要項ヲ調査セリ
一、倉庫ノ位置及地勢

奥藤家倉庫

兵庫縣赤穂郡坂越村ノ内高谷村千六百二十五番地ニシテ東南ハ人家ニ接シ坂越港トハ凡ソ八丁餘ヲ
隔テ西北ハ人家ニ連ナリ約一丁ヲ距テテ千種川ニ沿ヒ西南縣道ヲ挾ミテ田圃ニ對シ東北ハ山ヲ負ヘ

リ而シテ其山ノ湧出水ハ地下ヲ通過スルカ故ニ海拔約二十尺ノ高地ニアルモ米穀貯藏倉庫ノ敷地ト
シテハ稍々濕潤ナリ

大西家倉庫

兵庫縣印南郡上莊村ノ内見土呂村三百九十五番地ニシテ南ハ稻田ニ接シ約二丁ヲ隔テテ加古川ニ沿
ヒ東ハ道路ヲ挾ミ宅地ニ連ナリ北ハ二間餘ノ空地ヲ隔テ本宅ノ門長屋ニ接シ西ハ家屋ニ連リ四圍平
坦海拔四十五尺ノ高地ニシテ排水良好ナル方、氣候温和ニシテ寒暖ハ別表ニ示スカ如ク激變ナク、
米穀貯藏倉庫ノ敷地トシテハ適當ナリト認ム

野村家倉庫

兵庫縣水上郡黒井村ノ内、黒井村二千四百十一番宅地内ニアリテ東方三間餘ノ庭園ヲ隔テテ本宅ニ
接シ、西ハ人家ニ接續シ南ハ縣道ヲ隔テテ人家アリ、北ハ宅地内二間餘ノ空地ヲ隔テテ他ノ倉庫ニ
接シ、地形ハ北ヨリ南ニ傾斜シテ下水瀦溜ノ憂ナク、晴天數句ニ亘ルトキハ土地乾燥ニ失シ晴雨ニ
ヨリ土地ノ乾湿度合ニ甚シキ懸隔ヲ生シ米ノ貯藏倉庫トシテハ此激變ヲ防クノ設備ヲ要スト認ム

二、倉庫ノ構造

奥藤家倉庫

土藏ニシテ桁行十二間、梁行五間半、高サ二間半、屋根裏ハ總テ板ヲ張り其上ニ厚サ二寸ノ土ヲ置キテ

瓦ヲ葺キ、四圍ノ土壁ハ厚サ四寸、内部ノ周圍ハ三尺毎ニ徑三寸乃至四寸ノ二ツ割杉丸太ヲ以テ俵摺木ヲ釘着トシ、外部ハ土臺石ヨリ一間半ノ高サニ焼杉板ヲ以テ圍ヘリ、庫内ノ地面ハ漆喰叩キ、厚サ二寸西南ニ高サ二間、巾七尺ノ出入口ヲ設ケ、窓ハ下ヨリ一間半ノ處ニ西北ニ四ヶ所、東南ニ二ヶ所東北ニ二ヶ所、西南出入口ノ上ニ二ヶ所ヲ開キ、出入口ハ板戸トス、其外側ニ間口五間半、奥行一間半ノ庇ヲ設ケ

大西家倉庫

土藏ニシテ桁行五間、梁行三間、高サ一間半、其上ニ合掌ヲ組ミ板ヲ張り、其上ニ厚サ二寸ノ土ヲ置キ尙上ニ四寸ノ空間ヲ置キテ屋根地ヲ拵ヘ厚サ二寸ノ土ヲ置キ瓦ヲ葺ク、内部ノ四周ハ板ヲ以テ張り地下ヨリ五寸ヲ離レ座板ヲ張り、窓ハ東下方ヨリ七尺五寸上リタル所ニ方二尺ノモノ一箇、壁ノ厚サ五寸、出入口ハ北向ニシテ高サ六尺巾四尺五寸ナリ

野村家倉庫

土藏ニシテ桁行八間、梁行二間半、高サ二間、屋根裏板張ニシテ其上ニ厚サ二寸ノ土ヲ置キ瓦ヲ葺ク、土面ハ「コンクリート」厚サ二寸、其ノ下ニ砂利二寸ヲ埋メ、壁ノ内面ニハ三尺毎ニ二本ツツ徑三寸ノ俵摺木ヲ釘着シ、窓ハ下ヨリ八尺ノ處ニ方二尺ノモノ西側ニ二ヶ所、北側ニ一ヶ所、南側ハ下ヨリ五尺四寸ノ所ニ一ヶ所、東ニ高サ六尺五寸、幅四尺ノ出入口ヲ設ケ

三、米ノ積ミ方

奥藤家倉庫ニ於テハ庫内ノ東隅ニ四間ニ二間ヲ劃シ、五寸角ノ臺木ヲ置キ小口立一俵並ニ配列ス
大西家倉庫ニ於テハ入口ノ西北隅ニ三間ニ一間ノ場所ヲ定メ、座板ノ上ニ五寸角ノ臺木ヲ置キ其上ニ井桁積ニ三俵ツツヲ重ヌ

野村家倉庫ニ於テハ入口ノ右、倉庫ノ東側壁ニ沿ヒタル處ニ三間ニ一間ノ場所ヲ定メ、漆喰ノ上ニ五寸ノ臺木ヲ置キ其上ニ井桁積ニ三俵ツツヲ重ヌ

四、貯藏ト地勢及温度トノ關係

奥藤家倉庫ノ貯藏試驗米ハ入庫ノ當時試驗米以外ニ他ノ俵米ヲ多數積込ミアリタルモ梅雨期以前ニ於テ全部ヲ出庫シ米ノ貯藏上最モ困難ニシテ被害多キ梅雨期ヨリ土用後ニ至ル暑氣劇甚ノ時期ニ於テ大倉庫内ニ試驗米ノミトナリ加フルニ敷地濕氣ヲ含メルヲ以テ庫内ノ温度極メテ低ク八月以後解俵ノ分ハ乾燥不良ニシテ下積俵口ニ多少ノ變質米ヲ見タルモ別表ノ如ク試驗終了ノ十月ニ至ルモ容量ニ於テ殆ト減量セルモノナキハ土地常ニ濕潤ニシテ庫内ノ温度低キニ依ルモノナランカ
大西家倉庫ハ供試米以外ノ俵米ヲ以テ滿積シアリシカ故ニ四月以後ニ於テハ庫内常ニ醗熱シ奥藤、野村兩家ノ倉庫ニ比シ庫内ニ於ケル乾燥ノ度合高ク爲メニ八月以後解俵セル試驗米ハ別表ノ如ク幾分ノ減減ヲ呈セリ、然レトモ庫内ノ氣温常ニ高カリシカ故ニ殆ント變質米ヲ見ス
野村家倉庫ハ當初供試米以外ノ俵米ヲ滿積セシモ五月頃殆ト出庫シ試驗米ノミトナリ庫内ハ比較的

冷涼ニ保ツコトヲ得タリ、元來同地方ハ別表ニ示ス如ク日々寒暖ノ差甚シキモ米質ノ變化ヲ見ス

五、貯藏ト晴雨ノ關係

米ハ水分ノ吸收力強ク、且速カナルモノナルカ四月ヨリ七月マテハ雨天多カリシ爲メ同期間解俵ノモノハ概シテ樹殖多シ而シテ乾燥不良ノモノハ幾分變質セルモノアリ、又解俵調査ノ當日晴天ナルト雨天ナルトニ依リ貯藏米ノ容量ニ多大ノ増減アリ

六、貯藏ト倉庫ノ關係

貯藏ト倉庫ノ關係ニ付本試驗ノ成績ニ照ラセハ奥藤家倉庫ノ貯藏米ハ別表ニ示ス如ク十月解俵ノモノト雖殆ト容量不足ヲ告ケス、大西家倉庫ノモノハ九月解俵ノモノニ於テ既ニ減量ノモノアリ、而シテ野村家倉庫ニ貯藏ノモノハ十月ニ於テ減量セリ、斯ノ如ク容量増減ノ狀況ハ各倉庫トモ異レリ、之レカ原因ヲ研究者査スルニ奥藤家倉庫ニ於テハ供試米以外ノ米ハ三月末ニ於テ出庫シ十二月間ニ五間半ノ大倉庫内ニ試驗米ノミ貯藏シ加フルニ周圍ニ十ヶ所ノ窓アリ、土間ハ漆喰叩ニテ敷地モ他ノ倉庫ニ比シ冷涼ニシテ空氣ノ流通宜シク、野村家倉庫ニ於テハ試驗米以外ノ積合せ米ハ七月中ニ殆ント出庫シテ試驗米ノミ殘存シ、土間ハ「コンクリート」ニテ固メ、四ヶ所ノ窓アリテ空氣ノ流通能ク敷地ハ奥藤家ノ倉庫ニ亞キ氣温低キカ如シ、大西家倉庫ニ於テハ十月貯藏試驗終了ノ期ニ至ルモ積合せ米滿積シ、且窓ハ一ヶ所ナル爲庫内蒸熱ヲ斷タスシテ空氣比較的乾燥セルカ如シ、而シテ米ノ

乾燥良好ノモノハ各倉庫ヲ通シ殆ント容量ヲ減セス又十月ニ至ルモ容量ノ減セサルハ庫内ニ於ケル

湿度ノ關係ニ依ルコト多シ、然レ共如斯倉庫ニ於テハ多少下敷米ニ變質ヲ來スコトナシトセス

本試驗ノ成績ニ依ルニ米穀貯藏倉庫ヲ新設スル場合ニハ左記各項ノ設備ヲ要スルモノ、如シ

(イ) 敷地ハ濕潤ニ失セサル程度ニ於テ幾分ノ水分アルヲ必要トス、乾燥ニ失スルトキハ庫内ニ蒸熱ヲ起シ容量ヲ減スルコト多シ、濕氣多キトキハ梅雨期ヨリ土用中ニ於テ變質シ又ハ臺附腐蝕米ヲ出スコト多シ

(ロ) 長期貯藏ニハ滿積スルコト不適當ナルモノノ如シ、何トナレハ米ハ酸酵性ヲ有スルモノナルカ故ニ多數ノモノヲ堆積スルトキハ自然蒸熱ヲ發シ變質米ヲ生シ食味ヲ害スルコトアリ

(ハ) 倉庫ハ合掌ノ上ニ土三四寸ヲ置キ其上ニ屋根桁ヲ組ミ屋根地ヲ拵ヘ合掌ト屋根地トノ中間ニ五六寸ノ空隙ヲ存シ、壁ノ厚サハ五寸以上トシ、太陽ノ射熱ヲ遮蔽スル裝置ヲ設クルコト

(ニ) 窓ハ三間ニ二ヶ所位ヲ明ケ下部ニ空氣拔ヲ設ケ晴天ニハ之ヲ開キ雨天ニハ之ヲ閉ツルコト

(ホ) 出入口ハ北向ニ設ルカ又ハ日光ノ直射セサル様樹木ヲ植附ルコト

(ヘ) 倉庫ノ東南西ハ四五尺ノ間隔ヲ置キ太陽ノ射熱ヲ遮蔽スヘキ様適當ノ樹木ヲ植附ルコト

(ト) 倉庫内ハ常ニ低温ニ保ツ方法ヲ講スルコト

米ノ長期貯藏ノ場合注意ヲ要スルコト左ノ如シ

(イ) 壁際ニハ約一尺位ノ空間ヲ置クヲ最モトス、然レトモ經濟上不可能ナルトキハ壁際ニ成ルヘク間隔ノ生スル様俵摺木ノ大ナルモノヲ用ユルコト

(ロ) 米俵ノ積ミ方ハ十俵又ハ十二俵以上ヲ重ネサルコト、下敷ニハ必ス五寸角以上ノ臺木ヲ置クコト

七、貯藏ト穀蟲驅除ノ關係

野村家倉庫ニ於ケル試驗米ニハ穀蟲發生セシニヨリ二硫化炭素燻蒸ヲ行ヒタル爲穀蟲ハ絶滅シタルモ八月以後ニ於テ解俵セシモノハ別表ノ如ク容量ニ不足ヲ生シタルモノ多シ、是レカ原因ヲ考究スルニ二硫化炭素ノ燻蒸ハ穀蟲驅除ニ偉大ノ効力ヲ有スルノミナラス燻蒸セシ米ハ乾燥ヲ良好ナラシムルニ與ツテ力ヲタルモノノ如シ、野村家倉庫ニ於ケル試驗米ニシテ五、六兩月ニ於テ解俵調査セシモノノ内乾燥不良ノモノニ多少ノ變質セシ形跡アリシモ燻蒸後ノ試驗米ハ乾燥不良ノモノト雖變質セサルノミナラス其以前ニ比シ却テ乾燥良好ナルモノノ如シ

八、貯藏ト包裝ノ關係

今回ノ試驗ハ俵米ノミヲ以テ之ヲ行ヒタルモノナレハ他ノ包裝ト比較對照シタル具體的成績ヲ得ル能ハサリシモ長期ノ米ノ貯藏ニハ「俵」ニ優ル包裝ナシト云フヲ憚ラズ、然レトモ製俵ノ巧拙良否ニ依リ利害ノ異ナルハ明カナリ、古來俵ハ「緊リ」ト云フ、又貯藏ノ俵米ヲ檢スルニ與藤家及大西家倉庫ニ於ケルモノハ充分能ク緊縮セルモ野村家倉庫ニ於ケルモノハ緊縮稍々不充分ナリシヲ以テ六月二

十七日ノ解俵時期ニ於テ甚シク穀蟲發生シ驅除ヲ爲サレハ土用以後ノ貯藏ハ不可能ナルヲ認メ七月二日一時他ノ倉庫ニ移シ穀蟲驅除ヲ行ヒ二日間ヲ經テ再ヒ元ノ倉庫ニ貯藏セリ、與藤家倉庫ノモノハ夏期僅少ノ穀蟲發生ヲ見タルモ其後自然絶滅シ十月試驗終了ノ際ハ穀蟲ノ影ヲ見ス、大西家倉庫ハ前項ニ述ヘタルカ如ク貯藏米以外ノ俵米ヲ滿積シ倉庫内甚シク蒸熱ヲ催シタルニ拘ハラズ穀蟲ノ發生少ナシ、此兩家ノ倉庫ニ穀蟲驅除ノ必要ナカリシハ倉庫ノ位置及構造トノ關係ニ因ルモ亦俵裝ノ緊縮如何ニモ因ルヲ知ルヘシ

貯藏米ニ對スル俵裝ノ重量ハ別表ノ如ク時日ノ經過スルニ從ヒ漸次減量ヲ見タルカ與藤家倉庫ニ於ケル六七月及野村家倉庫ニ於ケル七月分ニ限リ貯藏當時ノ重量ヨリ増加セリ、是レカ原因トシテハ前項ニ述ヘシカ如ク庫内土間ノ漆喰叩キナルト、土地濕分ニ富メルニ加ヘテ梅雨期ナリシカ故ニ外部ノ濕氣ヲ吸收シタルニ依ルモノナランカ、大西家倉庫ニ於ケル貯藏米ノ俵裝ハ貯藏當時ノ重量ニ比シ減少スル一方ノミニテ梅雨期ト雖増加ノモノナキハ前項ニ述ヘタルカ如ク倉庫内常ニ乾燥セルニ依ルモノノ如シ又別表ニ示セル如ク俵裝ノ重量カ多ク減スルモノト否ラサルモノトアリテ是等ノ原因ハ原料藁ノ乾燥程度ノ差異ニヨリ生セシモノナルヘシ

九、貯藏ト早、中、晚稻及品種ノ關係

早稻米ハ品種ノ如何ヲ問ハス概ネ脂肪分乏シク土用後ニハ品質ヲ損シ食味惡シキ傾向アルヲ以テ長

期ノ貯藏米トシテ中、稻、晚稻米佳良ナルカ如シ

十、貯藏ト乾燥及變質ノ關係

米ノ貯藏ニ最モ必要ナルハ乾燥ニシテ種類ニ依リ多少ノ差違アルモ本縣下生産米ニ於テハ大體一升ノ重量三百八十五匁以上ナルモノハ殆ト變質腐敗ノ虞ナシト雖三百八十五匁以下ノモノハ俵裝ノ緊縮ヲ充分ニシ倉庫ノ設備完全ナラサルトキハ變質ノ厄ヲ免レ難ク又三百八十匁以下ナルトキハ梅雨期以後土用中ニ於テ變質ノ厄ニ罹ルヲ普通トス

十一、貯藏ト梅雨期前後ニ於ケル樹殖及土用後ニ於ケル樹減ノ關係

米ノ膨脹期ニ於ケル増量程度及増量ノ時期ハ一定セシモノニ非ス、其ノ原因多樣ニシテ單純ナルモノニアラスト雖茲ニ増減ノ岐ルル重ナル原因ヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ) 充實ノ完否

(ロ) 乾燥ノ良否

(ハ) 倉庫ノ乾濕程度

充實完全ニシテ乾燥充分ナルモノハ膨脹力強ク、否ラサルモノハ膨脹力微弱ニシテ殆ント増量セザルモノアリ、又庫内ノ乾燥セルト濕潤ナルトハ大ニ膨脹力ニ影響ヲ及ホスモノニシテ別表試驗ノ結果ニ依ルトキハ與藤家倉庫ニ於テ乾燥良好ノモノハ八九月、乾燥普通ノモノハ七八月、乾燥不良ノモノハ一升マテ膨脹スル力ヲ有スルモノト見テ差支ナカルヘシ

ノハ六七月ヲ以テ最大増量ノ期節トシ、大西家倉庫ニ於テハ七八月ヲ以テ最大増量期トシ、野村家倉庫ニ於テハ六月俵裝セシモノ増量最モ多カリシモ七月初旬穀蟲驅除ヲ行ヒテヨリ普通最モ多ク増量スヘキ時期タル七八月ノ候ニ於テ増量ヲ見サルニ至レリ、樹殖ノ數量ヲ舉クレハ各倉庫ニ依リ多少ノ差異アルモ乾燥良好ナルモノハ一俵ニ付一升八合、乾燥普通ナルモノハ一升六合、乾燥不良ノモノハ一升マテ膨脹スル力ヲ有スルモノト見テ差支ナカルヘシ

十二、貯藏ト重量ノ關係

貯藏米ノ重量ハ貯藏後十月ニ至ル迄大體ニ於テハ増減スルモノニ非ラサルモ別表ノ如ク樹殖及樹減ノ關係ヨリシテ一升ノ重量ハ時々變動ヲ免レス又米ハ品種ニヨリ量目ニ輕重アルモノニシテ大粒ハ小粒ニ比シ稍々輕ク而モ大粒種ハ種類ニ依リ甚タシキ差異ナキモ小粒種ニ在リテハ種類ノ如何ニ因リ輕重ノ差多シ、赤穂種、成田ノ如キハ輕ク、東京種、勝軍ノ如キハ重シ

十三、貯藏ト穀蟲發生ノ關係

穀蟲ノ發生ハ乾燥ノ良否、俵裝ノ完否、倉庫ノ適否ニ原因スルコト勿論ナリ、今回試驗ノ結果ニ稽フルニ與藤家大西家ノ倉庫貯藏米ハ穀蟲ノ發生極メテ少ナキモ野村家倉庫ニ於ケル貯藏米ニハ穀蟲多ク發生シ驅除ヲ爲サルル可カラサルニ至レリ、是レ前項ニ述ヘタル如ク俵裝緊縮ノ充分ナラザリシニ依ルモノノ如ク、又穀蟲ノ種類ニ依リ其發生趨ヲ異ニスル傾向アリ、穀象、穀賊ノ如キハ品質ノ

如何ヲ問ハス乾燥ノ不良ナルモノニ發生スルモ穀蛾ハ腹白多ク脂肪分少ナク總テ種類ノ劣等ナルモノニ發生少ナク概ネ外皮薄ク甘味多キ優良ノ品種ニ發生シ易キモノノ如シ

十四、貯藏ト搗減ノ關係

搗減ノ多少ニ影響スル重ナル原因ハ左ノ如シ

(イ) 粃ノ乾燥ト粃ノ充實トノ關係ハ別表ニ示セル如ク貯藏當時乾燥良好ニシテ能ク充實セルモノハ玄米一石ニ付一升乃至四升、普通ノモノハ五升乃至七升、不良ノモノハ八升乃至一斗一升位ノ搗減ヲ生スルカ如シ

(ロ) 早、中、晚稻ニ因ル搗減ノ歩合ハ別表ノ如ク奥藤家貯藏米中四、五、七月解俵調査ノモノノ内小粒種ニシテ乾燥良好ナルモノハ早稻米ニシテ乾燥普通ノモノニ比シ搗減多ク從テ重量輕シ、之レニ依レハ早稻米ハ何種ヲ問ハス中、晚稻ニ比シ概シテ搗減多ク重量輕キモノト知ルヘシ

(ハ) 品種ニ因ル搗減歩合

早稻米ノ搗減多キハ前項ノ如クナルカ腹白多キ種類ハ腹白少ナキ種類ニ比シ搗減多キカ如シ

十五、貯藏玄米ト白米トノ重量關係

別表ノ如ク乾燥ノ良否、品種ノ如何ヲ問ハス玄米一升ノ重量三百九十四五匁アルモノ又三百七十匁内外ノモノト雖精白ト爲シタルトキノ一升ノ重量ハ殆ント同一ニシテ三百七十匁乃至三百七十五匁

匁ニ止マルモノナルカ之レカ原因タル玄米ノ重量ノ重キモノハ搗減少ナク輕キモノハ搗減多クシテ白米トナシタル正味ノ重量ハ別表ノ如キ結果ヲ呈スルモノナリ

十六、早、中、晚稻及品種ニ因ル白米良否ノ關係

別表ノ如ク精白シタルモノニ付調査セシ早稻米及腹白多キ玄米ヲ以テハ「白面」良キ白米ヲ得ラレサルモノトス、大粒種ニアリテハ雄町、山田穂、政岡ノ類、小粒種ニアリテハ日ノ出、勇崎、薄皮等優良ノ白米タリ得ベク、神力、器量好等ハ普通白米以上ニ出ル能ハス

十七、產地ト早、中、晚稻及品種ニ因ル糠量ノ關係

別表ノ如ク精白ノ程度ハ輸出三等米ヲ標準トシ各所同様ナルカ糠量ニ於テハ各地各俵トモ差異アルヲ免レス、之レカ原因ヲ攻究スルニ概ネ左ノ如シ

(イ) 產地氣候ノ寒暖ニ因ルモノノ如ク野村家倉庫貯藏米ハ奥藤、大西兩家ノ倉庫ニ貯藏セシモノニ比シ總テ糠量多キハ生産地ナル丹波ハ播州ニ比シ寒氣ノ甚シキニ依ルナランカ

(ロ) 品種ニ依リ糠量ニ多少ノ差アルモ野村家倉庫ニ於ケル九、十ノ二ヶ月分ヲ白米ト爲シタルモノハ他ノモノニ比シ糠量甚タ多キヲ示セリ

(ハ) 貯藏當時ヨリ三月ニ至ル間ハ解俵検査ヲ行ハサルヲ以テ其ノ期間ニ就キテハ明言スルヲ得サルモ三月以後ニ於ケル毎月ノ糠量ヲ調査スルニ三月ヨリ十月ニ至ル月々ノ糠量ヲ増シタルハ時日ノ

四三二一〇九八七六五四三二一九八七六五四

曇曇曇曇曇晴晴晴晴晴雨晴曇曇雨晴晴晴晴曇

四四四四四四四四四四四四四五四四四四四
五五五六二一〇一四六四一〇三二八三七八五

晴雨曇雨曇晴晴曇晴晴雨晴晴曇雨曇晴晴晴

四四四四四四四四四四四四五四四四四四
四三四三一一一〇一五五〇一二〇八三五九六

晴曇晴雨曇晴晴晴晴雨晴晴雪雨雨晴曇晴曇

四四四三三三三三四四四三三四四四四四
〇二三八八九七八一四一七九〇七四一七三

三三二二〇九八七六五四三二一〇九八七六五四

晴晴曇晴晴曇晴晴晴晴晴晴晴晴雨雨雨曇晴

四四三四三三四四四四四四四三三四四四四
三〇八四九九〇二二二二二二二二二二二二二

曇曇曇晴曇曇曇晴晴晴晴曇曇晴晴曇雨雨曇晴

四四三四三三四四四四四四四三三四四四四
三〇九四七八一二一二一〇一九二四五六〇三

雨雨雨曇曇 | | | | | | | | | | | | | | | |

四三三四 | | | | | | | | | | | | | | | |

ハ已ニ概説ニ於テモ述ヘタル如ク時ノ經過ニ從ヒ米質ハ粘氣ヲ減シテ脆弱トナリ、光澤ヲ失ヒ色相ニ赤味ヲ加ヘ食味不良トナリ遂ニハ徒ニ形體ヲ存スルノミニシテ食ニ耐ヘサルモノト化ス、粳ノ貯藏力ニ就キテハ種々ノ説ヲナスモノアリ、長野縣ニ於テハ乾燥タニ十分ナラス十ヶ年位ハ貯藏シ得ルカ如シト云ヒ又同縣南佐久郡方面ニ於テハ二十ヶ年位貯藏シ得ト云フ、青森縣ニ於テハ大ナル減損ナキ貯藏期間ハ凡ソ十ヶ年位ナリト云フ、其他石川縣ニ於テモ十數年間貯藏セル例多シト云ヒ尙單ニ形體保存ノミナラハ百ヶ年迄ノ實例ヲ今ニ見ルコト稀レナラス要スルニ乾燥ノ程度及貯藏法ニ依リ多少ノ差ハアルヘキモ長ク貯藏ニ耐ユルハ明カナリ

然リト雖色澤食味ノ惡變ハ到底免カルル能ハサル所ニシテ岩手縣ニ於テモ乾燥良キ倉庫ニ於テ貯藏完全ナルトキハ二ヶ年位變色セシメスシテ貯藏スルヲ得ヘキモ倉庫ニシテ濕氣多ク貯藏不完全ナルトキハ滿一ヶ年位ニシテ變色ノ微ヲ現ハス、一般ニ貯藏三ヶ年ニ至レハ餘程變色シ多少臭氣ヲモ生スルニ至ル、故ニ變色甚タシキニ至レハ既ニ貯藏ニ堪ヘサルモノト見ルトキハ貯藏ハ五ヶ年ヲ限度トスヘシト云フ、宮城縣ニ於テモ五ヶ年ハ大ナル減損ナク貯藏シ得ルモノトナシ、富山縣ニ於テハ三四年間迄ハ米質ニ影響ノ著シキヲ見サルモ五六年目ヨリハ粳ニ稍々黃色ヲ帶ヒ食味モ從ツテ惡變スルヲ免カレストシ、石川縣ニ於テハ實用的貯藏期間ヲ六ヶ年ト見做シ、福井縣ニ於テハ大體ニ於テ五ヶ年間ハ米質ニ變化ヲ來ス憂ヒナシトシ、信州諏訪藩ニ於テ五ヶ年以上貯藏セルモノヲ粳摺シテ試食セシニ食味

劣リ、二ヶ年貯藏ノモノハ食味ニ著シキ變化ナク三ヶ年位迄ハ差支ナカルヘシト云ヒ又舊幕時代ニ於ケル同藩ノ粳貯藏ハ五ヶ年毎ニ入替ヲ行ヒ、徳川時代ニ於ケル備荒儲蓄ノ粳ハ大抵三ヶ年乃至五ヶ年目毎ニ新舊交替ヲ行ヘリト云ヘハ凡ソ四五年ヲ以テ實用的貯藏限度トナシテ可ナルカ如シ

〔粳摺時季ニ依ル影響ハ殆ント貯藏第一年目ノ夏季ニ限ラル、換言スレハ其ノ影響ハ夏季ノ氣象ト粳摺トノ今摺米ニ對スル影響ニシテ粳ノ乾燥程度ニ依リ著シク其ノ程度ヲ異ニスルモノナリ、今夏季ニ粳ヲ摺ルトセハ山口縣ニ於テハ今摺米ハ摺立ノ當時ハ光澤佳良ナル如キモ四、五日ヲ經過スルトキハ著シク劣變スルヲ普通トス、但シ斯クノ如キハ乾燥不良ニ基ク變化ニシテ其模様ハ玄米ト異ルコトナク乾燥タニ良好ナレハ決シテ光澤ヲ失フコトナク又米商者ニ廉價ニ買取ラルルコトナシト云フ〕鳥取縣ニ於テハ粳摺後、十數日ニシテ已ニ變質スルニ至ルト云ヒ熊本縣ニ於テハ今摺米ノ變化ハ不良米ハ二週間普通米ハ一ヶ月良米ハ二ヶ月ニシテ變色ストナシ、新潟縣ニ於テハ出來秋摺ハ今摺ト比較スルトキハ粳摺後時日ヲ經ルニ從ヒ後者ハ品質ノ變化極メテ急劇ニシテ乾燥不良ノモノノ如キハ十餘日ヲ經過セハ殆ント粳摺當時ノ原質ヲ認メサルニ至リ特ニ盛夏ノ候ニ於テ然リト云フ、茨城縣ニ於テハ出來秋ニ粳摺ヲ爲シタルモノト四月以後ノ今摺米ト比較スルニ今摺米ハ一ヶ月以内ニ品質ヲ劣下スルモノトセリ、埼玉縣ニ於テハ粳ノ儘貯藏スルモノハ一ヶ年ヲ經ルモ原質ニ大ナル影響ナキモ粳摺ヲナシタル後數日ヲ經ルトキハ著シク變質シ且ツ搗減歩合ヲ増シ食味ヲ損スルカ如シト云ヒ、福岡縣ニ於テハ四月

初旬ヨリ梅雨期迄ノ間ニ糶摺シタルモノハ乾燥ノ良不良ニヨリテ一様ナラズト雖乾燥不良ノモノニア
 リテハ糶摺後三日ニシテ已ニ原色ヲ失ヒ其ノ良ナルモノト雖十五日ニシテ同一ノ現象ヲ現スト云フ、
 廣島縣ニ於テハ要スルニ乾燥同程度ナルトキハ秋摺ヲ優ルトシ秋ノ乾燥不充分ナルトキハ今摺ノ方良
 好ナリトス而シテ今摺米ハ之レヲ秋摺米ニ比スレハ摺立ハ一種ノ光澤ヲ帶ヒ一見優良ナル如キモ一二
 週間ヲ經レハ已ニ光澤ヲ失ヒ其ノ色白化シ米質不良トナリ俗ニ云フ腹當リトナルト云ヒ、富山縣ニ於
 テハ暑氣ニ糶摺ヲ爲シタルモノハ之レカ精白ニ時間ヲ要スルコト少ク食味モ亦優ルト雖糶摺前後ノ温
 度ノ關係上久シキニ耐フル能ハス一、二週間ノ後ニハ食味、品質共ニ之レヲ玄米ニテ貯ヘタルモノニ比
 シ劣ル、然レトモ温度低キ十、十一月頃ニ至リ糶摺ヲナストキハ品質、食味ノ上ニ於テ遙カニ玄米貯藏
 ノモノニ優リ長ク變質スルコトナシト云フ、又鹿兒島縣ニ於テハ今摺後一週間ニシテ色澤ヲ變スト云
 フ要スルニ今摺米ハ摺立當時ハ水氣ヲ含ミ光澤麗シク新米ノ状態ニアルモ急チ外氣ノ影響ヲ受ケテ先
 ツ色澤ヲ失ヒ糠層反展シテ甚シク外見ヲ惡クス、之レヲ俗ニ腐化ルト云ヒ尙進ンテハ遂ニ變質シテ精
 白ノ場合ハ原形ヲ失フニ至ルヲ一般ノ順序トス、其ノ腐化ル迄ノ期間、換言スレハ摺立當時ノ状態ヲ保
 持スル期間ハ糶摺ノ時季及糶ノ乾燥程度ニヨリテ大差ヲ生スルナリ、各縣ニ於ケル數字ハ各縣ニ依リ
 テ異ルコトヲ示スニ非ラスシテ糶ノ乾燥程度ヲ異ニスル結果ナリ、而シテ大體ニ於テ今摺米ハ多クノ
 場合一週間位原質ヲ保ツニ過キサカ如シ尤モ乾燥良好ナルモノハ二十日乃至一ヶ月ヲ保ツト云フ、

要スルニ今摺米ハ貯フヘキモノニアラス、即チ其ノ貯藏力ハ多少ノ差ハアルヘキモ到底秋摺米ニ比ス
 ヘカラス、故ニ貯藏ハ糶ヲ以テ行ヒ今摺米トナシタルトキハ直チニ或ハ一般ニ少クトモ一週間以内ニ
 精白シテ食料ニ供スヘキモノナリ、然ラハ食味モ却ツテ優ルコトアルカ如シ、又乾燥良好ナレハ從ツ
 テ變質迄ノ期間長キカ故ニ乾燥ヲ良好ニスルコト肝要ナリ、之レヲ行フニ二法アリ、即チ春季晴天ノ
 日ヲ選ヒ一日位莖乾ヲ爲シ日没前ニ取入レ再ヒ貯藏シテ隨時糶摺スルカ或ハ糶摺ノ際ニ必ス一度莖乾
 スルコト、但シ夏期ニ於テ乾燥後直チニ摺ルトキハ胴割甚シキヲ以テ餘温ヲ去リシ後ニ摺ルノ必要
 アリ

地方ニ依リテ時期ヲ異ニスヘキモ秋冷ノ候ニ入レハ糶摺後夏期ニ於ケルカ如キ變化ナク新米ト同様ノ
 状態ヲ長ク保ツト云フ

尙秋摺米ト今摺米トノ優劣比較ハ頗ル困難ナルモ大體ニ於テ秋收期ニ於ケル乾燥良好ナル地方ニ於テ
 同一ノモノヲ一方秋摺トナシ玄米貯藏ヲ行ヒ地方糶貯藏ヲ行ヒ今摺米トセハ秋摺ノ方品質ニ於テ今摺
 米ニ優ルト云フ然レトモ秋收期ニ降霜早來シ日照時間少ク乾燥不充分ナル地方ニ於テハ糶摺前一日乾
 燥セシメ充分放冷セシメテ糶摺ヲ爲セハ今摺米ノ方概シテ品質佳良ナリ、要スルニ乾燥良好ナル場合
 ニ同等級ノモノハ秋摺米ノ方優リ乾燥不良ナル場合ニ同等級ノモノハ今摺米ノ方優ルト見テ大過ナシ

第二項 玄米ノ場合

玄米ノ長期貯藏カ米質ニ及ホス影響ハ粗ノ場合ト同シク年月ヲ經ルニ從ヒ光澤ヲ失ヒ色相濃厚トナリ粘氣ヲ減シテ質脆弱トナリ概シテ品質劣變スルヲ一般トス

元來玄米ハ粗ニ比較シテ穀皮ヲ被ラサルタケ以上ノ影響ヲ蒙ルコト著シク隨ツテ粗ノ如ク長期貯藏ニ堪ヘサルハ明カナリ、乾燥、品質共ニ良好ナルモノハ四、五年ヲ貯藏シ得ルモ經濟的貯藏ハ大抵二三年ヲ以テ限度トスルハ諸説ノ一致スル所ナリ

貯藏ト米質トノ關係ハ元來ノ米質特ニ乾燥如何ニ依リテ大ニ異ルハ已ニ第二章ニ於テ述ヘタル所ナリ而シテ乾燥如何カ米質ニ著シキ影響ヲ現ハスハ貯藏第二年ノ梅雨期ナリ此ノ時期ニ於テ乾燥不良米ハ著シク穀蟲ニ犯サレ米質ヲ變シ甚シキハ腐敗スルニ至ル、之レ貯藏ノ影響ニ非ラスシテ寧ロ氣候ト不乾燥ノ影響ナリ而シテ實際ニ於テモ乾燥ノ程度ニ依リ梅雨期ヲ無事通過シ得ル米ト通過困難ナル米トヲ區別シ前者ヲ特ニ夏越米ト稱セリ

○新潟縣ニ於ケル調査ニ依レハ一般ニ貯藏ノ時日長キニ從ヒ光澤ヲ失ヒ色濃厚トナリ質脆弱トナリ品質漸次粗惡ニ傾クモノノ如ク就中乾燥不良ノモノハ梅雨期ヨリ盛夏ノ候ニ於テ變質ニ傾キ蝕害ニカカルヲ常トス、其變化ノ状態ヲ見ルニ五月迄ハ何等ノ變化ヲ來ササルモ六月ヨリ九月ノ間ニ於テ大ナル變化ヲ受ク、特ニ今摺米ニ於テ然リ、而シテ變化ノ第一ニ來ルハ色ニシテ乾燥普通ノモノハ僅ニ赤味ヲ帶ヒ來ルニ止マルモ乾燥惡シキ下等米ハ八月ニ入レハ俗稱えび米ト稱シ其色紅ヲ呈シ遂ニ黑色ニ變ス

ト云フ

廣島縣ニ於ケル調査ニ依レハ米質ハ貯藏倉庫及容器ノ優劣如何ニ依リ又ハ俵裝セララル場合ニハ掛繩ノ緊弛如何ニ依リ甚シク差異アリテ一般ニ云フトキハ古キニ從ヒ品質劣化ス

山梨縣ニ於テハ玄米貯藏ハ粗貯藏ニ比シ品質惡變ノ患多シト云フ

鹿兒島縣ニ於テモ乾燥可良ナルモノハ米質ヲ損スルコト極メテ少キモ其ノ不良ナルモノニアリテハ翌年四、五月ニ至リ腐敗スルモノ多シト云フ

石川縣ニ於ケル調査ニ依レハ六、七月ニ於テハ乾燥不良ノモノハ變味、變色、蟲付等變質ヲ來シ八月ニ於テハ乾燥不良ナルモノハ益々變質スルモ調製乾燥充分ナルモノハ依然トシテ變色、變質ノ憂ナシト云フ

熊本縣ニ於ケル調査ニ依レハ米ヲ大體良米、普通米、不良米ノ三種ニ分テハ良米ハ三年目ヨリ、普通米ハ二年目ノ六七月ヨリ不良米ハ二年目ノ五月ヨリ變化ヲ始ムト云フ、鳥取縣ニ於テモ翌年入梅前迄ハ米質ニ變化ナキモ入梅期ヨリ漸次變化シ粘力ヲ減シ食味大イニ劣ルト云フ

兵庫縣米穀検査所ノ說ニ依レハ一升ノ重量三百八十五匁以上ノモノハ殆ント變質腐敗ノ虞ナシト雖ソレ以下ナルトキハ俵裝ノ緊縮ヲ充分ニシ倉庫ノ設備完全ナラサルトキハ變質ヲ免レ難ク又三百八十匁

以下ナルトキハ梅雨期以後土用中ニ於テ變質スト云フ

尙夏越米ノ多少ハ地方産米ノ貯藏力ヲ示シ、且需要供給ノ上ニ重要ナル關係アルヲ以テ左ニ其ノ大樣ヲ述フヘシ、但シ調査ノ便宜上各縣ノ輸出米ヲ標準トシタルモ輸出米必シモ其ノ地方ノ産米ヲ完全ニ代表スルモノニアラサルハ勿論トス又輸出米ノ等級ハ必シモ乾燥程度ト一致スルモノニアラサルカ故ニ貯藏力ヲ論スル場合ニハ適當ヲ缺クノ嫌アリ、然リト雖輸出米ハ販賣米ノ一部ニシテ乾燥ハ輸出檢査調査事項トシテ重ク考慮サルル以上大體ニ於テ輸出米ヲ標準トシ大過ナカルヘシ
因ツテ右ノ程度ニ於テ地方産米ニ付大體ヲ觀察スレハ左ノ如シ

鹿兒島縣

大正元年ヨリ同三年ニ至ル三ヶ年平均生産檢査總俵數ニ對スル同平均不合格俵數ノ割合ハ五分六厘ナリ而シテ合格米ハ全部夏越シ得ルト云フ、不合格米ハ乾燥不良ニシテ梅雨前ニ米質惡變シ且蟲害ヲ蒙リ到底梅雨期ヲ經ル能ハス甚シキモノハ腐敗スルモノスラアリト云フ

熊本縣

輸出檢査等級ハ一等ヨリ五等、等外ヲ合格トシ、之レニ對シ不合格アリ、大正元年ヨリ同三年ニ至ル三ヶ年平均輸出檢査總俵數ニ對スル同平均四等米以下俵數ノ割合ハ約二割、又五等米以下俵數ノ割合ハ五分ナリ而シテ三等級以上ハ二ヶ年貯藏サルル由然ラハ四等米以上ハ夏越ニ差支ナカルヘシ

福岡縣

輸出檢査等級ハ一等ヨリ三等ヲ合格トシ、之ニ對シ不合格アリ、大正元年ヨリ同三年ニ至ル三ヶ年平均輸出檢査總俵數ニ對スル同平均不合格俵數ノ割合ハ僅カニ一分ナリ而シテ三等米以上ハ夏越ニ堪ユト云フ

山口縣

輸出檢査等級ハ特等一等、二等、不合格ナリ

大正元中ヨリ同三年ニ至ル平均三ヶ年輸出檢査總俵數ニ對スル同平均不合格俵數ノ割合ハ八分八厘ナリ而シテ二等米以上ハ夏越シ得ルト云フ

兵庫縣

輸出檢査等級ハ合格ノ一等ヨリ三等迄及不合格ナリ

大正元年ヨリ同三年ニ至ル三ヶ年平均輸出檢査總俵數ニ對スル同平均不合格俵數ノ割合ハ四分五厘ナリ而シテ三等米以上ハ夏越ニ堪ユト云フ

鳥取縣

輸出検査等級ハ一等ヨリ五等、格外及不合格アリ

大正元年ヨリ同三年ニ至ル三ヶ年平均輸出検査總俵數ニ對スル四等米以下俵數ノ割合ハ五割五分ヲ占ム而シテ三等米ヲ中米トス因ツテ察スルニ約五割ハ夏越困難ナルニ非サルヤ

石川縣

本縣産米ノ三割ハ夏越困難ナリ(梨谷農商務局調査)

大正元年ヨリ同三年迄ノ三ヶ年平均數字ニヨリ輸出検査合格米ハ全部、産米検査ニ於テハ六割八分夏越シ得

富山縣

本縣産米ノ五割ハ夏越困難ナリ

但シ本縣内ニ於テモ吳山以西産米八十二萬石中約八割ハ夏越困難ニシテ又吳山以東産米七十二萬石中約二割ハ同シク夏越困難ナリ(同上)

新潟縣

輸出検査等級ハ一等ヨリ五等及等外ナリ

大正元年ヨリ大正三年ニ至ル三ヶ年平均輸出検査總俵數ニ對スル同平均三等米以上俵數ノ割合ハ一割三分ニ過キス而シテ夏越ヲナシ得ルモノハ三等米以上及四等ノ一割ナリト云フ然ラハ大半ハ夏越困難

ナルモノナリ

山形縣

輸出検査等級ハ一等ヨリ四等及等外ナリ

大正元年ヨリ同三年ニ至ル三ヶ年平均輸出検査總俵數ニ對スル四等米以下俵數ノ割合ハ四割三分ナリ而シテ夏越ニ堪ユルモノハ三等米以上ナリト云フ但シ本縣ハ古來ヨリ産地ノ地勢並ニ其ノ米質ニヨリ産米ヲ三ツニ區分ス即チ飽海郡及東西田川郡産米ヨリナル庄内米、最上郡及東西北村山郡産米ヨリナル村山米及東西南置賜郡産米ヨリナル置賜米之レナリ而シテ之等ノ米ハ地勢上及農事改良程度ニヨリ米ノ品質ヲ異ニス即チ庄内米ハ地ノ利ヲ占ムルカ上ニ乾燥良好、米質優良ニシテ統一シ村山米ニ比シテ冬期石四、五十錢、夏期一圓五十錢乃至二圓ノ差格アリ又置賜米ハ乾燥ノ點ニ於テ第三位ニアリ故ニ庄内米ヲ以テ山形ノ米ヲ論スル能ハサルナリ

秋田縣

輸出検査等級ハ一等ヨリ四等、等外及不合格ナリ

大正元年ヨリ同三年ニ至ル三ヶ年平均輸出検査總俵數ニ對シテ二等米以上俵數ノ割合ハ約二割三分ナリ又三、四等米以上俵數ノ割合ハ七割八分ナリ而シテ夏越米トシテ確實ニ保證サルヘキモノハ本莊米三等以上及二等米以上ナリト云フ

本縣ノ産米狀況ハ山形縣ト同シク三ツニ區分セラル即チ由利郡産ノ本莊米、仙北郡平鹿郡雄勝郡等ニ産スル仙北米及八郎瀨附近ニ産スル地廻米ナリ而シテ乾燥品質ヨリ見レハ本莊米地廻米仙北米ノ順序ナリ、從テ價格モ出來秋ニ於テ本莊米ハ地廻米ニ比シテ八十錢乃至一圓ノ高價ニシテ地廻米ハ仙北米ニ對シテ二十錢乃至五十錢ノ開キアリ故ニ羽後ノ米ハ概シテ乾燥不良ナルハ爭フヘカラサルモ一律ニ論スル能ハサルナリ

青森縣

輸出検査等級一等ヨリ四等迄等外及不合格ナリ

大正元年ヨリ同三年ニ至ル三ヶ年平均輸出検査總俵數ニ對シ同平均三等米以上ノ俵數ノ割合ハ二割七分ナリ而シテ夏越米タリ得ルモノハ三等米以上ナリト云フ、然ラハ玄米ノ大部分ハ夏越ニ適セサル米ナリト云ハサルヘカラス、之ヲ事實ニ徵スルニ輸出玄米ハ殆ント五月迄ニ出拂フモノノ如シ、青森縣輸出米(津輕米ニ限ル)ハ其ノ額約二十萬石ニ上ルト雖其ノ約九割ハ白米トシテ北海道ニ移出サルカ故ニ玄米輸出量甚タ尠キナリ從ツテ前述ノ夏越米割合ハ販賣米全部ニ對シテ必シモ適用スヘキモノニ非ラサルヘシ、前述ノ如ク玄米ハ大部分白米トシテ六月迄ニ輸出サルヘク而シテ六月以後ハ輸出検査總數ノ二割ヲ占ムル、今摺米ヲ精白シタル白米カ輸出米ノ大部分ヲ占ルヘシト想像セラル、前述ノ如ク青森縣ハ白米輸出ノ盛ナル結果時トシテ白米貯藏行ハルルニ至レリ、白米貯藏ハ俵裝貯藏ニシテ何

等玄米貯藏ト異ル處ナシ其ノ貯藏力モ大差ナク蟲付及臺付米アルタメ輸出ノ際ニハ解俵シ米ヲ篩ニ通シ小米、糠及蟲喰粉ヲ分チ樹ヲ更メテ輸出ス

宮城縣

輸出検査等級ハ一等ヨリ四等迄及不合格ナリ

又生産検査等級ハ上、並、等外ノ三階級ナリ而シテ輸出米中最多數ヲ占ムルモノハ三等米ニシテ夏越米トシテハ三等米以下困難ナリト云フ、今輸出検査ノ成績明カナラサルニヨリ生産検査成績ニツキテ之ヲ見ルニ若シ輸出検査三等及四等米ハ生産検査並米ヨリ來ルト假定セハ大正元年ヨリ同三年ニ至ル三ヶ年平均生産検査總俵數ニ對スル同平均上米俵數ノ割合ハ二割五分ニシテ即チ他ノ七割五分ハ夏越困難ナリト云ハサルヘカラス

由來宮城縣産米ハ本石米トシテ市場ニ現ハルルモ其ノ産地ハ三ツ或ハ二ツニ區別サル即チ小牛田町及古川町ヲ中心トシタル名取平野及南部ノ亘理平野或ハ之レニ加フルニ其ノ中間地方ナリ而シテ就中亘理米ハ品質最モ良好ナリト云フ

福島縣

本縣ハ米穀検査ヲ行ハサルカ故ニ具體的ニ説明シ得サルモ地勢上又輸出狀況ヨリ察スルニ乾燥不良米多キカ如シ本縣米産地ハ大體ニ於テ濱三郡(相馬米)、中通リ及會津ヨリ成リ乾燥ノ點ハ濱三郡最良好ナリト云フ

栃木縣

輸出検査等級ハ一等ヨリ四等及等外ナリ
 大正元年ヨリ同三年ニ至ル三ヶ年平均輸出検査總俵數ニ對スル同平均三等米以上俵數ノ割合ハ五割六分ナリ而シテ三等級以上ハ夏越ニ堪ユルト云フ

本縣ニ於テハ安蘇郡、足利郡及都賀郡地方ニ産スルモノ乾燥良好ナリト云フ
 右ハ各地方米穀検査所長或ハ監督員ノ明言スル處ニシテ各地方ノ現在ノ米質、倉庫、監理法ニ於テ安全ニ夏越シ得ラルル範圍ナリト云フ意義、換言スレハ右ノ保證ヲ得サル米ト雖必シモ夏越シ得サルニ非ラス只タ米質ヨリ推論シテ困難ナリト云フ意義ニ於テ大樣信據スルニ足ルモノト信セラル
 更ニ簡約ニ右ノ範圍ヲ表示スレハ左ノ如シ

縣名	生産検査總俵數	輸出検査總俵數	總俵數ニ對ヘル夏越米 俵數ノ割合	備考
	(大正元年ヨリ同三年ノ三ヶ年平均)	(大正元年ヨリ同三年ノ三ヶ年平均)		
鹿兒島縣	一〇四、三四八	三七四、〇七	九割四分四厘(産生)	
熊本縣	四六、五九七	一三五、七六九	九割五分	生産検査ヲ行フモ他縣ト意味ヲ異ニス
福岡縣	二四九、〇四二	三〇二、六二六	九一分二厘	但馬地方ハ検査ヲ行ハス
山形縣		六〇、九一九	九割六分五厘	
兵庫縣		一一八、二三四		
鳥取縣		二四、二二六	五割	熊本縣ト同様

縣名	生産検査總俵數	輸出検査總俵數	總俵數ニ對ヘル夏越米 俵數ノ割合	備考
	(大正元年ヨリ同三年ノ三ヶ年平均)	(大正元年ヨリ同三年ノ三ヶ年平均)		
石川縣	一六、二九七	三九、二五九	六割八分(生産検査)	
富山縣	三、三三三	八〇、六一九	割(全)	
新潟縣		一四、五八五	割(?)	生産検査ハ本年度ヨリ
山形縣		三三、九六五	五割七分(庄内米ヲ除ク)	生産検査ヲ行ハス
秋田縣	一八、〇三九	二七、九六三	二割三分(三等米ヲ加テ)	
青森縣		五、四三〇	二割七分	
宮城縣	一三、九一三	七、八六二	二割五分	
栃木縣	二〇、七二五	七〇、三九九	五割六分	生産検査ハ本年度ヨリ

備考 輸出検査俵數中今摺米含マルルカ故ニ右ノ割合ハ殊ニ東北地方ニ於テ事實ヨリ少カルヘシ

右表ニ因ツテ明カナル如ク九州地方及山陽地方ノ産米ハ概シテ乾燥良好ニシテ輸出検査總數ノ約九割五分迄夏越シ得ルモ山陰地方北陸地方及東北地方ノ産米ハ概シテ乾燥不良ニシテ夏越シ得ル米尠ク殊ニ北陸地方ニ著シキヲ見ル市場ニ於ケル所謂軟質米ハ三陸兩羽ノ産米及北陸地方ノ下級米ヲ指シ又乾燥程度ノミニ付北陸産米ト東北産米トヲ比較スレハ後者ノ方劣ルト云フ言ト全ク一致ス

第三項 白米ノ場合

普通白米トシテ貯藏スル場合ニハ春搗乃至土用搗ヨリ寒搗最モ貯藏ニ耐フト稱セラル、從來一般エ行ハルル白米ノ貯藏慣行ハ主トシテ勢力ノ調節ニ由來スルモ其ノ寒搗米ハ同時ニ貯藏力ニ富ムモノナリ

然リト雖實際ニ於テ一ケ年分ヲ寒搗トスルモノ少ク多クハ農繁期迄ノ分ヲ貯藏スル所以ハ目的ノ一半ヲ達スルニモヨレト多少ノ蝕害ハ免ヌカレサル上食味減退スルカタメナリ、甚シキ場合ニハ俵ノ内部ニ酸酵作用ヲ起シ爲ニ變質スト云フ
特殊ノ貯藏法トシテ鹽、藁灰等ヲ混スルハ米質ト幾何ノ關係アルカ不明ナリ
尙今摺米ハ直チニ白米トナセハ却ツテ長ク保存サルルト云フ

第三節 貯藏ト容量及重量ノ變化

第一項 粳貯藏ノ場合

粳貯藏中ニ於ケル容重量ノ變化ハ玄米程著シカラサルカ如キモ多少ノ増減アルヲ普通トス、鹿兒島縣ニ於ケル實驗ノ一例ニ依レハ氣温ノ上昇ト共ニ濕氣ヲ吸收シテ膨脹増量スルカ如シ而シテ減量ノ方ハ最初ノ一、二年ハ比較的著シキモ其後ハ大差ナシト云フ、之レ其ノ減損ノ理由主トシテ乾燥ニ因リ蝕害ニ因ルモノ極メテ微細ナルカ爲ナリ、概シテ最初ノ一年目ハ三分乃至五分位減損スルモノ普通ニシテ稀ニ一割位減損スルモノアリ而シテ其後ハ毎年二分位宛減シ五ケ年間ニ於テハ約二割位減スト云フ、尙減損歩合ハ乾燥ノ良否ニ依リテ大ニ異ルハ右ニ依リテ明カナルモ又年柄ニヨリテモ差アリ、即チ豐作ノ生産粳ハ久シク貯藏スルモ變質少ク凶作ノモノハ割合大ナリ、又概シテ俵積ハ散積ヨリ風通良好ナルヲ以テ乾燥ニ依ル減量ハ多カラシモ蝕害ニ依ル損失少キ爲結局減損少シト云フ

尙地方ニ於ケル意見乃至成績ノ概要左ノ如シ

秋田縣(感恩講ニ於ケル調査)——大ナル減損ヲ認メス、鼠蟲ノ害ナク單ニ乾燥ニ因ツテ僅カニ數量ヲ減スルコトアリ

宮城縣——初一ケ年ハ三分方減損シ其後ハ年々二分位宛減損スルヲ普通トス、其ノ原因ハ乾燥及蠶食害トス

長野縣——全ク減損ナク若クハ幾分ノ減損スルモ其ノ歩合ハ四分位ナリ

岩手縣——滿一ケ年ニシア約二分内外ヲ減シ二年以上ニ至レハ殆ント減損セサルヲ普通トス

青森縣——最初ノ一、二年間ハ乾燥スルカ爲約五分位減損スルモ其ノ後ニ至レハ鼠害、蝕害等ナキ限リハ減損セスト云ヒ或ハ一年間ニ乾燥ノ爲一割ヲ減ス、又五ケ年間位貯藏スレハ二割減スト云フ

富山縣——乾燥充分ナルトキハ目立程ノ減量ナシ然レトモ乾燥不充分ナルモノハ減量多シ、尙最初ノ二三ケ年間ハ減量スルモ其後ハ著シキモノナシ

鹿兒島縣——粳ヲ貯藏シテ翌年四、五月頃ニ至レハ漸次空氣中ノ濕氣ヲ吸收シテ自然ニ膨脹シ容量及重量ヲ増シ同時ニ變質ヲ來スヲ常トス、故ニ調製ノ場合概シテ秋摺ニ比シ碎米ヲ生スルコト多ク且貯藏ニ際シ比較的變質蝕害ヲ被ムルコト甚シ、今本縣米穀検査所ニ於テ同一粳ヲ以テ貯藏セシモノト否ラサルモノトノ調製上ニ於ケル成績ヲ示セハ左ノ如シ

區別	供試量	糶一升量	玄米量	玄米一升重量	碎米量	歩糶	合糶	評價	歩精	精白
七 秋	糶 糶	100	253.5	54	39.3	1.3	54.0	20.50	9.5	9.5
月	糶	103	254.3	49	37.9	9.1	47.5	19.65	9.2	9.2

備考

- 一、供試品ハ神力種
- 一、量リ方ハ一斗ヲ三回量リテ平均シ後一升ニ換算セリ
- 一、供試品ハ農事試験場ノ土藏ニ俵装シテ貯藏セリ
- 一、供試糶ハ普通熟期ニ刈取り七日間架乾シ扱落後糶ヲ更ニ二日間筵乾ニシ各一石ヲ用意シ一ヲ秋摺ニ一ヲ七月ニ調製檢量シタルモノナリ
- 一、檢量後ノ玄米ハ何レモ八月迄貯藏シ置キ評價ト共ニ精白ノ調査ヲナセリ
- 一、本試験ハ大正元年ノ産米ニテ施行シ精米器ハ電氣動力「アイデアル」式ヲ使用シ無砂搗トセリ

以上ノ試験ノ成績ニ據レハ糶カ貯藏中氣温ノ上昇ト共ニ著シク増量スルト同時ニ濕氣ヲ吸收シテ糶摺歩合ヲ悪クシ且ツ米質ヲ惡變セシムルコトヲ知ルニ足ル、尙玄米調製ノ際糶摺歩合惡シキ爲今摺ハ秋摺ニ比シ糶摺作業ニ困難ヲ感スルカ如シ

山梨縣——中巨摩郡西條村長谷川爲市氏調査

供試品種 森川種

第一 年目 (出來秋)	糶			糶ヲ玄米トセル結果			同上ヲ精白シタル結果		
	一號	二號	三號	一號	二號	三號	一號	二號	三號
一九〇	六	六	六	一	一	一	一	一	一
一九〇	六	六	六	一	一	一	一	一	一
一七八	六	六	六	一	一	一	一	一	一
一八五	六	六	六	一	一	一	一	一	一
一七六	六	六	六	一	一	一	一	一	一
一七五	六	六	六	一	一	一	一	一	一

供試品種 赤毛高砂

第一 年目	糶			糶ヲ玄米トセル結果			同上ヲ精白シタル結果		
	一號	二號	三號	一號	二號	三號	一號	二號	三號
一九五	六	六	六	一	一	一	一	一	一
一九五	六	六	六	一	一	一	一	一	一
一八五	六	六	六	一	一	一	一	一	一
一八五	六	六	六	一	一	一	一	一	一
一六一	六	六	六	一	一	一	一	一	一
一五八	六	六	六	一	一	一	一	一	一

附記

糶貯藏ノ場合ニ於ケル變化ノ重ナル理由ハ水分ノ關係ヲ主トシ蟲害及包收裝ノ關係之ニ次ク、第二年以降ハ水分ノ關係ヲ脱シ専ラ蟲害、包裝ノ關係カ重量及容量ノ減少ヲナスノ原因トナル、就中乾燥ノ良否ハ變化ニ大關係ヲ有シ又年柄ニヨリテモ差アリ即チ豊作ノ生産

品ハ久シク貯藏スルモ變質少ク凶作ノモノハ割合ニ大ナリ

廣島縣 粳、玄米共ニ古キニ從テ容量、重量共ニ減少スルノ傾アリ、但シ氣候ニ由リテハ却テ反對ノ現象ヲ呈スルコトアルハ勿論ナリ、之ヲ營業者ニ糺スニ秋季粳ヲ貯藏シ翌夏迄ノ減量ハ約一厘ヨリ一厘五毛内外ナリ、但シ秋季乾燥不充分ノ粳ヲ貯藏スル場合ニハ五―六厘位ノ減損アリト云フ

重量ニ在リテハ大正二年貯藏ノ際其初ノ重量ヲ計リタルニ一斗ニ付二貫六百匁アリシモノヲ大正五年六月調査セルニ二貫五百匁アリテ其減量ハ約四厘ナリ、

福岡縣 一ケ年ノ中ニ約百分ノ五乃至六ヲ減量ス尤モ粳ノ乾燥並ニ調製ノ程度及年柄ニ依リテ大ニ異ルナリ、樹量ノ減少ハ腐蝕及蟲害ニ依リ生スルモノニシテ俵裝貯藏ノセコ貯藏ニ比シ成績優良ナルハ風ノ流通宜シキヲ得ルヲ以テ腐蝕スルモノ尠キニ由ル

第二項 玄米貯藏ノ場合

貯藏米ハ季節ニ依リ大氣ノ影響ヲ受ケテ其ノ容量ヲ増減スルハ明カナリ但シ減損ノ場合ハ蟲害ニ因ル減量モ之レニ加ハルヲ普通トス、之等ノ増減ハ貯藏第二年目ノ夏期ニ最モ著シク其ノ後ハ長ク貯藏スルモ大氣ノ影響ヲ受クルコト少ク蟲害及自然乾燥ノ爲減量スルノミナリ

米ノ膨脹期ニ於ケル増量ハ乾燥ノ良否、充實ノ完否ニ依リテ著シク異リ其ノ他庫内ノ濕度モ關係スルト云フ、概シテ充實完全ニシテ乾燥充分ナルモノハ膨脹力強ク然ラサルモノハ膨脹力微弱ニシテ殆ト

増量ヲ見スト云フ

兵庫縣米穀検査所ノ調査ニ依レハ乾燥良好ナルモノハ四斗ニ付一升八合位、乾燥普通ノモノハ一升六合位、乾燥不良ノモノハ一升位樹量増加スト云フ、又重量モ大低容量ニ伴ヒテ増加シ乾燥良好ナルモノハ一俵十七貫前後ノモノニ對シ二百匁迄増量スト云フ然レモト七、八月ヲ過クレハ容量共ニ減少シテ十月ニ於テハ大低元樹及元重量ニ復スルカ或ハ元樹ヲ切ラスコト往々ナリ、之レ素ヨリ自然乾燥及蟲害ノ爲ナリ

尙米穀検査事業ヲ施行スル各地(二十八ヶ所)ニ向ツテ玄米貯藏中ニ於ケル樹量増減ニ關スル照會ヲ爲シタルニ其ノ成績大様左ノ如シ但シ各地共調査標準ヲ異ニセルタメ甚タ區々ナレトモ之レヲ平均セシモノハ誤ナキニ近キカ如シ(本項第十二表參照)

一、乾燥優良ノモノハ七月上旬頃ニ於テハ増減ナシト稱スル四縣及減スト稱スル大阪府ヲ除キテハ全部膨脹スト云フ、其ノ膨脹量ハ地方ニ依リ區々ナレトモ平均一石ニ付二升ナリ而シテ最多量ハ一石ニ付三升四合ニシテ最少量ハ一升ナリ

同品質ノモノカ八月下旬頃ニ至レハ増量スト云フモノト減量スト云フモノト殆ント相半シ概シテ九州四國、山陰道ノ方面ハ増量ノ方ニシテ平均、四合八勺ナリ
尙同品質ノモノ十月下旬頃ニ至レハ三ヶ所ヲ除キテ全部減量スト云フ、其ノ減量ハ平均一石ニ付四

合ナリ、而シテ最多量ハ一石ニツキ一升九合ニシテ最少量ハ二合ナリ、又増量ハ一石ニ付一升乃至五合ナリ

二、乾燥普通ノモノハ七月上旬頃ニ於テハ減量スト稱スルモノアレト増量スト稱スル方多ク平均ハ一石ニ付六合八勺ノ増量ナリ而シテ増量ノ最多量ハ一石ニ付二升六合ニシテ最少量ハ五合ナリ

同品質ノモノカ八月下旬頃ニ至レハ減量スト稱スルモノノ方多ク平均一石ニ付七合ノ減量ナリ而シテ減量ノ最多量ハ一石ニ付二升五合ニシテ最少量ハ三合五勺ナリ

尙同品質ノモノカ十月下旬頃ニ至レハスヘテ減量スト稱シ其ノ平均一石ニ付一升六合ナリ而シテ最多量ハ一石ニ付三升四合ニシテ最少量ハ四合ナリ

三、乾燥不良ノモノハ七月上旬頃ニ於テハ増量スト稱スルモノモアレト多數ハ減量スト云フ、平均一石ニ付八合ナリ、而シテ最多量ハ一石ニ付二升五合ニシテ最少量ハ一合六勺ナリ

同品質ノモノカ八月下旬頃ニ至レハスヘテ減量スト稱シ平均一石ニ付三升ナリ而シテ最多量ハ一石ニ付約六升ニシテ最少量ハ五合ナリ

尙同品質ノモノカ十月下旬頃ニ至レハ勿論全部減量ノ方ニシテ其平均一石ニ付四升ナリ而シテ最多量ハ一石ニ付一斗ニシテ最少量ハ一升二合ナリ

故ニ増量ノ期間ハ乾燥優良ノモノニアリテ八月下旬迄又乾燥普通ノモノニアリテ七月上旬迄ナリ其他乾燥不良ノモノハ七月上旬ヨリ減量ノモノ多シ

膨脹開始期モ亦米ノ乾燥程度ニ依リテ異リテ概シテ乾燥良好ナルモノハ遅ク(七、八月頃)乾燥不良ノモノハ早キ(五、六月)傾キアルカ如シ

其他腐敗、鼠害、虫害、包装等ニ依リテモ勿論減損スレトモ貯藏ニ關スル注意次第ニテ非常ナル差ヲ示スヲ以テ一概ニ言フ能ハス、然レトモ大體ニ於テ減損ノ主因ハ虫害ナリト云ヒ得ヘク次ニハ鼠害ナルヘシ、虫害ノ内ニモ種々アリテ俗稱ツ、リムシ(穀蛾?)ハ俵ノ編目及小口附近ニ侵入シテ米粒ノ糠分ヲ舐ルニ止マリ損害少ク、俗稱ヒムシ(角胸穀盜カ 或ハ鋸穀盜?)最モ蝕害猛烈ニシテ多クノ場合熱ヲ發スト云フ、又俗稱ツミ及ホリ(穀象?)ハ亦相當ニ害ヲナスト云フ、之等ノ害蟲ハ何レモ俵裝ノ場合ニハ先ツ小口ノ部分ヲ襲ヒ次ニハ俵ノ肩ニ及フモ深く浸入セサルカ如シ、吠ノ場合ニハ耳ト稱シ繩ノ掛カラザル隅ヨリ先ツ蝕害ヲ及ホスト云フ、包装ニヨル減量ハ概シテ俵ヨリ吠ノ方著シ、又俵裝ニ於テモ一重ヨリ二重、二重ヨリモ保米袋使用ノ方更ニ虫害ニ罹ルコト少キタメ從ツテ減損モ少シ(秋田縣農事試驗試驗成績參照)

倉庫ニ生棲スル鼠ハ普通ノ鼠ト二十日鼠ト稱シ形極メテ小ナルモノトノ二種アリテ普通ノ方ハ被害劇シキモ浸入ノ道ヲ絶テハ防キ得、然ルニ二十日鼠ハ全ク之ヲ絶ツコト能ハサルモ其ノ被害ハ少シト云

フ、倉庫會社ニアリテハ鼠喰ハ會社ノ負擔ナルカ故ニ極力捕鼠ニ劣力セルモ結局捕鼠係ヲ置キ彈機仕掛ノ捕鼠器ヲ以テ捕フヨリ外ニ道ナキカ如シ
各地方ニ於ケル貯藏試驗ノ成績左ノ如シ

一、鹿兒島縣米穀検査所試驗成績

玄米ハ貯藏中氣温ノ上昇ト共ニ容量ヲ増スコトハ明ナル事實ナリトス、現ニ出來秋ニ於テ包裝セシ俵米(四斗入)ハ六七月份ニ至リ優ニ一升以上ノ樹増アルヲ認ム即チ此ノ期ニ至レハ俵裝ハ膨脹ノ爲特ニ縱横繩ヲ緊括セシ如キ狀態ヲ呈シ堅固ナル俵米トナルニ至ル、而ルニ一升ノ重量ハ之ニ反シ減少スルノ事實ヲ認ム、今縣下肝屬郡產小粒二等米ニ就キ貯藏セシ成績ヲ示セハ左ノ如シ

區 別	玄米一俵容量	玄米一升重量
貯 藏 當 時	四〇〇〇 ^升	三九九 ^g
翌年五月中旬 解俵	四〇〇九〇	三九三
同 七月中旬 解俵	四一〇六〇	三八八
同 九月中旬 解俵	四一〇三〇	三八八
翌々年一月下旬解俵	三九〇九八	四〇〇

備考 供試玄米ハ秋摺米ノ同一ノモノヲ二重俵トシテ四俵ヲ同所ニ貯藏シ置キ各期ニ一俵宛ヲ

解俵調査セシモノナリ

前表ノ成績ニ據レハ玄米ハ氣温ノ上昇ト共ニ其ノ容量ヲ増加シ六七月ノ頃ニ至リ其ノ極度ニ達シ爾後再ヒ原容量ニ戻ルモノ、如シ

二、富山縣

重量ニ於テハ氣候ニ依リ著シキ増減ヲ認メサルモ容量ニ於テハ乾燥ノ良否并ニ倉庫ノ如何ニ依リ一定セサルモ三月初旬ヨリ追々増加シ始メ七月末頃ニ至リテ止ム、八月初旬ヨリ漸次減リ十月ニ及ヒテ止ム其ノ量ハ增加期ニ於テハ百分ノ一、二乃至百分ノ三即チ四斗ニ付テハ五合乃至一升二、三合減量ハ百分ノ二・五乃至百分ノ五即、一升乃至二升ナリトス

三、防長米同業組合、調査成績

玄米ノ貯藏ニ依リ容量重量ニ如何ナル影響アルカヲ研究セン爲本組合ハ大正二年產米ニ付玖珂郡柳井、吉敷郡小郡、大津郡日置村ノ三ヶ所ニ於テ大小粒各等級ノモノニ俵宛ヲ貯藏シ調査セリ其ノ成績左ノ如シ(百分比)

	總 重 量	容 量	一斗重量
十二月	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇
三月	一〇〇〇・六八	一〇一〇・二	九九・七三

五月	一〇〇・七二	一〇一・七三	九九・〇七
七月	一〇〇・五六	一〇二・八六	九七・八〇
九月	九八・九〇	一〇一・二五	九七・九三

四、秋田縣玄米貯藏試驗

由來本縣產米ノ缺點ハ乾燥ノ不良ニシテ長期ノ貯藏ニ堪ヘサルニ在リ曾テハ秋田腐米ト蔑稱セラレシモノ實ニ此ニ原因ス、依テ縣ハ曩ニ水稻乾燥規則ヲ設ケ之レカ實行ヲ勵行シタル以來漸次改善ノ域ニ進ミツツアリト雖豫期ノ實績ヲ見ル前途尙遠遠ノ感アリ、然リ而シテ米質腐敗ノ程度ハ貯藏ノ場所、方法及ヒ俵裝ニ關係スルモノ少ナカラサルヲ以テ之ヲ調査スルハ決シテ徒爲ノ業ニアラサルニヨリ各郡一ヶ所ニ稍々同一ノ倉庫ヲ選定シ之レニ同一等級ノ粳玄三等米三俵ツツ内二俵ハ一重俵裝トシテ貯藏シ一重俵ノ裝トシ一俵ハ二重俵裝トシテ貯藏シ一重俵ノ内一俵ハ梅雨期中最濕ノ日及秋季新米出廻期ノ二回ニ一俵ハ二重俵裝ノモノト共ニ秋季ニ至リ解俵シ變質ノ狀態蟲害ノ有無重量容量等ヲ調査シタルニ左ノ結果ヲ得タリ

調査要項

一、量目及容量ノ變動
量目及容量ハ別表ノ如クニシテ其容量ニ於ケル一重俵裝ノモノノ季節ニ依ル變動調査表ニ依レハ

其入梅中最モ濕リタル時ハ(七月中旬)厄ニ罹リテ(本縣ハ米穀ノ變質シタルヲ俗ニ厄ト云フ)米粒ノ膨脹セル爲メ概シテ増量ヲ示スニアラサレハ元量ヲ保ツ現ニ北秋田郡ノ四斗六合河邊雄、勝ノ四斗四合ヲ以テ其ノ大體ヲ知ルヲ得ヘク其ノ他ノ郡ニ於テハ多少ノ減量ヲ示セリト雖其平均ニ於テ四斗ニ對シ僅カニ一合ノ減量ニ過キス但シ仙北郡ノ二升五合ヲ減セルハ蟲害ノ甚大ナルニ基因スル例外ナリトス

九月調査ノ際ハ(秋冷ノ季節ニ入リテ新穀ノ出廻期)各郡トモ其容量ニ於テ著シク減量ヲ來シ平鹿山本ノ如ク三斗七升三合ハ減耗ノ最タルモノニシテ之ヲ全縣ヲ通シ平均スレハ三斗八升八合ニ當リ試驗供用當時ノ容量四斗ニ對シ一升二合即チ三分ノ減耗タリ是レ言フ迄モナク蟲害ニ依ルト一般ノ季節ノ變動ニ依ル結果ナラン

	一月 調査 (精)		七月 調査		九月 調査	
	量目	容量	量目	容量	量目	容量
平鹿 横手	一五七〇〇	四〇〇	一五五〇〇	三九六	一四二〇〇	三七三
雄勝 西馬	一五七〇〇	四〇〇	一五八〇〇	四〇四	一五八〇〇	四〇二
音内	一五九七〇	四〇〇	一五七〇〇	三九九	一五二〇〇	三八八
平均						

備考 一、量目ハ總テ俵裝一切ノ重量ヲ加算シタルモノニシテ剛性ハ每十粒ヲ平均シタルモノナ